No. 01

平成元年度青年招へい事業
調査団報告書

平成３年３月

国際協力事業団

RY

育　業
ＪＲ
91－702

JICA LIBRARY
1087734[8]
21968

平成元年度青年招へい事業

調査団報告書

平成３年３月

国際協力事業団

国際協力事業団
21968

平成元年度青年招へい事業

調査団報告書

1．調査団報告　ＡＳＥＡＮ諸国　Ｉ …… 1
（インドネシア、シンガポール、ブルネイ）
2．調査団報告　ＡＳＥＡＮ諸国　II …… 19
（タイ、マレイシア）
3．調査団報告　韓国 …… 31

4．調査団報告　太平洋諸国 …… 37
（フィジー、ヴァヌアツ、ＰＮＧ）

5．ＡＳＥＡＮ諸国調査団資料（和文）…… 49
6．ＡＳＥＡＮ諸国調査団資料（英文）…… 69
7．韓国調査団資料（和文）…… 91
8．韓国調査団資料（韓文）…… 111
9．太平洋諸国調査団資料（和文）…… 127
10．太平洋諸国調査団資料（英文）…… 163

1．調査団報告　ASEAN諸国　I

（インドネシア、シンガポール、ブルネイ）

平成元年度青年招へい事業計画打ち合わせ調査団報告（ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ・ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ・ﾌﾞﾙﾈｲ）

Ｉ．調査日程

２月１２日（月）	東京発（ＧＡ８７３）
	ジャカルタ着
１３日（火）	ＪＩＣＡ事務所との打合せ大使館との打合せ
	青年スポーツ省大臣表敬訪問
	青年スポーツ省関係者との打合せ
１４日（水）	内閣官房アセアン局表敬・打合せ
	調査団主催招宴
	同窓会（ＫＡＰＰＩＪＡ－２１）との打合せ
１５日（木）	ジャカルタ発（ＳＱ１５１）
	シンガポール着
	ＪＩＣＡ事務所打合せ
１６日（金）	人民協会表敬訪問
	「シ」側関係省庁との打合せ
	上野公使表敬訪問（日本大使館）
	調査団主催招宴
１７日（土）	帰国青年同窓会（ＳＡＪＡＦＡ）との打合せ
	ＳＡＪＡＦＡ主催昼食会
１８日（日）	シンガポール発（ＢＩ４２２）
	ブルネイ着
	ＪＩＣＡ事務所打合せ
１９日（月）	大使館との打合せ
	大使公邸招宴
２０日（火）	文化青年スポーツ省福祉・スポーツ局次長訪問、打ち合わせ
	文化青年スポーツ省招宴
	文化青年スポーツ省次官表敬訪問
	調査団主催招宴
２１日（水）	ＪＩＣＡ事務所報告
	大使館報告
	ブルネイ発（ＢＩ４２９）
２２日（木）	東京着

Ⅱ．調査概要

インドネシア

本調査団は、２月１３日より１４日の間、イ側本事業担当省である青年スポーツ省大臣の表敬訪問を行い、同省担当部局担当官と第２フェーズ初年度（１９８９年度）の評価及び第二年度（１９９０年度）のプログラムにつき協議を行うとともに同窓会（ＫＡＰＰＩＪＡ）幹部とも面談し活動状況につき調査を行った。

１．青年スポーツ大臣表敬

同大臣は、本計画は、イ国青年が日本の先進的社会・産業を見聞し、同世代、同分野の日本青年と交流を行うことを通じ両国の国際親善及び我国青年の意識を高揚する上で非常に有意義な計画であり、イ側としても本計画を是非とも将来にわたり継続したい。なおイ側の希望としては、イ国と他のＡＳＥＡＮ諸国の人口比を勘案すると受入人数枠がもっと多くてもよいのではないかと思うと述べた。右については調査団より、受入枠については、Ｒ／Ｄ合意に基ずき実施しており、予算の関係もあり人数増は困難である旨説明した。

２．青年スポーツ省担当部局との協議

（１）イ側よりの要望

イ．イ側担当部局の担当高官の受入につき、現プロ等日本側との調整及び合宿セミナーの実情視察を目的として、グループとは別枠での受入の可能性につき要望あったが、当事業の場合カウンターパート受入予算がないこともあり、現状では困難であり、将来の課題として考えたいむねコメントしておいた。

ロ．合宿セミナーのディスカションのトピックを早期に知りたいとの要望があり、右については、現地プログラム期間中に情報を得られれば日本側として対応出来るむね回答した。

ハ．ホストファミリーの情報について現プロ中に知りたいむね要望があったが、日本側としても努力するが、それにはイ側より青年の情報（少なくとも男女別、年令及び職業）を早期に入手する必要もある事を伝えておいた。

ニ．テーマプログラムにおいて扱われる大まかな分野について、特に人選の都合があるため予め知りたいとの要望が出されたが、日本側として通常年間受入プログラムを作成するタイミングを勘案すると困難であろうと（特に年度当初のグループ）回答したが、次年度第２陣については可能であれば早期に通知するむね回答した。（イ側詳細ペーパー別添Ｉ）

（２）８９年度評価

日本側提出の評価内容についてイ側には特に異論はなく、主な先方コメント以下のとおりであった。

イ．青年のアンケート結果において、現地プログラムと本邦共通プログラムの重複を避けるべきとの指摘が多かったが、これは、見方を変えれば同一テーマについて、イ側講師と日本側講師の異なった見解を聞けるであろうから、有益な面もあるでのではないか。

ロ．宗教面の配慮に関し、来日後最初の金曜日の大使館訪問前にお祈りをアレンジ可能か検討してもらいたい。

ハ．グループリーダーについては、日本側の基本的考え方は承知しているが、イ側としてはでき得るれば同窓会メンバーより選考すれば、より適正な人材を早期に選べるとの意見が出た。

ニ．日本語研修は、ホームステイに役立つ、より実用的なものにならないか。

（３）９０年度受入れ計画

イ側はわが方案に特に異論はなく、グループ構成の考え方については、イ側で作成しているガイダンス資料を参考にしてもらえればある程度考え方が分るのではないかと述べた。また先述のとおりテーマグループについては、大まかな分野なりとも予め知りたいと述べた。

３．内閣官房局技術協力課との協議

先方は本計画の成果を高く評価しており、第二年度計画については特段のコメントはなく、従来遅れがちであるアプリケーションンフォームの送付の遅延は極力改善を図りたいとしていた。

４．同窓会（ＫＡＰＰＩＪＡ）との面談

会長より会の活動状況、地方支部の組織状況等について報告がなされた。支部組織拡大のための予算増要望、イ側での日本青年のホームステイにおける交通手段の便宜供与の要望、同窓会メンバーの再招聘、同窓会事務所の備品整備等々各種のアイディア、希望が出された。青年団体としての活気、熱意が十分感じられ、活発な組織活動を行っていいると見受けられた。（１９８９年度活動概要別紙Ｉ）

５．大使館、ジャカルタ事務所との協議

（１）イ側の実施体制

技調委が調整機関となってはいるが、実質的には青年スポーツ省が本事業を主体的に行なっている。

（２）同窓会活動について

総会開催、生活写真展、テニストーナメント、各種セミナー当多岐に亘活動を行っており、５地方支部が設置される等活発な活動展開されている。

（３）双方向交流について

近年地方自治体及び個人ベースによる再交流が活発化しているが、イ側受入家庭と問題を生じているケースも見受けられる。しかし、来イ交流青年の受入れは歓迎するので、組織を通じた前広な連絡を希望している。

シンガポール

調査団は、２月１５日から１８日の間シンガポール側関係機関である外務省ＡＳＥＡＮ局大蔵省ＳＤＵ、文部省、人民協会及び同窓会関係者（ＳＡＪＡＦＡ）と面談し以下のとおり協議を行った。

１．８９年度プログラムの評価

（１）ホームステイ、ホストファミリーの情報のシ側への事前通報については、８８年度調査団でも提起された問題であるが、日本側としても右のためシ青年の情報入手が必要であるため、シ側はアプリケーションフォームを早期に（少なくとも１ヶ月前）送付することとし、それを受け日本側でホストファミリーの情報を通知するよう努力することで合意した。

（２）現地プログラムと本邦での共通プログラムの重複は昨年度も提示された問題であるが、日本側より８９年度では講義コマ数の変更、講義と施設見学を合理的に設定することで改善を計っている旨説明したところ、シ側より各国双方の現プロの内容を公開し調整を計ること、また講義と施設見学の調整、日本語の屋外学習の導入等８９年度で改善が見受けられると述べた。

（３）窓口機関関係者の本邦受入について、前年度調査団においてシ側より要望が出されているが、今回インドネシアにおいても同様要望がなされていることもあり、カウンターパート研修について今後の課題として検討の要があるかと思われる。

（４）第一フェーズに係る記録出版物についてシ側は今般のマニラ同窓会連絡会（ＡＪＡＦＡ）においてより具体的な提案を行い各国と協議したいとした。

（５）各グループで当初設定したテーマが、特に学生グループによく理解されなかったようだとシ側は述べた。

（６）日本側より、従来遅延しがちであるアプリケーションフォームの早期送付、グループ構成の情報の早期通報をシ側に求めておいた。

先方との協議内容は以上の通りであるが、１９８９年度のプログラムは基本的には問題なく実施され一層の改善が計られたことで双方一致を見た

２．１９９０年度プログラム

日本側より来年度受入計画について計画案に基づき説明した。

（１）シ側は１９９３年度までに公務員グループに付与すべきテーマを別紙Ⅱのとおり提示した。

（２）混成教員・学生グループのテーマについては日本側で調整してもらいたい旨シ側は要望した。

３．軍関係者の受入については、日本側の基本的立場と当面の方針を説明し先方の理解を求めたところ、とりあえず日本側のガイドラインが定められるまでは軍関係者の選考は差し控えるが、シ側としては是非とも右分野の人材を派遣したい旨述べた。

（なお、本件に関し、シンガポール、ブルネイ両公館では、少なくとも文官であれば、その受入れは全く問題ないのではないかとの非公式コメントがあった。）

４．同窓会（ＳＡＪＡＦＡ）との打合せ

会長より組織とその活動状況につき説明を受けた。同会は来たる３月宮崎及び東京に再交流ミッション派遣の企画等積極的活動を展開している。なお、９０年度同窓会予算見積書が調査団に提示され、日本側より極力早期にその可否につき回答する旨伝えた。（同窓会概要別紙Ⅲ）

<u>ブルネイ</u>

調査団は、２月１８日より２１日の間、ブルネイ側本事業担当省である文化青年スポーツ省福祉・スポーツ局担当官と第２フェーズ初年度（１９８９年度）の評価及び第二年度（１９９０年度）のプログラムにつき協議を行った。

１．文化青年スポーツ省次官表敬

本表敬において次官より、ブ側青年が特に宗教・生活習慣の異なる日本に滞在する間、日本側で適当な配慮がなされているであろうかとの質問があったが、調査団より日本側もこれは十分理解しており、しかるべき注意を払っている旨説明した。また協力隊事業等他のJICA事業についても質問があり、詳細については新設間もない当事業団事務所に照会頂くよう伝えた。

２．８９年度プログラムの評価（１）テーマグループ（テーマＡ）については、ブ側は適当な青年の人選に苦慮している、プログラム内容はブルネイの現状になるべく則したものを希望する、具体的には下記のような配慮を希望すると述べた。

・運輸施設見学は、現在公共輸送システムのないブ国の現状を勘案し、例えば路線バス・路面電車等の小規模な交通施設にしてもらいたい。
・また半導体工場等ハイテク施設そのものの見学より、高度技術がどのように経営、及び経営管理に生かされているかを見られれば有益である。（ex. ファーストフード等の大規模チェーンレストランの経営管理）
・施設見学の後には、十分な背景説明をしてもらいたい。

しかしながら本テーマグループは概有益であるとし、空港、放送局、衛星通信の見学は好評であったとしている。なお人選は、ブ国の限られた人的資源を勘案すると、次年度も複数の分野の混成（農業、工業半々）となろうと述べた。

３．９０年度受入れ計画

教員、学生グループの見学先として、９０年度は無理としても将来身障者施設を見学先に加えてもらいたいとの希望があった。また来日直前の人選変更、アプリケーションの遅延は、努力はするも卒直に言って避けられないのが現状だと述べた。

Ⅲ．関係者一覧

１．インドネシア

青年スポーツ省

大臣　Mr. Akbar Tandjung

第一補佐官　Mr. Soenaryo

第四補佐官　Mr. Djoko Budiprayitno,　Fourth Assistant to MENPORA

内閣官房ＡＳＥＡＮ局

Mr. Adik Bantarso, Chief, Division of TCDC & ASEAN Programme, Secretariate Cabinet

同窓会（ＫＡＰＰＩＪＡ－２１）

会長　Mr. Yam Hikaas

大使館

大橋書記官

２．シンガポール

外務省ＡＳＥＡＮ局

Mr. Albert Ho, Country Officer

大蔵省

Dr Eileen Aw, Social Development Unit

Ms Helen Wong

人民協会

Ms. Esther Tan, Director

Mr. Tan Kia Jin, Deputy Director

Ms Sheela Pillas

文部省

Ms Norien Johari, Head, Educational Matters

同窓会（ＳＡＪＡＦＡ）

Mr. Christopher Chan, President

大使館

上野公使

３．ブルネイ

文化青年スポーツ省

次官

福祉・スポーツ局局長　Mr. Pg Asmalee Pg Ahmad

福祉・スポーツ局局次長　Mr. Abd Rahman Hj Mohiddin

チーフコーディネーター　Mr. Hj Mohd Taib Hj Osman

大使館

米田公使

竹内書記官

戸田調査官

別紙 I

INDONESIA'S PARTICIPATION IN THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY IN 1989

The second phase of the programme which announced by the Prime Minister of Japan, Mr. Noboru Takeshita in his speech at the Heads of ASEAN meeting at Manila on 15 December 1987, in general the purpose of the programme is to encourage contact and foster better understanding between the Japanese youths and the ASEAN and Indonesia counterparts as well. The first year of the second phase of programme has been completed successfully in 1989.

1. Objectives

The general objectives of Indonesia's participation are :

a. To encourage contact and foster lasting ties between Indonesia youths and Japanese counterpasts.

b. To develop a better understanding of the people and culture of Japan.

c. To observe and learn from the working methods, ethos and environment in Japan, especially in those areas where the Japanese are much more developed than we are.

d. To discuss and share ideas on areas of similar interest with the Japanese counterparts.

2. Participants

In 1989, Indonesia sent a total of 149 participants which describes as follows:

a. Students	: 25
b. Teachers	: 24
c. ASEAN Group I (Students)	: 5
d. ASEAN Group II (Civil Servants)	: 5
e. Civil Servants	: 25
f. Group by theme : "Promotion of Agriculture and Local Industry"	: 15
g. ASEAN Group III (Civil Servants)	: 5
h. Working Youths	: 25
i. Group by theme "High Technology Industry in Japan"	: 15
j. ASEAN Group IV (Teachers)	: 5

3. Organization

The implementating agency of the Friendship for the 21st Century in Indonesia is the office of the State Minister for Youth Affairs and Sports. The office has organized the organizing committee for the implementation of the programme in Indonesia.

The organizing committee is consist of the staffs of the office of the State Minister for Youth Affairs and Sports, relevant institutions and Indonesia Alumni.Association (KAPPIJA-21) as well.

This organizing commettee is making the planning based on the invitation letter from JICA (e.g. making matrix), sending invitation to 27 provinces, selecting the applicants, manage the pre-departure training programme, hold the two days evaluation after coming from Japan and monitoring feedback from participants.

4. Evaluation

The 1990 programme has been successfull in more promoting friendship mutual understanding between participants and Japanese counterparts. Our partisipants have also benefitted through the exposure to the work ethics and productivity movement in Japan.

Nevertheless, we noted some views for improvement in the next programme, such as :

a. Earlier dispatch of topics of discussion in order to make better preparation of the participants before leaving for Japan. And, we need the result of each discussion in Japan in order to make improvements of the Indonesia youth problems.

b. We need information of the host family in advance. Hopefully, through this information, the participants could make a better adaptation during their homestay programme.

c. As the group by theme is the new group in this second phase of the programme, we need information and explanation of this theme group.

d. Evaluation through observation the implementation programme in Japan by Indonesia implementing agency is needed. Through this observation we can get some useful evaluation in order to make improvement of preparation programme in Indonesia we purpose, through JICA assistance, send an evaluation and observation team to Japan during the period of visit to discuss with Ministry of Foreign Affairs JICA Tokyo office, one of the organization which serve the programme (e.g. WYFEA), Japanese counterpart, participants from ASEAN countries, one of host family, and some visit places.

Jakarta, February 1990

The Fourts Assistant to Ministry
for Youth Affairs and Sports,

D. Budiprayitno

KAPPIJA-21

KAPPIJA'S ACTIVITIES

ORGANIZATION

The KAPPIJA 21 which established in March 18, 1985 has been strengthening the friendship tied existing between the youth of Indonesia and Japan and of promoting their cooperation, subtitution of Board members has been made periodicaly. And throughout the General Meeting which held in Ciawi, West Java, we agreed that: Guide lines, program activities, organization recomendation should be made as a basic for the organization to anticipate any aktivity related to the prosperity of both Countries Indonesia and Japan.

According to the regulation and guide lines of KAPPIJA 21:

1. KAPPIJA 21 should take part and active involve in youth National Development.
2. To play role in the National Development by practising the experiences that they gained during their visit in Japan.

The head office of KAPPIJA 21 is in Jakarta and the status of the Organization is independent, without distinguisihing the race religion and culture. And the highest sovereignitylays on the members and should be implemented through member deliberation.

Decision made by member deliberation will be the responsible of the head office, as follows:

1. Head Office of KAPPIJA 21 is the highest executive body and has a collective charafteristic.
2. Head Office will responsible for the ratification of Provincial Agency.
3. Head Office will represent on behalf of the Organization to attend any kind of activities abroad.
4. Head Office has to hold the regulations stated in the Guide Lines.

Sekretariat Graha Pemuda, Lt VII, Jalan Gerbang Pemuda 3 Senayan, Jakarta 10270
Telp 588310 – 588319 Pes. 350

5. Head Office will be responsible to submit results made by the member deliberation.

6. The Head Office will justify the program actifities at the member deliberation.

Subtitution of Board Member will be in every 2 year at the Head Office as well as Provincial Agency.
Up to now there are 5 (five) provincial Agency established and that is in: Aceh (North Sumatra), West Sumatra, Lampung, Yogyakarta and Irian Jaya.

For the smoothness of Program activities, the State Minister for Youth Affairs and Sports has provided a room at "Graha Pemuda Building".

Implemented Programs in 1989 - 1990

1. Publication of "PERSAHABATAN 21" (FRIENDSHIP 21) magazine, which covered information about Japan and KAPPIJA 21 it selves, as much as 1.000 copies.
2. Recomendation for the member to follow P-4 course (Pancasila Course) as the ideology of our nation.
3. Recomendation for the member to follow National Resilience Course.
4. To give recomendation for the member to participate the "skill Youth Course".
5. Involved in the "Youth Pledge Day" Photo Exhibition.
6. Organizing "Indonesia - Japan Study and The 21st Century" from July – August 2, 1989.
   Which discussed history, economy, politic and religion of Japan, relationship between Indonesia and Japan and also Pacific Region in the future.
   The study were attended by 70 participants from different background, youth organization and University Students.
   The participants were given Certificate approved by the State Minister for Youth Affairs and Sports and the Ambassador of Japan.
7. Organizing Open Tennis Tournament for the employers of Japanese and Indonesian Company, opened by a friendship competition between the State Minister and Ambassador of Japan.

8. To run a Seminar and Organization Consolidation which attended by ± 100 participants of 12 provinces from all over Indonesia.

9. To organize a Japanese language course for the member.

10. Play an active role in the "Pre Departure Training"
日本に対する理解を深めるトレーニング（海外青年協力隊を含む），又日本の文化，社会に対する理解

11. Providing "Home Stay Program" for the Japanese youth who visit Indonesia.

Planning of activities scheduled for the year 1990 - 1991

1. Indonesia - Japan Study and 21 Century II.

2. Open Tennis Tournament II.

3. Annual member deliberation.

4. "PERSAHABATAN 21" magazine II.

5. To run a KAPPIJA 21 Foundation.

Program scheduled for the Provincial Agency are as follows

1. A Seminar about "The Japanese investment" in East Indonesia

2. A Seminar about "The Japanese Investment" in Aceh.

3. KAPPIJA 21 Photo Contest

4. "FRIENDSHIP AND JAPANESE CULTURAL WEEK"

5. A Seminar about "Japanese Tourisme"

Financial Recources

- Membership fee (mounthly)
- Financial assistance from youth minister
- Volunteer contributions.
- J I C A

As we informed the activities of KAPPIJA 21, herewith we wish that we might enhance the cooperation, understanding, friendship, share and respect with and among us.

Thank you.

SAJAFA-21

The logo of SAJAFA-21 comprises the lion symbol and the symbol of the ASEAN-Japan Friendship Programme for the 21st Century.

The lion symbolises courage, strength and excellence. It is depicted in solid red against white background : the colours of the Singapore flag. The mane divides into five segments which represent the nation's five ideals: democracy, peace, progress, justice and equality. The lion's face is fixed unswervingly on the tasks at hand and beyond to the future. That in itself is symbolic of our nation's single-minded resolve to face any foe and overcome any obstacle.

This is the symbol of the ASEAN-Japan Friendship Programme for the 21st Century.

Objectives of SAJAFA-21

The objectives of SAJAFA-21 are three-fold:

1. To provide a platform for social and other interaction amongst the Singapore participants of the ASEAN-Japan Friendship Programme for the 21st Century.

2. To maintain liaison with similar associations in other countries.

3. To foster ASEAN-Japan understanding through social, cultural and educational activities.

How the Alumni began

Many an ex-participant of the Friendship Programme reminisces the good old times they had in Japan. It took seven men and three ladies, all former participants of the Friendship Programme to germinate the idea of forming a club for all ex-participants. The club will serve as an outlet for members to renew and strengthen old ties formed in Singapore and Japan. It will also enable members to make new friends with those in the Alumni and their Japanese counterparts. Together these seven men and three ladies formed the pro-tem committee to work out the details of forming an Alumni.

The Birth of SAJAFA-21 ....

At the 3rd Executive Committe election in April 1988, proposal to adopt a new name - SAJAFA-21 was passed. The proposal to amend the term of office of the Executive Committee from one to two years was also passed. The two-year term of office would be effective at the next Annual General Meeting.

The Executive Committee

The 4th Annual General Meeting was held on 25 February 1989 at the Mandarin Hotel. Mr Christopher Chan was re-elected President of the Executive Committee for the Association.

The new office-bearers for the two-year term are:

President:	Mr Christopher Chan	Youth Leaders/1986
Vice-President:	Mr Harbans Singh	" /1985
Secretary:	Ms Jessie Tan	" /1985
Assistant Secretary:	Ms Sukhvinder Kaur	" /1985
Treasurer:	Ms Doris Tan	Civil Servant/1985
Assistant Treasurer:	Mr Philip Yeo	Youth Leaders/1987
Committee Members	Ms Tina Wong	Working Youth/1984
	Mr Wong Peng Kuan	" /1984
	Mr Woo Sui Kee	Youth Leaders/1985
	Mr Chow Yew Cheong	" /1985
	Mr Ivan Soh	Students/1988
Auditors:	Ms Sheela Pillai	Youth Leaders/1988
	Mr Yu Tor Chew	" /1988

With the increasing number of activities organised every year, the Executive Committee felt that a fixed number of elected members would be unable to cope with the increased activities. An idea was mooted of having Associate Committee Members to help the Association.

The following are our active Associate Committee Members:

Mr Simon Lee	Students/1986
Ms Sant Kaur	Youth Leaders/1985
Mr Koo Yuan Hsin	" /1986
Mr Ashvinkumar	Students/1987
Mr Goh Lam Kiong	Civil Servant/1988
Ms Maureen Teo	"
Ms Annette Soh	Youth Leaders/1988
Mr Lum Meng Pow	Working Youths/1988
Mr Lim Tat	Students/1988
Mr Lui Seng Fatt	Youth Leaders/1985
Mr Manjit Singh	Students/1988
Mr Abdul Wahid	"
Mr Anbu Ganesh	Students/1989
Mrs Sharon Wong	Youth Leaders/1986

THE ASEAN-JAPAN FRIENDSHIP ASSOCIATION FOR THE 21ST CENTURY, SINGAPORE

ACTIVITIES FOR 1990

Regional ASEAN-Japan Friendship Association Meeting in Manila, Philippines

Photography Competition

Study Mission to Miyazaki Prefecture

Pre-Departure Orientation Programme for Teachers, Students & ASEAN Component (teachers and students)

Welcome Back Tea for Teachers & Students

Get-together for ex-participants of 1984 & 1985

Pre-Departure Orientation Programme for Civil Servants(I) & Working Youths

Welcome Back Tea for Civil Servants & Working Youths

Get-together for ex-participants of 1986 & 1987

Pre-Departure Orientation Programme for Civil Servants (II), Youth Leaders & ASEAN Component (Civil Servants)

Welcome Back Tea for Civil Servants & Youth Leaders

Visit by Numazu Fureal Committee

※ Youth Camp (JAPAN 5-ガ月 ASEAN 30) 平成10月中旬 5日間程度 研修等を兼ね 市内・他県にて計画

Visit by Miyazaki Youths

Bowling Competition

Visit by JICA Aftercare Team

Dinner & Dance 1990

ASEAN JAPAN FRIENDSHIP PROGRAMME
THEME FOR CIVIL SERVANTS GROUP

Proposed Re-grouping

Year	Specialised Group
May/June 1990	Computer
Aug/Sept 1990	Communications
May/June 1991	Engineer/Technical
Aug/Sept 1991	Public Administration
May/June 1992	Finance/Business
Aug/Sept 1992	Health
May/June 1993	Engineer/Technical
Aug/Sept 1993	Computer

2. 調査団報告　ASEAN諸国　Ⅱ

（タイ、マレイシア）

調査団報告書

１．案件名　　平成元年度青年招へい事業打合せ調査（タイ、マレイシア）

２．派遣目的　　平成元年度におけるタイ、マレイシアからの青年招へい事業についての評価及び平成２年度計画に関する打合せ

３．派遣期間　　自　平成２年３月１１日
　　至　平成２年３月１７日

４．団員構成　　田上　実　（団長）
　　国際協力事業団　青年招へい業務室長
　　居崎　司
　　世界青少年交流協会　事務局次長
　　青山　富士弥
　　勤労厚生協会　専務理事
　　豊福　親慶
　　国際交流サービスセンター

５．調査日程

３月１１日（日）	出発
３月１２日（月）	ＪＩＣＡタイ事務所との打合せ 総理府青年局（ＮＹＢ）との打合せ
３月１３日（火）	ＪＩＣＡ事務所、大使館への報告
３月１４日（水）	移動（ﾊﾞﾝｺｯｸ ｰｸｱﾗﾙﾝﾌﾟｰﾙ ） ＪＩＣＡマレイシア事務所との打合せ
３月１５日（木）	人事院（ＰＳＤ）との打合せ 同窓会、早大ASEAN 視察団等との交歓会
３月１６日（金）	ＪＩＣＡマレイシア事務所、 大使館への報告
３月１７日（土）	帰国

６．業務内容

<タイ、ＮＹＢとの打合せ>

１．現地プログラムについて

（１）期間

Ｑ．　現状では日程がタイトであるので半日間延長したい。又日本側がコーディネーターによるプログラム説明の時間増を要望するのであれば期間を６．５日間としたい。

Ａ．　６日間での実施は他のＡＳＥＡＮ地域とのバランスから問題はないが、６．５日間となると宿泊費等経費の増額が予想されるので検討する。
（結果は６日間の予算の範囲で対応して欲しい旨回答）

（２）日本語学習用機材の供与について

Ｑ．　参加青年の日本語学習効果を高めるためのラボ設備等供与（約４００万円相当）を検討して欲しい。

Ａ．　今後検討するも来年度での対応は不可能
日本語学習を重視するタイ側の姿勢は評価するも現状計画では使用計画、カリキュラム、講師、使用頻度等が不明瞭である。　取りあえずは現在の教材により現地プログラムの中で日本語指導を充実させるようにして欲しい。

２．滞日プログラムについて

（１）研修的要素

Ｑ．　友情計画のこれまでの効果は評価するも今後更にタイ国内で優秀な青年を参加させ、事業の効果を高めるにはプログラムをより研修的要素の強いものにして欲しい。

Ａ．　友情計画というフレームの枠内ではテーマ方式の導入等によりこれまでも研修的要素を加味するよう努力はしている。　ただし研修的な側面を充実するにあたって最も重要な点は参加青年の資格要件（分野、経験年数、、英語能力、目的意識等）なので青年を送りだす側でもこの点十分努力して欲しい。

Ｑ．　施設見学等においてもう少しメリハリをつけ、重点場所では説明時間、見学時間を長くする等の配慮を願いたい。

Ａ．　現行プログラムの枠内で検討する。

（２）ＡＳＥＡＮ青年間の交流

Ｑ．　滞日プログラムの中でＡＳＥＡＮ間の青年の交流の場を多くして欲しい。又、ＡＳＥＡＮ各国の同一分野の青年を同一時期に招へいすることを要望する。

Ａ．　セカンドフェイズではＡＳＥＡＮ混成グループを従来の公務員２グループに、教員、学生を加え４グループとする等の配慮を加えている。ただし同一分野の青年を同一時期に揃えることは各国の要望、受入側の制約条件等の問題があり困難である。

３．その他

（１）日本・ＡＳＥＡＮ会議の開催

Ｑ．　現在二国間で実施している評価及び計画打ち合せを日本・ＡＳＥＡＮの間で実施して欲しいと言うのが、ＡＳＥＡＮミーティングでの要望であり、日本の外務省にもこの旨要請したが承認されなかった経緯があるので引き続き検討願いたい。

Ａ．　本件ＪＩＣＡでは承知しておらず又、本ミッションはその可否につき回答する立場にはない。

（２）現行ミッションについて

Ｑ．　例年派遣されるミッションの派遣時期をもう少し早期に派遣し、次年度計画をミッションと協議し決定できるよう要望する。現行では次年度計画がほぼ確定した後の協議となるためその効果が少ない。

Ａ．（ＡＳＥＡＮについてはＪＩＣＡ在外事務所を通じて十分計画調整が出来る状況にあることから今後調査団の派遣については派遣頻度、時期等を併せ検討する必要があろう）

（３）その他

タイからの招へいグループのうち一部分野については女性がほとんど参加していないケースがあり日本での交流に問題がある点を指摘したところ、タイ側からは当該分野の指導的立場にある青年を選抜することとしているので、分野（例えば青年指導者）によっては結果として女性が少くなっているのが実態であること、又日本側の要望は理解できるので、今後可能な限り改善したいとの回答があった。

＜マレイシア、ＰＳＤとの打合せ＞

マレイシア側は本事業に参加したマレイシア青年による評価が極めて高いこと、又日本人の労働倫理等を実体験できることからマレイシア政府の東方政策にも叶ったプログラムとして大いに評価しており、打合せにおいても特に問題となる点はなかった。

先方要望事項の主たる内容は以下の通りである。

１．滞日プログラムについて

（１）合宿セミナー

テーマ内容の早期通報（マ側は現地プログラム時に協議）

（２）施設見学

より青年の興味にあった見学先の選定

２．テーマ内容について

マ側としては、１９９１年度以後のテーマ内容については関係者と協議の上早い時期に、日本側に要請するので対応方願いたい。

３．アフターケア

日本青年によるアフターケアーチームの派遣は、同窓会の活動を活性化する上で有意義であり、今後より多くの日本青年を派遣するよう要請する。

４．ファーストフェーズの評価調査

本事業のファーストフェイズ５年間のマ側での評価を行うにあたりＰＳＤとＪＩＣＡマレイシア事務所共同による評価調査の実施を計画している。

ついてはＪＩＣＡからの調査経費の支援につき要望する。

（ＪＩＣＡ事務所でも初めて耳にする内容であったので、ＪＩＣＡマレイシア事務所とよく内容調査した上で正式に要請ができれば対応の可否を検討する旨回答）

５．その他

タイのＮＹＢで指摘のあった１９８９年のＡＳＥＡＮミーティングの位置づけについてマ側としては、ＡＳＥＡＮ間の意見交換の場としての認識は持っているが協議された内容について、特に各々の国が拘束されることはないと考えているとのことであった。

＜在マレイシア日本大使館との打合せ＞

（１）小池公使から本事業に対するマ側の評価が特に高い点につき、実際に交流プログラムの運営に携わる実施協力団体の努力によるものとして、謝意が表明された。
又、参加マレイシア青年が日本での生活習慣に慣れるため、現プロ実施施設内に、日本家庭のモデルルームを設けたいこと、そのための機材供与を要請したい旨の発言があった。

（２）伊藤書記官から現行調査団の派遣につき、「事業の評価及び次年度計画の打合せについては、ＪＩＣＡ事務所及び大使館で十分対応可能であるところ、今後はアフターケアーチーム派遣時に受け入れ団体の関係者が同行し、実施予定の各プログラム内容につき具体的に意見交換する方法を検討してはどうか」との意見が出された。

７．主要面談者リスト

＜タイ＞

（１）ＮＹＢ

BHAKDI JUHIJUDATA	SECRATARY GENERAL
PISAEK SHOWCHAIYA	DEPUTY SECRETARY GENERAL
MALIWAN KULLARANIJAYA	DIRECTOR YOUTH COORDINATION DIV.
NIPA KLAIMONGKOL	DIRECTOR TRAINING DIV.
CHALIN MILINDASUTA	SECRETARY OFFICE OF THE SECRETARY
SANEH CHANKRACHANG	CHIEF OF EXTERNAL RELATIONS
WILAILAK SIRISONGTHAM	EXTERNAL RELATIONS OFFICIAL
SUNEE PRATHOOMRATANO	YOUTH TRAINING OFFICIAL
WANCE NAMWONG	EXTERNAL RELATIONS OFFICIAL

（２）日本大使館

井原　書記官

加茂　書記官

（３）ＪＩＣＡ事務所

斎藤　所長

原　　所員

＜マレイシア＞

（１）ＰＳＤ

AZIZAN AYOB	DEPUTY DIRECTOR TRAINING AND CAREER DEVT.DIVISION
SHARIFAH NOOR AKMAL IDID	ASSISTANT DIRECTOR LOOK EAST POLICY UNIT

（２）現プロ関係者

HAJI ABD. RAZAK BIN ABDUL HAMID	工科大学講師
DR.HASSAN BIN MAD	LECTURER IN POMOLOGY UNIVERSITY PERTANIAN MALAYSIA

（３）日本大使館

小池　公使

伊藤　書記官

（４）ＪＩＣＡ事務所

岡部　所長

駒沢　次長

湊　　次長

別添資料

1. Evaluation of Friendship Programme for the 21st Century 1989 ,Thailand
2. Report for Discussion between the Japanese Consultation Team for the Friendship Programme for the 21st Century and Public Service Department ,Malaysia

Evaluation of

Friendship Programme for the 21st Century 1989

Thailand

---

1. Participating Youths

A total of 150 youths representing respective national organizations and institutions in Thailand were intensively selected and sent to Japan under the Friendship Programme for the 21st Century in 1989. A breakdown of these participants is as follows :

1.1 Group by occupational field and country (100)

(a) Working Youth (June 27 - July 27) (25)

(b) Students (June 27 - July 27) (25)

(c) Youth engaged in or related to Agriculture (August 22 - September 21) (25)

(d) Youth Leaders (October 17 - November 16) (25)

1.2 Group by theme (30)

(a) Present Condition of Hightech Industry in Japan (August 22 - September 21) (15)

(b) Promotion of Agriculture and Local Industry (October 17 - November 16) (15)

1.3 Asean component (20)

(a) Students (June 6 - July 6) (5)

(b) Civil Servants I (June 27 - July 27) (15)

(c) Civil Servants II (August 22 - September 21) (5)

(d) Teacher (October 17 - November 16) (5)

2. Orientation Programme in Thailand

A six-day pre-departure orientation programme was held in Bangkok for all participants prior to the visit to Japan. Thai youths in each group were given lectures and briefing on general

/ Knowledge .....

knowledge about Japan, relationship between Japan and ASEAN, the basic knowledge on ASEAN, practical Japanese language, socio-educational tour and briefing on the trip to Japan etc. These were basic guidelines to help and prepare the youths for a better understanding in the bilateral relations between Japan and Thailand.

3. Evaluation

According to the questionaires and the evaluation meeting held between the National Youth Bureau and the respective participating youth groups, the participants had expressed their gratitude to the Japanese Government for initiating this programme and shown their satisfactions with the programme which provided them an opportunity to meet and exchange views with the Japanese youths. The programme helped promote friendship and a better understanding between the Thai youths and their Japanese counterparts.

Followings are comments by the participants touching on Arrangements and Activities while staying in Japan.

1. Orientation in Japan

1.1 Lectures and briefings were very attractive and interesting because of audio-visual aids.

1.2 Translation had taken much time as a result for questions and answers was limited, and some technical terms had not been translated.

2. Study Tour

Sufficient time should be provided for observation/institutional visit.

3. Home-Stay

3.1 Participating youths were given very warm welcome by Japanese host families. They had given up their precious time to be with the youths and made their stay as comfortable as possible.

 / 3.2 .....

3.2 Through the home-stay programme, the participating youths had deepened their understanding of Japanese ways of life, culture, custom and traditions.

4. Meeting and Discussions with Japanese youths

4.1 Group discussion should be given sufficient time to enable the participants to achieve more concrete solutions to the problems being discussed.

4.2 Group discussion was beneficial for the participants in terms of exchanging ideas and promoting friendship and better understanding.

5. Recommendations

Interpreters during study-tour session should be provided for every Thai group.

3．調査団報告　韓国

２１世紀のための友情計画
（韓国青年招へい事業）
平成元年度評価・計画打ち合せ調査団報告書

平成２年３月１０日
青年招へい業務室

1　派遣目的

日・韓双方関係者により１９８９年度事業の評価を行うとともに９０年度の受入計画を打ち合わせる。

2　派遣期間及び日程

１月２３日（火）	１２：３０	ソウル着（ＪＬ９５１）
		日本大使館との打ち合せ
２４日（水）		文教部社会国際教育局長表敬
		社会教育振興課との打ち合せ
２５日（木）		現地社会状況視察
	夕方	文教部、帰国青年との夕食懇談会
２６日（金）		日本大使館への報告・調査結果とりまとめ
	１３：５０	ソウル発（ＪＬ９５２）

3　団員構成

(ｵｵﾊｼ　ﾄｼﾋﾛ) 大橋　敏博	総括・団長	文部省学術国際局教育文化交流室 室長補佐・海外協力官
(ｻﾄｳ　ﾀﾀﾞﾖｼ) 佐藤　忠良	分野別 プログラム	中央青少年団体連絡協議会 副委員長
(ｲｿｶﾞｲ　ﾄｼﾉﾘ) 磯貝　季典	企画・調整	国際協力事業団研修事業部 青年招へい業務室 職員
(ｳｼｵ　ｹｲｺ) 牛尾　恵子	業務調整	（財）国際協力サービス・センター 研修監理員

4．面談相手

（1）文教部　金　河　準　局長　社会国際教育局

梁　在　君　課長　社会国際教育局社会教育振興課

黄　行政事務官　〃

李　仁　植　〃　（直接の担当者）

（2）日本国大使館

鎌田　徹　一等書記官

金　哲　研究官　広報文化院

5．討議内容

２４日、本件調査団は韓国文教部に金社会国際教育局長を表敬訪問すると共に、社会教育振興課梁課長、黄事務官、李事務官と本年度計画の評価及び明年度受入計画等について協議した。（鎌田一等書記官、金研究官同席）

冒頭、わが方より、１９８９年度実施状況報告書（翻訳文を配布）に基づき実施内容（改善点を中心として）評価を韓国側に報告した。

（1）８９年事業への先方評価

日本側の評価を受けて黄事務官より次のコメントがあった。

韓国側で実施している帰国後のアンケート調査でも青年の大部分が本事業を高く評価している。毎年の日本側の事業改善努力を評価、感謝している。

本事業の計画延長の意見があるとともに、韓国側は日本青年受け入れの計画を検討中である。

（2）９０年計画への先方要望

a．グループ構成

学生（青少年活動者）	３０名
教員（中学校教師）	２０名
勤労青年	３０名
－都市勤労青年	(10)
－農村勤労青年	(10)
－科学技術分野青年	(10)
青年指導者及び関係公務員	２０名

※各グループの詳細な人選基準、人数比は未定
見学、プログラム希望については、人選終了後日本側に通知する。

b．滞日プログラム
昨年に引続き日本の大衆文化、一般庶民の生活に触れるプログラムを希望するとともに、理解を深めるために事前の説明を強化することを希望する。
合宿セミナーは討論だけでなくスポーツ交流等のあるものにしてもらいたい。
共通プログラムでは一般的な講義よりも実際現場で活躍している人の講義を希望する。
ホームステイ家庭はできるだけ青年背景に合わせて選定してもらいたい。

c．現地プログラム
昨年度よりさらに早い時期に実施することとし、青年に勉強、準備の時間を与える。

（3）その他
a．今後のスケジュール

ＧＩの送付（日本側）	２月中に送付
人選	４月中
アプリケーションの送付（韓国側） （具体的なプログラムへの希望通知）	５月上旬
日本でのプログラム送付（日本側）	６月中旬
現地プログラム	６月下旬
来　　日	７／１０（火）

b．人選に関する日本側からの要望に対する回答
(1)女性の比率を上げてもらいたい。
努力するが、もともと女性の少ない分野もある。
(2)年齢制限の厳守
引率者以外については厳守する。

4　調査団報告　太平洋諸国

（フィジー、ヴァヌアツ、PNG）

１９８９年度青年招へい事業
太平洋諸国評価および計画打合せ調査団概要報告

１．フィジー

（１）協議相手方

フィジー人事院(Public Service Commission : PSC)

Mr. Napolinoni Masirena(Depury Secretary)

Mrs. Mary Chapman(Acting Director, Training)

（２）協議内容

当方より、報告書に従い、事業の概要・経緯、８９年度の評価および９０年度の受入計画について説明した後、「フィ」側の要望を聴取した。

「フィ」側の要望として、将来的には他分野の受入も考慮願いたいとした上で、本件事業を高く評価しており、当面招へい人数を２０名程度まで増やしてほしいということが出された。また、当方の説明に答える形で、現地プログラムにおける既参加者によるレクチャーについては引続き協力する旨発言があった。

次年度計画については、分野は公務員とし、優先順位をつけ１５名程度の要請書を提出する旨発言があり、今後各省から推薦される公務員を人事院でとりまとめ、速やかにＪＩＣＡフィジー事務所へ連絡するとのことであった。

教員は９～１０月は学期中でもあり、また「フィ」側の事情もあり、当面見送らざるをえないこと。参加者の年齢については、リーダーおよびサブリーダーは３５才以上でも受入れる意向を伝えた。これに絡み、男女比に言及し、「フィ」側も女性が６名程度になるよう努力する旨発言があった。

（３）フィジー事務所との打合せ

現地プログラムの日数は８９年度と同様、しかし、丸２日実施できるようにする。

ナンディとスヴァの移動は、航空機によらず、バスになりうることがあることも了承、ただし２台にするよう申し入れた。

現地プログラムの会場は、会議室の関係でトラベロッジを使用するが、現地プログラムの前後の宿泊は、トラベロッジ横のグランドパシフィックとなる。

現地プログラムで使用する各国旗は、日本側に申請があれば送付する旨伝えた。

２．ヴァヌアツ

（１）協議相手方

①Ministry of Forign Affairs、他に人事院（総理府）等同席

Mr. William John Bunyan

Mr. Albert Willy

②Ministry of Education

Mr. Filip Mathew(Director General)

③Ministry of Home Affairs

Mrs. Janneth Bolenga(Second Secretary)

（２）協議内容

上記①と報告書に従い協議した。８９年度公務員３名、教員２名の計画に対し、公務員５名の派遣となったが、今後とも教員の派遣は難しいとのこと。ただし、９０年度の計画も８９年度の計画と同様とすることで合意した。

そのため上記②と協議したが、難しいが大臣宛にレポートを提出するとのこと。

３．ＰＮＧ

（１）協議相手方

Office of International Development Assistance(OIDA)

Delpartment of Finance and Planning

（大蔵計画省の国際開発室が対外援助の窓口として、本事業でも総括窓口となった）

その他、文部省、内務青年省関係者が出席

（２）協議内容

他の太平洋諸国に比べば多くの青年を受け入れている点を特に評価するが、今後は一層の受入枠および人数の拡大、また学生グループの新設などの要望があった。

公務員グループは当初、青少年指導にかかわる公務員ということで受入れが始まったが、むしろ青少年活動に従事するボランティア主体に派遣したいとの意向があり、次回より青年指導者グループに名称を変更することで合意した。

その他、９０年度計画については、日本側の当初案が了承された。

（３）ＰＮＧ事務所との打合せ

経費について質問があり、支度金も事務所より支払ってもらえれば、大金を持参せずよりbetterな旨説明。これに関し、別紙のデマケの提出があり、当方より回答する旨伝えた。

４．別添

経費のデマケ（ＰＮＧ事務所より提出）

面会者リスト

招へい青年への経費支給

		PNG事務所	東京本部
支度金		30，000円	
国内航空運賃		現物PTA	
国際航空運賃		現物渡し	
往路	ポートモレスビー空港税	支給せず	
	経由地空港税	実費	
	日当、宿泊料	経由地1泊につき1万円	
	経由地からホテル往復交通料	上記1万円に含まれる	
	ホテル代	同上	
日本で	食事代		現物、但し現金支給もあり（朝1100円、昼1600円、夜2000円）

	宿泊料 交通費 資料送付料 雑費 電話、クリーニング、自由時間の交通費など		現物（およそ７０００円） プログラムでの移動はすべて現物 ３０９０円 ２０６０円／日（本邦到着・出発日含む） 上記雑費に含まれる
帰路	成田空港税 日当、宿泊料 経由地からホテル往復交通料 ホテル代	 経由地１泊につき１万円 上記１万円に含まれる 同上	２０００円

１９８９年度青年招へい事業
太平洋諸国評価および計画打合せ調査団
訪問国での面接者名（フィジー、ヴァヌアツ、パプア・ニューギニア）

1．フィジー

3／9（金）

ＪＩＣＡ事務所
吉田芳夫・所長
水落俊一・所員

ＰＳＣ（Public Service Commission）
Mr. Napolinoni MASIREWA, Deputy Secretary
Mrs. Mary CHAPMAN, Acting Director

日本大使館
せんだ　・書記官
尾澤克之・書記官
新田　　・書記官

3／12（月）

ＪＩＣＡ同窓会（会食）
Mr. Lai NAULUMATUA, President　他

過去の招へい青年（夕食会）
Mr. Taniela N. VOCEVOCE, Protocol Officer (Western),
Ministry of Rural Development and Rural Housing　他別紙参照

2．ヴァヌアツ

3／14（水）

Ministry of Foreign Affairs

Mr. William John BUNYAN, Ministry of Foreign Affairs

Mr. Vanusoksok FIDELE, Radio Vanuatu Box.49, Prime Minister's Office

Mr. Kanam Wilson NAPLAUI, Senior Management Services Officer, Public Service Department, Prime Minister's Office

Mr. Philip V. WELIN, Public Service Department, Prime Minister's Office

Mr. Willie KAKAE, Public Works Department

Mr. Albert WILLY, Ministry of Foreign Affairs

Mrs. FRED

3／15（木）

Ministry of Education

Mr. Philip Mathew, Director General

Ministry of Home Affairs

Mrs. Janneth Bolenga, Second Secretary

青年海外協力隊（夕食会）

谷口・調整員

福山・隊員　他5名

3．パプア・ニューギニア

3／19（月）

ＪＩＣＡ事務所

岡崎俊夫・所長

熊野明・所員

大野政義・協力隊調整員

宮澤敏幸・協力隊調整員

日本大使館

野口安男・大使

中島栄・書記官

藤原裕・書記官

3／20（火）

Department of Finance and Planning

Mr. Francis WAGAIA, OIDA (Office of International Development Assistance)

Mr. Masanobu KIYOKA, JICA Expert, OIDA

Mr. Patrick MODAKEWAU, Assistant Secretary, Teacher Ed. Department of Education

Mr. Clant K. ALOK, Secretary, Department of Home Affairs and Youth

Mr. John MARU, Assistant Secretary, Youth

Mr. M. M. ISLAM, Director, National Youth Service

Mr. Stoney KUMALO, Director, Youth Projects

Mr. John TAU, Liaison Officer, Youth Division

3／21（水）

Department of Education

Mr. Jerry Tataga, Secretary, Department of Education

青年海外協力隊

玉腰・隊員（柔道）

5. ASEAN諸国調査団資料（和文）

「２１世紀のための友情計画」
１９８９年度調査団討議用資料

１９９０．２．９
国際協力事業団

Ⅰ．「２１世紀のための友情計画」１９８９年度事業実施報告

１．事業の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

２．１９８９年度における青年受入等の実績・・・・・・・・・・・・・・・・52

３．プログラム内容に関する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

４．日本青年等に対して与えた影響・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55

５．第２フェーズ初年度としての全体的評価・・・・・・・・・・・・・・・55

添付資料　（１）１９８９年度ＡＳＥＡＮ青年の受入実績・・・・・・56

（２）招へい青年に対するアンケートの集計結果と
日本側のコメント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

（３）第２フェーズ開始にあたり実施したプログラム
の改善策への評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

（４）招へい青年の平均年齢と男女比・・・・・・・・・・　62

ＩＩ．１９９０年度のＡＳＥＡＮ青年受入計画

１．基本的な実施方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

２．受入れスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

３．標準プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

４．使用言語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63

５．受入れ実施にあたりＡＳＥＡＮ側に要望したい事項・・・・・・・・64

添付資料　（１）１９９０年度ＡＳＥＡＮ青年招へいスケジュール・　65

（２）１９９０年度「２１世紀のための友情計画」標準
プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

「２１世紀のための友情計画」
１９８９年度事業実施報告

１９９０．２．９
国際協力事業団

１．事業の経緯

「２１世紀のための友情計画」はＡＳＥＡＮ諸国を対象に１９８４年度より開始され、その後各国からの強い要望により招へい対象国はビルマ、パプア・ニューギニアおよびフィジー等の太平洋諸国、さらに中国および韓国へと拡大され、１９８８年度においては全体として２２ヵ国、１０８５名のアジア・太平洋の青年を招へいするに至った。また、１９８８年度からは招へい青年の受け入れとともに、再交流としてＡＳＥＡＮ各国に対し日本青年チームの派遣を開始した。

１９８９年度はＡＳＥＡＮ青年招へい事業の第２フェーズ（１９８９年から１９９３年）初年度にあたり、ＡＳＥＡＮ諸国からは、第１フェーズの評価をふまえさらに充実した内容により年間７９８名の青年を招へいした。他の招へい対象国を含めれば、８９年度には、全体として２１ヵ国、１０３１名（ただし中国は予定）の青年の招へいを実施した。

２．１９８９年度における青年受入等の実績

（１）青年の受入実績（グループ別も含めた詳細は別添資料１参照）

ａ）ＡＳＥＡＮ諸国

ブルネイ	４９
インドネシア	１４９
マレイシア	１５０
フィリピン	１５０
シンガポール	１５０
タイ	１５０
合計	７９８

ｂ）その他の招へい国

フィジー	１２
ＰＮＧ	３４
その他太平洋諸国（１１ヶ国）	３８
＊中国	５０
韓国	９９
合計	２３３

＊中国は２月下旬より受け入れ予定

総計２１ヵ国　１０３１名

（２）日本青年の派遣実績

再交流のためＡＳＥＡＮ諸国に対し次のとおり日本青年のチームを派遣した。

（派遣国）	（人数）	（派遣期間）
ブルネイ	５名	１９８９年１２月１０日～１２月１９日
インドネシア	６名	１９８９年１２月　６日～１２月１５日
マレイシア	６名	１９８９年１２月　５日～１２月１４日
＊フィリピン	５名	１９９０年　３月　１日～　３月１０日
シンガポール	５名	１９８９年１２月　３日～１２月１２日
タイ	５名	１９８９年１１月３０日～１２月　９日

＊フィリピンは派遣予定

３．プログラム内容に関する評価

（１）招へい青年に対するアンケートの集計結果

ＪＩＣＡは、帰国時に招へい青年に対しプログラム内容に関するアンケート調査を実施している。集計結果（ＡＳＥＡＮ全体）は別添資料２のとおりであり、青年の満足度は非常に高い。

（２）プログラム上今後改善すべき点に対する青年のコメント

青年の帰国直前に行われる評価会およびアンケートにおいて今後改善すべき点として青年より出された主なコメントは次のとおり。

ａ）現地プログラムと共通プログラムの重複を回避してほしい。
ｂ）現地プログラムまたは共通プログラムにおける日本語学習の改善・充実（時間数増、日本語サロンへの全員参加等）。
ｃ）講義は通訳なしで直接英語または自国語で実施してほしい。
ｄ）訪問先では時間をゆったりと取るとともに、そこで働く青年との交流の機会を持ってほしい。
ｅ）スポーツ活動をもっとプログラムに取り入れてほしい。
ｆ）移動にあまり時間を取られないようにしてほしい。
ｇ）プログラムにもっと青年の要望が反映されるようにしてほしい。
ｈ）ホストファミリーの情報をもっと早く入手したい。
ｉ）日本人青年やホストファミリーにＡＳＥＡＮの各国事情に関し十分情報提供を行なってほしい。
ｊ）宗教上の配慮を徹底してほしい。

（上記コメントに対する日本側の対応）

①上記ａ）及びｂ）に対しては下記（３）の別添資料３．項目１、２及び３の③の方針により対応していく。
②上記ｃ）に関し、これまでの努力の結果１９８９年度は共通プログラム講義中２３％を英語で実施した。今後さらにこの比率を高めるように努める。
③ホストファミリーは、青年のアプリケーション・フォームの提出が遅れると決定できないので、上記ｈ）の要望に対してＡＳＥＡＮ側の努力も必要。
④上記ｉ）に対しては、別添資料３．項目４の方針により対応していく。
⑤上記ｊ）に関し食事等は十分な配慮を行っていきたいが、日曜の礼拝あるいは金曜日午後の礼拝はプログラム運営上配慮することは難しい。

（３）第２フェーズ開始にあたり実施したプログラムの改善策への評価

第２フェーズ開始にあたり個別プログラムに対しとった種々の改善策とそれらに対する実施後の評価をまとめれば別添資料３．のとおり。

（４）テーマ方式プログラムに対する評価

第２フェーズでは新規にテーマ方式プログラムを導入したが、ＡＳＥＡＮ全体として初年度の実施状況をまとめれば次のとおり。

a）総合評価

①ＡＳＡＥＡＮ側の努力により概ねテーマに沿った適正な人選が行われ、青年の興味と問題意識を集約することに成功した。その結果従来より的を絞ったプログラムを実施することが出来た。しかし同時にテーマ方式では、公務員、学生といった従来の分野の別なくテーマに沿った横断的な人選が可能であるため、参加者のレベルを統一することが難しいとの問題もある。今後さらにプログラムの充実を図るには、この点にも注意をはらっていく必要がある。

②全体的に青年の興味は統一されているので、視察先が不適当といった意見が出されることはほとんどなかった。青年のアンケートでも各プログラムへの理解度は高く、効果的なプログラム構成が行えた。しかし一つ一つのプログラムで得られた知識や体験は、ともすれば断片的なものになりやすいので、テーマに沿って体系的に整理するには、青年自身の努力と日本側プログラム関係者の適切な助言が不可欠である。また、テーマについてより良い理解を得るためにはＡＳＥＡＮ各国と日本の置かれている状況の違いについて十分説明しておくことが必要であった。今後の改善のためには日本側の努力とともに、ＡＳＥＡＮ側においてはテーマ・プログラムのねらいについて、青年に十分事前説明することが期待される。

③テーマ方式といっても、参加青年は「友情計画」として日本青年やホストファミリーとの交流に大きな期待を持って来日している。他の分野別グループと同様であるが、研修的要素と交流的要素を如何にバランスよく配置していくか、グループの特性を勘案しながら十分な注意を払っていく必要がある。

b）テーマＡ（ハイテク・科学技術産業の現状）の実施結果

①青年の人選について

ＡＳＥＡＮ全体では技術系の青年が７７％、他は企業の経営部門や官庁の計画部門などの事務系の青年で構成された。所属先では公務員が最も多く全体の４５％を占め、次に学生（２１％）の割合が高かった。

②プログラムについて

プログラムの訪問先に対し不適当とする意見は、上記総合評価の通りほとんど出されなかった。全体的に青年のハイテクへの興味に良く対応することが出来た。しかし、招へい青年は日本でいういわゆる本来の『ハイテク』に従事してるものは少なかったので、専門的な説明になると理解が難しい部分も多かったようである。むしろ、日本企業の経営理念や、ハイテクが及ぼす社会への影響を紹介したプログラムの方が受入れやすかったようである。また、グループによっては日本人青年との交流が少ないとの意見が出されることもあった。

c）テーマＢ（地方の農業・地場産業振興）実施結果

①青年の人選について

テーマＢは、「実際に農村で働く農村青年」、「地方開発行政に係わる公務員」、「その他関係機関職員」の３つのカテゴリーからの人選が可能であったが、結果的にはタイを除きほとんどが、官庁および関係団体からの人選となった。全体に農業分野の青年が主体であったが、「地域振興」の範囲を幅広くとらえ貿易関係者などを含めてくる国もあった。

②プログラムについて

「地場産業」もプログラムの対象となっていたが、農業関係の青年が多かったことおよび日本側のプログラム作成がしやすかったことから、結果的には農業中心のプログラムとなった。中央で日本の「地域振興」の基本的考え方を理解してもらい、地方でその具体的事例に接してもらうとの基本的な考え方でプログラムを作った。その結果日本の地域振興の現状について一定のイメージを持ってもらうことが出来たと考えるが、ＡＳＥＡＮ各国と日本の状況が異なるため、一部には青年は一つ一つの事例をどう理解して良いか戸惑っている様子も見えた。しかし、日本人青年の人選がうまくいったグループでは、まさに同じ「地域振興」の課題を持つ青年どうしとして、ねらい通り中身の濃い交流が実現できた。

4．日本青年等に与えた影響

第１フェーズ同様第２フェーズにおいても、本計画の受入れは日本全国での展開を図ることとしている。１９８９年度においても、招へい青年（ＡＳＥＡＮ以外の国も含む）は何らかの形で日本の全都道府県を訪れた。

第１フェーズの実施報告書（１９８８年度調査団で提示）で触れたと　り、招へい青年が日本各地を訪れ、日本の青年との交流、ホームステイ等に参加したことによりこの事業に関係した日本人にとって風土、文化、宗教の違いを超えた外国および外国人が身近なものとなり、特に日本の地方社会の国際化を促進した。

5．第２フェーズ初年度としての全体的評価

（１）プログラムの改善

日本側としてはＡＳＥＡＮ側の要望を、

ａ）参加青年のバックグランドに沿ったより的を絞ったプログラムの実施

ｂ）情報の一方通行的なプログラムではなく、真に相互交流的・体験的な活動の充実

ｃ）各プログラムにおいて優秀な通訳の確保等コミュニケーションの円滑化の３点に要約できると考えており、この要望に沿うようプログラム内容の改善と効果的な運営に努めた。具体的にはテーマ方式の導入や別添資料３．の改善策などである。その結果、いくつかのグループでは不十分な点（テーマ方式における青年の人選とプログラム内容のミスマッチ、通訳の能力が不十分、日本青年との交流の機会が少ない等）も見られたが、全体としては着実な成果が上がったものと評価している。今後とも第２フェーズ開始にあたり設定した目標に沿って改善を図っていく。なお、本プログラムにおいてはグループの性格・要望に従い、研修的要素と交流的要素をバランスよく配置していくことが必要であり、そのため今後とも十分な配慮を行っていくことが必要である。

（２）実施体制の強化

第１フェーズの期間を通じ、ＡＳＥＡＮ側、日本側双方とも着実に実施体制の整備を図ってきたが、第２フェーズ開始にあたり、一部必要な国においては実施体制の見直しが行われ、全体として一層の強化が図られた。これはＡＳＥＡＮ側においては青年人選の一層の適性化、現地プログラムの充実等に表れている。日本側では基本的な実施体制は変わらないものの、中央、地方各レベルにおける協力団体の多様化が図られた。特に地方において、招へい青年を受け入れたいと希望する団体が増えており、本計画が着実に日本国内で定着してきていることを示している。

（３）その他

ａ）第２フェーズでは本計画を通じてＡＳＥＡＮの域内交流を促進することも一つの基本方針であり、そのためＡＳＥＡＮ混成グループを４グループにふやした。参加青年からは好評を得ており、他のグループからも他国の青年と交流したいとの要望が出されている。今後ともできるかぎりＡＳＥＡＮ間の交流が図れるように配慮していく。

ｂ）現地プログラムについてはＡＳＥＡＮ側の主体性によってさらに改善・充実が図られている。各国とも現地プログラムを、単に日本出発のための準備というよりも、自国青年の開発問題（ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ　ｉｓｓｕｅ）への認識強化、自国文化の再認識および国民としての意識の高揚など、青年教育の格好の機会として活用していることが伺われる。

≪２１世紀のための友情計画」１９８９年度受入実績≫

別添資料１

（１）ＡＳＥＡＮ青年

国　名	分　野　名	人　数
ブルネイ	ＡＳＥＡＮ混成（学生）	5
	教員・学生	20
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員Ｉ）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員II）	5
	テーマＡ（Ａ）	9
	ＡＳＥＡＮ混成（教員）	5
	小　計	49
インドネシア	ＡＳＥＡＮ混成（学生）	5
	学生	25
	教員	24
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員Ｉ）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員II）	5
	公務員	25
	テーマ（Ｂ）	15
	ＡＳＥＡＮ混成（教員）	5
	勤労青年	26
	テーマ（Ａ）	14
	小　計	149
マレイシア	ＡＳＥＡＮ混成（学生）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員Ｉ）	5
	学生	20
	教員	19
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員II）	5
	テーマ（Ｂ）	21
	青年指導者	25
	ＡＳＥＡＮ混成（教員）	5
	テーマ（Ａ）	20
	公務員	25
	小　計	150
フィリピン	学生	14
	教員	24
	ＡＳＥＡＮ混成（学生）	5
	勤労青年（農業系）	20
	テーマ（Ｂ）	25
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員Ｉ）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員II）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（教員）	5
	テーマ（Ａ）	20
	勤労青年（産業系）	27
	小　計	150
シンガポール	学生	15
	教員	20
	公務員（Ｉ）	24
	ＡＳＥＡＮ混成（学生）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員Ｉ）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員II）	5
	勤労青年	24
	公務員（II）	24
	青年指導者	23
	ＡＳＥＡＮ混成（教員）	5
	小　計	150
タイ	ＡＳＥＡＮ混成（学生）	5
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員Ｉ）	5
	勤労青年	25
	学生	25
	ＡＳＥＡＮ混成（公務員II）	5
	農村青年	25
	テーマ（Ａ）	15
	ＡＳＥＡＮ混成（教員）	5
	青年指導者	25
	テーマ（Ｂ）	15
	小　計	150
ＡＳＥＡＮ諸国合計		798

（２）ＡＳＥＡＮ青年以外

フィジー	公務員	12
ＰＮＧ	教員	20
	青年指導者	14
	小　計	34
太平洋諸国（フィジー、ＰＮＧを除く）	教員	13
	公務員	25
	小　計	38
太平洋諸国小計		84
韓　国	勤労青年	31
	学生	30
	教員	20
	青年指導者	18
	小　計	99
中　国	経済青年	25
	青年指導者	25
	小　計	50

合　計　１０３１人

別添資料２

招へい青年に対するアンケートの集計結果と日本側のコメント

１９９０．２．９
国際協力事業団

１．現地プログラム

各質問項目に対する集計結果は下表のとおりである。いずれの項目に対しても適当とする回答が約７０％以上を占めていることから、概ね招へい青年のニーズにあったプログラムが実施されているものと思われる。但し、日本語学習の時間については65%の青年が短かすぎると答えている。

	長すぎる	適当	短すぎる
１．現地プログラムの期間	13%	70%	17%

	早すぎる	適当	遅すぎる
２．現地プログラムの時期	6%	71%	22%

	多すぎる	適当	少なすぎる
３．講義数	22%	67%	11%

	適当	不適当
４．講義内容	88%	12%

	多すぎる	適当	少なすぎる
５．日本語学習の時間	2%	33%	65%

	適当	不適当
６．日本語学習の内容	91%	9%

	多すぎる	適当	少なすぎる
７．コーディネーターによるプログラム説明の時間	4%	88%	8%

	適当	不適当
８．滞日プログラム説明の内容	94%	6%

	適当	不適当
９．見学施設	89%	11%

	適当	不適当
１０．配布資料および教材	90%	10%

２．対日プログラムに対する全般的評価

対日プログラム全般に対する青年の評価をまとめたのが下表である。この中で、「討議・交流した日本青年の分野」、「見学先の選定」、「プログラムの運営・管理」、「プログラム数」、「滞在期間」、「グループの大きさ」についていずれも７０％以上が適当と答えている（特に「プログラムの運営・管理」は９７％）。また、テーマについての理解では「かなりよく理解できた」以上が約９０％を占めている。このことは、本計画が全体的に円滑に実施されていることを裏付けている。

青年の全体的な印象は、質問項目１１の「全体としての評価」、項目１２の「友人に参加を薦めるか」の２項目に表れている。これを見ると項目１１に対し９７％が『素晴らしい』または『よい』と答えており、また項目１２では９９％が友人に薦めると答えている。このことは、本プログラムの趣旨及び基本スキームがいずれの青年にも歓迎されるものであることを示している。

日本青年との交流機会については、不十分と答えている青年が半数以上いるので、さらに配慮していく必要がある。ただし、この評価はプログラムの組み方が不適当であることを示しているわけではなく、日本人青年との交流に対する高い評価

の裏返しであると理解できる。

また、半数の青年が「もっとも印象に残った場所」として地方プログラムの実施県を挙げているが、これは招へい青年が地方の地域住民や青年との交流を高く評価していることの表れだと考えられる。

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	46%	54%

	適当	不適当
2．討議・交流した日本青年の分野	77%	23%

	適当	不適当
3．見学先の選定	90%	10%

	適当	不適当
4．ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの運営・管理	97%	3%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ数	8%	85%	6%

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	4%	73%	22%

	大きすぎる	適当	小さすぎる
7．ｸﾞﾙｰﾌﾟの大きさ	8%	90%	2%

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．ﾃｰﾏについての理解	34%	55%	10%	2%	0%

	東京	合宿ｾﾐﾅｰ	地方ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	7%	19%	50%	19%	4%

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	51%	46%	3%	0%

	断然薦める	多分薦める	定かでない	薦めない
12．友人に参加を薦めるか	88%	11%	1%	0%

3．青年の満足度

１９８９年度からはテーマ方式によるプログラムが導入されたとの背景もあり、アンケートでは、これまで同様「プログラムを楽しめたかどうか（楽しさ度）」とともに、「プログラム内容を理解できたかどうか（理解度）」の２つの項目について５段階の評価をとった。集計の結果は下表のとおりである。

なお、本表「理解度」および「楽しさ度」に示しているパーセンテージは、それぞれ「ある程度理解できた」および「幾分楽しんだ」以上に回答した青年の割合を示している。

（青年の理解度）

		非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	理解度
共通ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	講義	303	329	130	18		77.7%
	日本語学習	107	255	241	158	5	75.7%
	体験的日本語学習	74	230	275	168	5	72.6%
	武道鑑賞	215	264	150	55	8	70.9%
	見学	311	288	80	9	3	75.3%
合宿ｾﾐﾅｰ	日本人との討議	273	340	104	24		76.3%
	日本人との交流	258	313	120	24		76.5%
都内分野別ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	講義	262	339	132	22		76.6%
	見学	306	285	85	7	1	77.1%
	表敬訪問	331	267	77	13	1	78.[illegible]%
	合宿ｾﾐﾅｰ以外の日本人との討議	195	298	184	43	4	75.0%
	合宿ｾﾐﾅｰ以外の日本人との交流	186	317	151	53	4	73.5%
地方分野別ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	講義	261	346	123	23	1	77.[illegible]%
	見学	336	266	77	10	1	77.1%
	表敬訪問	331	272	78	14	1	75.4%
	日本人との討議	233	288	155	29	1	77.3%
	日本人との交流	237	311	129	24	1	75.3%
	ﾎｰﾑｽﾃｲ	397	224	59	14		86.4%
見学旅行	京都または奈良他	324	248	68	8	1	85.0%
	広島または長崎他	383	215	55	7		87.6%
							85.4%

（青年の楽しさ度）

		非常に楽しんだ	かなり楽しんだ	適分楽しんだ	あまり楽しまず	全く楽しまず	楽しさ度
共通プログラム	講義	90	216	309	44	6	[illegible] %
	日本語学習	189	183	282	25	2	[illegible] %
	体験的日本語学習	178	183	277	27	1	[illegible] %
	武道鑑賞	254	214	232	25	3	[illegible] %
	見学	311	215	187	24	3	[illegible] %
合宿セミナー	日本人との討論	301	184	194	19	2	[illegible] %
	日本人との交流	337	183	183	9		[illegible] %
都内分野別プログラム	講義	124	203	278	50	5	[illegible] %
	見学	272	219	203	25	1	[illegible] %
	表敬訪問	235	199	212	56	6	[illegible] %
	合宿セミナー以外の日本人との討論	236	202	236	28	1	[illegible] %
	合宿セミナー以外の日本人との交流	256	202	221	25	3	[illegible] %
地方分野別プログラム	講義	143	228	233	40	6	[illegible] %
	見学	308	220	180	20	3	[illegible] %
	表敬訪問	258	198	210	40	6	[illegible] %
	日本人との討論	264	210	205	26	1	[illegible] %
	日本人との交流	302	209	184	18	2	[illegible] %
	ホームスティ	496	138	94	8	1	[illegible] %
見学旅行	京都または奈良他	377	201	144	14	2	[illegible] %
	広島または長崎他	424	196	127	9		[illegible] %

（日本側コメント）

①これを見ると、いずれのプログラムにおいても『理解度』及び『楽しさ度』とも高い数字を示しており、両者を総合した青年の満足度は相当高かったものと考えられる。これは前述の項目２．の評価を裏付けるものである。

②プログラム毎にこれらの数字を比較すると『楽しさ度』については、相対的に「日本青年との交流」、「ホームステイ」、「広島訪問」及び「観光」が高い数字を示し「講義」「表敬訪問」「日本語学習」および「見学」が低い数字となっている。これは青年が動きのある活発なそして相互交流的なプログラムを好む傾向を示しており、過去５年間にもみられたものである。

③今年度はこの傾向を踏まえて「講義」および「見学」に青年の興味が反映されるよう工夫をこらすとともに、「表敬訪問」を減らすように努めた。その結果『楽しさ度』は前年度と余り変わらない数字にとどまったが、『理解度』については高い数字が得られ、プログラム自体の意義や必要性は青年に理解されたものと考えられる。

④他方、「日本語学習」及び「体験的日本語学習」は『理解度』が『楽しさ』を下回っており、今後青年にとって日本語の学習効果が高まるよう工夫していく必要がある。

１９８９年度個別プログラム改善策に対する評価と今後の対応

別添資料３

項　　目	当　初　の　改　善　策	評　価　と　今　後　の　対　処　方　針
１．現地プログラム及び共通プログラム間の調整	日本理解のための重要なプログラムであるこれら２種のプログラムの連携を図り効率的な対日理解を進める。	・現地派遣のＪＩＣＡコーディネーターより現プロ内容に関する情報を入手し両プログラム間の重複を避けるよう努めたが、この方法では限界があった。 ・各国（ＡＳＥＡＮ以外の国を含む）の現プロ内容が異なる以上共プロの内容は変更出来ないので、むしろＡＳＥＡＮ側で現プロ内容の調整を行うことも必要。 ・日本語及び日本に関する講義については、今後両プログラムを通じての指針を作成することなども検討していきたい。
２．現地プログラム	現地プログラムについては、アセアン各国の自主性を尊重して実施されていることもあり、その内容、期間等が国によって差異がある。よって今後は可能な限り内容、期間を平均化する方法で検討してゆく。	・これまで現プロ期間が短かかった国については、期間の延長・内容の充実が図られ、全体として差異は縮小したが、依然内容には異なる点が多い。 ・各国毎に事情が異なり一律の対応は困難と思われるので、改めてそれぞれの現プロに対する考え方を確認し、今後の対応を検討していきたい。
３．共通プログラム ①講義	従来５科目あった講義を１科目減の４科目とする。これによって、一日のプログラム構成に、午前講義とすれば、午後は施設見学あるいは日本語学習といった要素の異なるプログラムを配し、変化を持たせる。 なお、テーマ設定方式においては共通プログラムの講義数を３科目として、分野関連プログラムに時間配分を多くする。	・当初の改善策どおりプログラムを変更し、その結果「講義数が多い」とか「一日中講義で退屈する」とかいった青年の不満はなくなった。 ・また講義内容についても、現プロ時に青年の興味を確認する等の方法によって青年の満足度は高まった。 ・４科目中一科目は「分野関連講義」にあてたが、これにより青年は分野別プログラム開始前に当該分野全般に関する知識が得られ、スムーズに分野別に移行することが出来た。
②見学訪問先	講義内容に沿った施設、機関等の視察先は２ヵ所とする。 （文化施設／ハイテク展示施設／工場／スポーツ施設／立法府・行政府／義務教育及び高等教育機関／報道機関／企業の本社／芸能、武道の鑑賞／伝統文化の体験などから選ぶ）	・８９年度の見学先は時間配分の関係から横浜博覧会１カ所のみとした。但し８陣は日産自動車工場と電力館の２カ所、またテーマグループは伝統文化体験（お茶）１カ所を見学先とした。 ・横浜博については、日本のハイテクを見学出来たとして青年の評価は非常に高かった。 ・９０年度は青年の希望が多い自動車工場を引き続き主体とする。
③日本語学習	従来の日本語学習については、これまでと同様に２回で３～４時間程度とする。但し、現地プログラムの学習内容とオーバーラップを避ける。 合宿やホームステイ等で生きた日本語を使用出来るように、体験的要素を盛り込んだ日本語学習の機会を新たに設ける。 （オープン学習） 共通プログラム期間中、夕食後２回程度のオープン講座を設け（自由参加）日本語教師とのリラックスした雰囲気で日本語学習が行なわれるよう計画する。 （野外体験学習） 日本人ボランティア青年と、街へ出て、様々な体験を通じて実践的に日本語を学ぶ機会を提供する。	・オープン学習として「日本語サロン」を実施した。全員参加にすべしとの意見が多く、好評だったので、９０年度もさらに内容を充実させ実施する。 ・共プロ期間中の土曜日を日本人ボランティア青年との野外体験学習にあてた。日本人青年との交流が出来た点、日本の街を直に歩くことが出来た点では評価は高かったが、日本語学習としては不十分との意見が多かった。９０年度はこの点をさらに充実させ実施する。

項　　目	当　初　の　改　善　策	評　価　と　今　後　の　対　処　方　針
4．分野別プログラム ①合宿セミナー	日本人参加青年に対する事前研修会を充実する。 期間を２泊３日あるいは３泊４日で実施する。	・約９０％の合宿参加日本青年に対し事前研修会を実施した。 しかし、依然日本青年に対する不満が出されているので、来年度は実施率１００％を目指し事前研修会の充実を図る。 ・全ての合宿セミナーを２泊３日以上で実施した。
②ホームステイ	青年から最も好評なプログラムであることから、さらなる充実を図り期間は２泊３日程度で実施する。また１人１家族を原則とする。	・８９年度はほぼ１００％２泊３日以上でホームステイを実施した。また１グループでは期間中２回のホームステイを実施することも出来た。 ・ホストファミリーに対しては種々の方法により事前ブリーフの充実を図った。９０年度用に現在ホストファミリー向けの映画製作を進めており、今後とも十分な事前情報の提供に努めていく。
5．見学旅行プログラム	現行計画では、平和国家希求の観点から広島視察、伝統文化理解の為の関西（京都、奈良）見学によって構成されているが、限られた日程内での交通の便及び合理性を勘案してこれら地方見学旅行の地域の選択に幅を持たせる。	・これまでの青年の高い評価からどのグループも広島又は長崎見学を含めたがその他訪問地は柔軟に対応した。 ・今後とも青年の反応を見極めつつ柔軟に対応していく。
6．評価会	テーマ設定方式においては、テーマ関連プログラムについての総括セッションを設ける。 （総括セッションは、青年が日本滞在中疑問に思った点や、逆に日本滞在により触発されより知識を深めたいと思った点あるいは日本の経験を自国に帰ってどう生かすかといった点について有識者との質疑応答によって整理していくプログラムである。このセッションは当該グループのテーマに造詣の深い有識者を招いて実施するので、テーマを中心とした議論が期待される。）	・総括セッションでは活発に質問が出され、青年のテーマあるいは日本に対する理解を深めるのに効果があった。 ・９０年度はさらに内容の充実を図り実施していく。

別添資料４

平成元年度青年招へい事業
招へい青年の内訳（年齢、性別）

平成２年１月８日
青年招へい業務室

国名	分野名	人数	平均年齢	男性 人数	男性 年齢	女性 人数	女性 年齢	女性の割合（%）
ブルネイ	ASEAN混成（学生）	5	22.8	3	23.0	2	22.5	40
	教員・学生	20	25.9	13	28.2	7	21.7	35
	ASEAN混成（公務員I）	5	30.4	3	31.7	2	28.5	40
	ASEAN混成（公務員II）	5	30.2	4	31.0	1	27.0	20
	テーマA（A）	3	29.0	8	30.0	1	21.0	11
	ASEAN混成（教員）	5	33.2	4	34.0	1	30.0	20
	小計	49	27.8	35	29.4	14	23.7	29
インドネシア	ASEAN混成（学生）	5	22.4	2	21.5	3	23.0	60
	学生	25	22.7	14	22.9	11	22.4	44
	教員	24	30.2	17	30.6	7	29.1	29
	ASEAN混成（公務員I）	5	29.4	3	30.3	2	28.0	40
	ASEAN混成（公務員II）	5	33.6	4	33.3	1	35.0	20
	公務員	25	31.8	17	31.8	8	31.8	32
	テーマ（B）	19	26.6	10	26.2	5	27.4	35
	ASEAN混成（教員）	5	28.2	3	27.6	2	29.0	40
	勤労青年	26	26.7	11	28.8	15	25.1	58
	テーマ（A）	14	28.3	9	28.2	5	28.4	36
	小計	149	27.6	90	28.1	59	26.7	40
マレイシア	ASEAN混成（学生）	5	23.4	3	24.7	2	21.5	40
	ASEAN混成（公務員I）	5	34.2	3	34.3	2	34.0	40
	学生	20	22.6	14	22.8	6	21.8	30
	教員	19	32.1	13	31.8	6	32.7	32
	ASEAN混成（公務員II）	5	29.6	3	31.3	2	28.0	40
	テーマ（B）	21	31.6	18	31.9	3	30.0	14
	青年指導者	25	30.5	17	30.8	8	29.8	32
	ASEAN混成（教員）	5	32.4	3	33.7	2	30.5	40
	テーマ（A）	20	29.3	13	29.3	7	29.3	35
	公務員	25	31.3	17	32.0	8	29.9	32
	小計	150	29.7	104	30.1	46	28.9	31
フィリピン	学生	14	21.8	6	20.8	8	22.5	57
	教員	24	28.4	17	29.0	7	26.9	29
	ASEAN混成（学生）	3	24.4	3	22.3	2	27.5	40
	勤労青年（農業系）	20	27.4	13	27.4	7	28.8	35
	テーマ（B）	25	27.9	10	27.3	15	28.7	60
	ASEAN混成（公務員I）	5	28.6	2	29.5	3	28.0	60
	ASEAN混成（公務員II）	5	28.6	1	35.0	4	28.3	80
	ASEAN混成（教員）	5	30.0	3	27.7	2	33.5	40
	テーマ（A）	20	28.0	13	28.3	7	27.3	35
	勤労青年（産業系）	27	29.7	16	29.3	11	30.4	41
	小計	150	27.7	84	27.7	66	27.7	44
シンガポール	学生	15	23.3	6	25.5	9	21.7	60
	教員	20	30.5	10	30.1	10	30.8	50
	公務員（I）	24	27.4	12	28.6	12	26.3	50
	ASEAN混成（学生）	5	25.6	4	28.9	1	22.0	20
	ASEAN混成（公務員I）	5	28.5	2	28.5	3	28.7	60
	ASEAN混成（公務員II）	5	30.0	4	30.0	1	30.0	20
	勤労青年	24	30.0	12	30.6	12	29.4	50
	公務員（II）	24	28.2	12	29.7	12	26.7	50
	青年指導者	23	28.2	14	28.9	9	27.1	39
	ASEAN混成（教員）	5	30.8	2	31.0	3	30.7	60
	小計	150	28.2	78	29.1	72	27.3	48
タイ	ASEAN混成（学生）	5	21.8	3	22.7	2	20.5	40
	ASEAN混成（公務員I）	5	26.8	3	27.7	2	25.5	40
	勤労青年	25	25.1	24	24.7	1	36.0	4
	学生	25	28.7	15	24.9	10	27.0	40
	ASEAN混成（公務員II）	5	28.4	3	28.3	2	28.5	40
	農村青年	25	25.3	17	25.2	8	25.6	32
	テーマ（A）	15	23.7	12	23.0	3	25.7	20
	ASEAN混成（教員）	5	28.0	2	28.0	3	27.3	60
	青年指導者	25	28.1	8	28.4	17	28.0	68
	テーマ（B）	15	25.9	9	25.2	6	27.0	40
	小計	150	25.8	96	25.2	54	27.0	36
ASEAN諸国合計		798	27.8	487	28.1	311	27.3	39
フィジー	公務員	12	35.1	10	34.7	2	37.0	17
PNG	教員	20	29.9	11	31.0	9	28.6	45
	青年指導者	14	30.7	11	32.0	3	26.0	21
	小計	34	30.2	22	31.5	12	27.9	35
太平洋諸国（フィジー、PNGを除く）	教員	13	25.7	7	26.1	6	25.2	46
	公務員	25	28.3	15	29.9	10	25.9	40
	小計	38	27.4	22	28.7	16	25.6	42
太平洋諸国合計		84	29.7	54	31.0	30	27.3	36
韓国	勤労青年	31	28.5	24	30.0	7	23.3	23
	学生	30	33.2	20	34.5	10	30.8	33
	教員	20	33.0	19	32.9	1	34.0	5
	青年指導者	18	37.5	16	38.6	2	28.5	11
	小計	99	29.4	79	31.0	20	23.0	20
合計（人数）		981	28.1	620	29.0	361	26.7	37

１９９０年度のＡＳＥＡＮ青年受入計画

１９９０．２．８
国際協力事業団

１．基本的な実施方針

１９８８年度調査団で協議した第２フェーズの基本的実施方針に基づき、さらに改善を加え実施する。

２．受入れスケジュール

（１）受入れスケジュール

別添資料１．のとおり。

なお、Ｇ．Ｉ．およびアプリケーション・フォームは１９９０年２月末か３月上旬までに送付する。

（２）受入れスケジュール作成上特に留意した点

今次受入れスケジュール作成上日本側が特に留意した点は次のとおり。

ａ）ＡＳＥＡＮ合同会議の結果の尊重
ｂ）ＡＳＥＡＮ各国同分野青年の相互交流の実現
ｃ）各国個別事情への配慮
ｄ）日本側受入れ団体および受入れ県の特長にあったグループの配置

（３）受け入れスケジュール作成過程への評価

ａ）調整時期・期間について

１９９０年度受入れスケジュールの調整は８９年９月上旬より開始し、１２月中旬には概ね計画を固めることができたが、その後一部変更の必要が生じたため最終的には２月中旬までかかった。

しかし、ＡＳＥＡＮ・日本側双方が十分な実施の準備を行うには、さらに調整時期を早め、招へい実施の前年中に調整を完了することが望ましい。

ｂ）前広な各国事情の確認の必要性ついて

そのためには、特定分野の派遣できない時期など年間計画策定上考慮すべき各国の事情は、毎年８月頃までに確認できることが必要である。

４．標準プログラム　　別添資料２．のとうり

５．使用言語

基本的には次のとおり考えているが、今次調査団においてＡＳＥＡＮ側と協議し、最終決定したい（特にテーマ・グループ）。

（国名）	（ＪＩＣＡコーディネーター）	（講義および視察等）
ブルネイ	英語	英語

インドネシア	インドネシア語	テーマＡ：英語および インドネシア語 その他の グループ：インドネシア語
マレイシア	テーマＡ：英語 その他の グループ：マレイシア語	テーマＡ：英語 その他の グループ：英語および マレイシア語
フィリピン	英語	英語
シンガポール	英語	英語
タイ	タイ語	テーマＡ：英語およびタイ語 その他の グループ：タイ語
アセアン混成 グループ	英語	英語

５．受入れ実施にあたりＡＳＥＡＮ側へ要望したい事項

９０年度受入れの円滑な実施のためＡＳＥＡＮ各国の実施機関に対し次の諸点を要望する。

（１）アプリケーション・フォームの早期提出
（２）適正なグループ・リーダーの人選
（３）来日直前の参加青年変更の回避
（４）各グループ構成への考え方の明確化と早期連絡

なお、上記（４）についてはグループの要望に沿ったプログラムを準備するため、日本側としては次の諸点を早期に確認したい（別途依頼の質問状で３月中旬までに回答願いたい）。

ａ）青年の人選及び派遣準備日程
ｂ）青年の人選基準・予想される所属先
ｃ）テーマを付与したい場合、そのテーマ
ｄ）期待するプログラム内容及び具体的訪問先

別添資料１－１

２１世紀のための友情計画
平成２年度受入計画（案）

平成２年２月９日
青年招へい業務室

受入時期	国名	分野名	人数
５月15日～６月14日	マレイシア	学生	２０
	〃	教員	２０
１陣　１３０名	フィリピン	学生	２０
	〃	教員	２０
	タイ	学生（芸術関係）	２５
	〃	勤労青年	２５
５月29日～６月28日	ＡＳＥＡＮ混成	学生	３０
	ＡＳＥＡＮ混成	教員	３０
２陣　１５５名	ブルネイ	教員・学生（農業関係等）	２０
	インドネシア	テーマＡ（学生）	１５
	〃	教員	２５
	シンガポール	学生	１５
	〃	教員	２０
７月３日～８月２日	フィリピン	勤労青年Ｉ（農業系）	２５
	〃	テーマＡ	２０
３陣　１３２名	シンガポール	公務員Ｉ	２４
	〃	勤労青年	２３
	タイ	青年指導者	２５
	〃	テーマＢ	１５
７月10日～８月９日	韓国	学生	３０
	〃	教員	２０
４陣　１００名	〃	勤労青年	３０
	〃	青年指導者	２０
８月21日～９月20日	ＡＳＥＡＮ混成	公務員Ｉ	３０
	インドネシア	テーマＢ（公務員）	２０
５陣　１６８名	〃	農村青年	２５
	マレイシア	テーマＡ（勤労青年）	２０
	〃	青年指導者	２５
	シンガポール	公務員II	２４
	〃	青年指導者	２４
８月28日～９月27日	ＡＳＥＡＮ混成	公務員II	３０
	ブルネイ	テーマＡ	１０
６陣　１２５名	フィリピン	勤労青年II（産業系）	２５
	〃	テーマＢ	２０
	タイ	テーマＡ	１５
	〃	農村青年	２５
９月11日～10月11日	ＰＮＧ	教員	２０
	〃	公務員	１０
７陣　１００名	フィジー	公務員（または教員）	１２
	太平洋混成	公務員	２４
	〃	教員	１４
	ミャンマー	未定	２０
10月16日～11月15日	インドネシア	勤労青年	２５
	〃	学生	２０
８陣　９０名	マレイシア	公務員	２５
	〃	テーマＢ（農村青年）	２０
11月６日～12月６日	中国	（経済青年）	２５
	〃	（教員）	２５
９陣　１００名	〃	（公務員）	２５
	〃	（青年指導者）	２５
11月20日～12月20日	中国	未定	２５
	〃	未定	２５
10陣　１００名	〃	未定	２５
	〃	未定	２５
合計	ＡＳＥＡＮ６カ国（８００）　太平洋諸国（８０） ミャンマー（２０）中国（２００）韓国（１００）		

テーマＡ：ハイテク・科学技術産業の現状
テーマＢ：地方の農業・地場産業振興

別添資料１－２

「２１世紀のための友情計画」
平成２年度青年招へい事業受入計画（案）

平成２年２月９日
青年招へい業務室

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	JICA国内支部
5月15日～6月14日	マレイシア	学生	20	青少年育成国民会議	沖縄	沖縄支部
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	長野	関東支部
1陣　130名	フィリピン	学生	20	世界青少年交流協会	新潟	関東支部
	〃	教員	20	日本国際生活体験協会	山梨	関東支部
	タイ	学生（芸術関係）	25	ユースワーカー能力開発協会	福島	東北支部
	〃	勤労青年	25	勤労厚生協会	和歌山	関西支部
5月29日～6月28日	ASEAN混成	学生	30	日本ユネスコ協会連盟	宮城	東北支部
	ASEAN混成	教員	30	日本ユネスコ協会連盟	兵庫	関西支部
2陣　155名	ブルネイ	教員・学生（農業関係等）	20	青年海外協力協会	山口	中国支部
	インドネシア	テーマA（学生）	15	世界青少年交流協会	大阪市	関西支部
	〃	教員	25	中央青少年団体連絡協議会	鳥取	中国支部
	シンガポール	学生	15	世界青少年交流協会	北海道	北海道支部
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	岩手	東北支部
7月3日～8月2日	フィリピン	勤労青年Ⅰ（農業系）	25	青年海外協力協会	山形	東北支部
	〃	テーマA	20	青少年育成国民会議	福岡	九州支部
3陣　132名	シンガポール	公務員Ⅰ	24	国際交流サービス協会	秋田	東北支部
	〃	勤労青年	23	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	熊本出張所
	タイ	青年指導者	25	中央青少年団体連絡協議会	茨城	関東支部
	〃	テーマB	15	日本青年団協議会	愛媛	四国支部
7月10日～8月9日	韓国	学生	30	世界青少年交流協会	富山	中部支部
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	青森	東北支部
4陣　100名	〃	勤労青年	30	勤労厚生協会	奈良	関西支部
	〃	青年指導者	20	中央青少年団体連絡協議会	北海道	北海道支部
8月21日～9月20日	ASEAN混成	公務員Ⅰ	30	国際交流サービス協会	栃木	関東支部
	インドネシア	テーマB（公務員）	20	青年海外協力協会	大分	九州支部
5陣　168名	〃	農村青年	25	全国農村青少年教育振興会	滋賀	関西支部
	マレイシア	テーマA（勤労青年）	20	日本経済青年協議会	茨城	関東支部
	〃	青年指導者	25	青少年育成国民会議	福井	中部支部
	シンガポール	公務員Ⅱ	24	ユースワーカー能力開発協会	沼津市	関東支部
	〃	青年指導者	24	日本国際生活体験協会	岡山	中国支部
8月28日～9月27日	ASEAN混成	公務員Ⅱ	30	青少年育成国民会議	九州	九州支部
	ブルネイ	テーマA	10	日本経済青年協議会	大阪	関西支部
6陣　125名	フィリピン	勤労青年Ⅱ（産業系）	25	日本ユースホステル協会	京都	関西支部
	〃	テーマB	20	青年海外協力協会	高知	四国支部
	タイ	テーマA	15	勤労厚生協会	愛知	中部支部
	〃	農村青年	25	全国農村青少年教育振興会	佐賀	九州支部
9月11日～10月11日	PNG	教員	20	国際交流サービス協会	長崎	九州支部
	〃	公務員	10	日本経済青年協議会	岐阜	中部支部
7陣　100名	フィジー	公務員（または教員）	12	日本ユネスコ協会連盟	鹿児島	熊本出張所
	太平洋混成	公務員	24	世界青少年交流協会	岡山	中国支部
	〃	教員	14	日本ユースホステル協会	石川	中部支部
	ミャンマー	未定	20	世界青少年交流協会	三重	中部支部
10月16日～11月15日	インドネシア	勤労青年	25	勤労厚生協会	群馬	関東支部
	〃	学生	20	日本国際生活体験協会	広島	中国支部
8陣　90名	マレイシア	公務員	25	世界青少年交流協会	香川	四国支部
	〃	テーマB（農村青年）	20	全国農村青少年教育振興会	熊本	熊本出張所
11月6日～12月6日	中国	（経済青年）	25	日本経済青年協議会	兵庫	関西支部
	〃	（教員）	25	青年海外協力協会	岡山	中国支部
9陣　100名	〃	（公務員）	25	国際交流サービス協会	島根	中国支部
	〃	（青年指導者）	25	日本青年団協議会	三重	中部支部
11月20日～12月20日	中国	未定	25	世界青少年交流協会	徳島	四国支部
	〃	未定	25	全国農村青少年教育振興会	岐阜	中部支部
10陣　100名	〃	未定	25	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	沖縄支部
	〃	未定	25	青少年育成国民会議	広島	中国支部
合計	ASEAN6カ国（800）　太平洋諸国（80）　ミャンマー（20） 中国（200）　韓国（100）				54グループ 1200名	

テーマA：ハイテク・科学技術産業の現状、テーマB：地方の農業・地場産業振興

21世紀の友情計画 平成2年度国別受入計画（案）

平成2年2月9日
青年招へい業務室

国名	分野名	人数	受入時期
ブルネイ	教員・学生（農業関係等） ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	20 5 5	5月29日～6月28日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員I	5	8月21日～9月20日
	テーマA ASEAN混成・公務員II	10 5	8月28日～9月27日 〃
インドネシア	テーマA（学生） 教員 ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	15 25 5 5	5月29日～6月28日 〃 〃 〃
	テーマB（公務員） 農村青年 ASEAN混成・公務員I	20 25 5	8月21日～9月20日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員II	5	8月28日～9月27日
	勤労青年 学生	25 20	10月16日～11月15日 〃
マレイシア	学生 教員	20 20	5月15日～6月14日 〃
	ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	5 5	5月29日～6月28日 〃
	ASEAN混成・公務員I テーマA（勤労青年） 青年指導者	5 20 25	8月21日～9月20日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員II	5	8月28日～9月27日
	公務員 テーマB（農村青年）	25 20	10月16日～11月15日 〃
フィリピン	学生 教員	20 20	5月15日～6月14日 〃
	ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	5 5	5月29日～6月28日 〃
	勤労青年I（農業系） テーマA	25 20	7月3日～8月2日 〃
	ASEAN混成・公務員I	5	8月21日～9月20日
	ASEAN混成・公務員II 勤労青年II（産業系） テーマB	5 25 20	8月28日～9月27日 〃 〃
シンガポール	学生 教員 ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	15 20 5 5	5月29日～6月28日 〃 〃 〃
	公務員I 勤労青年	24 23	7月3日～8月2日 〃
	ASEAN混成・公務員I 公務員II 青年指導者	5 24 24	8月21日～9月20日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員II	5	8月28日～9月27日
タイ	学生（芸術関係） 勤労青年	25 25	5月15日～6月14日 〃
	ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	5 5	5月29日～6月28日 〃
	青年指導者 テーマB	25 15	7月3日～8月2日 〃
	ASEAN混成・公務員I	5	8月21日～9月20日
	ASEAN混成・公務員II テーマA 農村青年	5 15 25	8月28日～9月27日 〃 〃
PNG	教員 公務員	20 10	9月11日～10月11日 〃
フィジー	公務員（または教員）	12	9月11日～10月11日
太平洋混成	公務員 教員	24 14	9月11日～10月11日 〃
ミャンマー	未定	20	9月11日～10月11日
中国	（経済青年） （教員） （公務員） （青年指導者）	25 25 25 25	11月6日～12月6日 〃 〃 〃
	未定 未定 未定 未定	25 25 25 25	11月20日～12月20日 〃 〃 〃
韓国	学生 教員 勤労青年 青年指導者	30 20 30 20	7月10日～8月9日 〃 〃 〃
合計	ASEAN6カ国（800）　太平洋諸国（80） ミャンマー（20）中国（200）韓国（100）		

テーマA：ハイテク・科学技術産業の現状
テーマB：地方の農業・地場産業振興

別添資料1－3

１９９０年度「２１世紀のための友情計画」標準プログラム

別添資料２

		実施内容	宿泊
		各国首都集合 結団式、現地講師による講義、日本語の日常会話の学習 現地講師による講義、日本語の日常会話の学習 経済技術協力の現場及び日系企業の見学 渡航に係るブリーフィング	現地のホテル
1	火	未　日	都内のホテル
2	水	本計画のブリーフィング　歓迎会　団体のオリエンテーション　日本語会話(Ⅰ)	〃
3	木	講義（日本の産業と経済）　大使館表敬　日本語サロン	〃
4	金	日本語会話(Ⅱ)　講義（日本の近・現代史）　武道鑑賞および交歓会	〃
5	土	体験的日本語学習	〃
6	日	自主研修	〃
7	月	施設見学　施設見学　日本語サロン	〃
8	火	分野別講義　講義（日本の社会と風土）	〃
9	水	都内分野別プログラム（関係省庁等訪問）	〃
10	木	都内分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	〃
11	金	合宿セミナーのための移動日　合宿セミナー開会	合宿施設
12	土	合宿セミナー（基調講演　意見交換　スポーツ　レクレーション等）	〃
13	日	合宿セミナー（基調講演　意見交換　スポーツ　レクレーション等）交流の夕べ	〃
14	月	自主研修	都内のホテル
15	火	地方分野別プログラムのための移動日　地方分野別プログラムのブリーフィング	地方のホテル
16	水	地方分野別プログラム（関係地方自治体等訪問）　知事等歓迎会	〃
17	木	地方分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	〃
18	金	ホームステイ	受入家庭
19	土	ホームステイ	〃
20	日	ホームステイ　交流の夕べ	〃
21	月	地方分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	地方のホテル
22	火	地方分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	〃
23	水	自主研修	〃
24	木	見学旅行（広島）	広島のホテル
25	金	見学旅行（広島）	〃
26	土	見学旅行（京都等）	京都等のホテル
27	日	見学旅行（京都等）	〃
28	月	東京に集合	都内のホテル
29	火	帰国準備	〃
30	水	評価会　帰国に関する説明・諸手続　歓送会	〃
31	木	帰　国	

（注）ここに示したプログラムは、標準的な流れであり、招へい国、招へい分野、実施県等の違いにより、実際のプログラムは、標準プログラムと異なる場合がある。
なお、テーマ設定方式によるグループの場合には、第７日にテーマ関連講義を行ない、分野別プログラムは第８日より開始する。また、第29日には滞日成果を有識者との質疑によりまとめる総括セッションを行なう。

6. ASEAN諸国調査団資料（英文）

PROGRESS REPORT ON "THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY" IN 1989

February 9, 1990
Japan International Cooperation Agency

1. Circumstances of the Programme

"The Friendship Programme for the 21st Century" was started with ASEAN countries in 1984, and upon the strong requests from other countries, it was extended to such countries as Myanmar, Papua New Guinea, Fiji and other Pacific countries, China and Korea. In 1988, 1,085 youths were invited from 22 countries in Asia and Pacific region. As return visit for further exchange, sending delegations of Japanese youths to the ASEAN countries was started in 1988.

In 1989, as the first year of the Second Phase (1989 - 1993) of invitation of ASEAN youths, 798 youths were invited from ASEAN countries for the improved programmes based upon the evaluation on the first phase. In total, including the youths from other countries, 1,031 youths from 21 countries were invited in 1989. (Invitation of youths from China has not been implemented.)

2. Record of invitation, etc. in 1989

(1) Invitation of youth (Refer to the attached Sheet 1 for details)

(a) ASEAN countries

Brunei	49
Indonesia	149
Malaysia	150
Philippines	150
Singapore	150
Thailand	150
Total	798

(b) Other countries

Fiji	12
PNG	34
Other Pacific Countries (11 countries)	38
‡China	50
Korea	99
Total	233

(‡ Youths from China are scheduled to be invited from the end of February.)

Grand total: 1,031 (21 countries)

(2) Delegations of Japanese youths

Japanese youths sent to ASEAN countries are as follows.

[Country]	[No.]	[Period]
Brunei	5	Dec. 10 -- Dec. 19, 1989
Indonesia	6	Dec. 6 -- Dec. 15, 1989
Malaysia	6	Dec. 5 -- Dec. 14, 1989
*Philippines	5	Mar. 1 -- Mar. 10, 1990
Singapore	5	Dec. 3 -- Dec. 12, 1989
Thailand	5	Nov. 30 -- Dec. 9, 1989

(* Sending Japanese youths to the Philippines has not been implemented)

3. Evaluation on the content of the programme

(1) Result of questionnair by the youths

JICA is conducting a survey by questionnair on how the youths think of the content of the programme before their return. The result is on the attached Sheet 2 (all ASEAN countries). The degree of satisfaction is very high.

(2) Comments for improvement of the programme from the youths

The following are the major comments for improvement presented by the youths in the questionnair and in the evaluation meeting held immediately before their return.

(a) Some parts of the Pre-departure Orientation Programme and the General Orientation are overlapped, so it should be avoided.

(b) The Japanese language lessons given in the Pre-departure Orientation Programme and the General Orientation should be improved and more substantial. (Increase of time, participation by all youths in the Open Session of Japanese Conversation, etc.)

(c) The lectures should be given in English or participants' mother tongue, without interpreters.

(d) When visiting places, more time should be spared, and opportunities to have exchange with the youth working there should be given.

(e) More sports activities should be given in the programme.

(f) Time for transfer should not take long.

(g) Participants' requests should be reflected more in the programme.

(h) The information on the host family should be given to the participants earlier.

(i) Sufficient information on the culture and custom of the ASEAN countries should be given to the Japanese youths and the host families.

(j) More concern for religious custom should be payed.

(Responses from the Japanese side on the above comments)

a. As for (a) and (b) mentioned above, we will follow the policy presented in the items 1, 2 and 3 (3) of the attached Sheet 3 mentioned in (3) below.

b. As for (c), due to our effort, 23% of the lectures in the General Orientation were given in English in 1989. We will make an effort to increase the percentage.

c. As for (h), cooperation on the ASEAN side is needed. In order to decide the host flamilies, the application forms are indispensable. Therefore we would like to ask the ASEAN side to submit the application forms early enough.

d. As for (i), we will follow the policy mentioned in the item 4 of the attached Sheet 3.

e. As for (j), we would like to continue to give consideration to meals. However, about opportunities for prayers on Sundays and Friday afternoons, it is difficult to always give time, from the point of view of management of the programme.

(3) Evaluation on the improvement measures for the programme implemented upon starting the Second Phase

Refer to the attached Sheet 3 on various improvement measures for the programmes taken upon starting the Second Phase, and the evaluation for the measures after implementation.

(4) Evaluation on the Group by Theme

The following are the report on the Group by Theme (ASEAN in general) which was newly introduced in the Second Phase.

(a) Overall evaluation

(1) By the effort of the ASEAN side, appropriate selection of the participants according to the theme was done, which means we had the participants of the same interest. As a result, we found it easier to focus on one theme than before. However, there is something we should consider. Unlike Civil Servants Group or Students Group, the participants are selected regardless of their occupational field. So it may be difficult to have the same level of participants. For further improvement of the programme, attention should be paid to this point.

(2) Few participants pointed out that the places to visit were inappropriate, because the participants' interest was focused on one theme in general. As we can see in the questionnair of the youth, the degree of understanding in each programme was high, and effective programme making was done. However, the knowledge and experience acquired in each programme are not automatically systematic. For systematic approach to the theme, participants' effort and good advice by the Japanese side are indispensable. In addition, in order to have them acquire better understanding of the theme, it is necessary to give them sufficient explanation about the difference between the situations in Japan and in ASEAN countries. For further improvement, along with the effort of the Japanese side, the ASEAN side is expected to explain to the participants in advance about the aim of Group by Theme.

(3) Like Groups by Occupational Field, the participants come to Japan with much expectation to have exchange with Japanese youths and hostfamilies, as this is 'Friendship Programme'. Therefore it is necessary to pay much attention to the balance between the element of training and that of exchange, considering the characteristics of the group.

(b) Result of Theme A (High technology industry in Japan)

(1) On the selection of participants

As for ASEAN in general, 77% of the participants were in the

technical field, and the others were in the business and other field such as management department of private company or planning department of government office. Percentage of civil servants was the highest (45%), followed by students (21%).

(2) On the programme

As mentioned above, few participants thought of the places they visited as inappropriate. On the whole, we could provide them with what they were interested in. However, only a few participants were engaged in what we call real 'high technology'. Therefore, some explanations seemed too technical for them to understand. Rather, programmes introducing the management idea of Japanese companies or influence of high technology on the society seemed welcomed by them.

In some groups, some participants said that they wanted more chances to have exchage with the Japanese youths.

(c) Result of Theme B (Promotion of agriculture and local industries)

(1) On the selection of participants

It was possible to select participants from three categories: 'Working youth in Agricultural community', 'Civil servants related to rural development' and 'Staff of related organization'. However, most of the youths were selected from government offices and related organizations, except for Thailand. The majority were youths in the field of agriculture, but some country took the meaning of 'rural development' as wider meaning and sent in a group participants who were engaged in trading.

2) On the programme

Although 'Local industry' was one of the objects in the programme, the programme eventually centered on agriculture, mainly because many participants were related to agriculture and also because it was easy for the Japanese side to handle agriculture. The programme was designed to give them first the basic idea of Japanese 'rural development' in Tokyo, and have them see the actual examples in the rural areas of Japan. As a result, we think that they were given a picture of the present situation of rural development in Japan. However, due to the difference in situations of ASEAN countries and Japan, some of them seemed to have a hard time to understand each example. However, in groups with Japanese youths who have the same task of rural develpoment, substancial exchange was realized, as was expected.

4. Influence of this programme on Japanese youth

In the Second Phase as well as in the First Phase, invitation programme is meant to be implemented all over Japan. In 1989, every prefecture in Japan welcomed the youths (including the youths from countries besides ASEAN countries). The group of participants visited various prefectures for some different purposes.

As is mentioned in the report for the First Phase (presented in 1988), the youths visited various parts of Japan to have exchange with Japanese youth and to enjoy homestay. For the Japanese people related to this programme, foreign countries and foreigners have become familiar, beyond the differences of climate, culture and religion. This programme has especially helped promote internationalization in rural areas of Japan.

5. Overall evaluation as the first year of the Second Phase

(1) Improvement of the programme

We, on the Japanese side, think that the requests from the ASEAN side can be summarized into the following three points.

(a) Implementation of the programme focusing upon the background of the youths
(b) To have the programme with more solid activities that give the youths more mutual exchange and experience, not one-way-traffic type programme.
(c) More smooth communication by having better interpreters, etc.

We made an effort to meet the above requests. To name a few, introduction of Group by Theme, measures for improvement presented in the attached Sheet 3, etc. Although some unsatisfactory points were found in several groups (mismatching between the youth and the content of the programme in the Group by Theme, insufficient capability of interpreters, fewer chances to have exchange with Japanese youths than expected, etc.), on the whole we are satisfied with steady improvement. We will continue to make efforts to improve the programme along with

the objectives that we set up upon starting the Second Phase.

In this programme, it is necessary to pay attention to the balance between the element of training and that of exchange according to the characters and requests of each group. We will pay further attention to that.

(2) Further improvement in the implementation system

Throughout the First Phase, both the ASEAN side and the Japanese side have a better way of implementation. Upon the start of the Second Phase, some countries had discussions or some change in the implementation system. Accordingly the quality of the programme on the whole has been enhanced. On the ASEAN side, further improvement can be seen in the way of selecting qualified youths and in the Pre-departure Orientation Programme. On the Japanese side, diversification of cooperative organizations can be seen in Tokyo and other prefectures, although basically the system has not been changed. Particularly, in the rural areas, more and more organizations hope to invite youths, which means more people recognize the significance of this programme in Japan.

(3) Others

(a) One of the basic policies of the Second Phase is to facilitate the exchange among ASEAN countries through this programme. For that pursose, we increased the number of ASEAN Component Group to four. The participants favorably comment on it, and there are requests from participants in other groups that they want to have more opportunities to exchange with the youths from other countries. We will take into account exchange among ASEAN countries as much as possible.

(b) As for the Pre-departure Programme, further improvement is sought for, on the initiative of ASEAN side. It seems that, for ASEAN countries, Pre-departure Orientation Programme is not only preparation for going to Japan. Rather, each country seems to take

it as a good opportunity for the education of the youths. The youths are expected to have stronger recognition of the development issue, to appreciate the culture of the country and to enhance the conscious as people of the country.

'Record of the Friendship Programme for the 21st Century in 1989' [Sheet 1]

(1) ASEAN Youth

Country	Field	Size
Brunei	ASEAN Component (Students)	5
	Teachers and students	20
	ASEAN Component (Civil Servants I)	5
	ASEAN Component (Civil Servants II)	5
	Theme (A)	9
	ASEAN Component (Teachers)	5
	Total	49
Indonesia	ASEAN Component (Students)	5
	Students	25
	Teachers	24
	ASEAN Component (Civil Servants I)	5
	ASEAN Component (Civil Servants II)	5
	Civil Servants	25
	Theme (B)	15
	ASEAN Component (Teachers)	5
	Working Youth	36
	Theme (A)	14
	Total	149
Malaysia	ASEAN Component (Students)	5
	ASEAN Component (Civil Servants I)	5
	Students	20
	Teachers	19
	ASEAN Component (Civil Servants II)	5
	Theme (B)	21
	Youth Leaders	25
	ASEAN Component (Teachers)	5
	Theme (A)	20
	Civil Servants	25
	Total	150
Philippines	Students	14
	Teachers	24
	ASEAN Component (Students)	5
	Working Youth (Agriculture)	20
	Theme B	25
	ASEAN Component (Civil Servants I)	5
	ASEAN Component (Civil Servants II)	5
	ASEAN Component (Teachers)	5
	Theme A	20
	Working Youth (Industry)	27
	Total	150
Singapore	Students	15
	Teachers	20
	Civil Servants (I)	24
	ASEAN Component (Students)	5
	ASEAN Component (Civil Servants I)	5
	ASEAN Component (Civil Servants II)	5
	Working Youth	24
	Civil Servants (II)	24
	Youth Leaders	23
	ASEAN Component (Teachers)	5
	Total	150
Thailand	ASEAN Component (Students)	5
	ASEAN Component (Civil Servants I)	5
	Working Youth	25
	Students	25
	ASEAN Component (Civil Servants II)	5
	Agricultural Youth	25
	Theme (A)	15
	ASEAN Component (Teachers)	5
	Youth Leaders	25
	Theme (B)	15
	Total	150
Total of ASEAN Countries		798

(2) Others

Fiji	Civil Servants	12
PNG	Teachers	20
	Youth Leaders	14
	Total	34
Pacific Countries (except Fiji and PNG)	Teachers	13
	Civil Servants	25
	Total	38
Total of Pacific Countries		84
Korea	Working Youth	31
	Students	30
	Teachers	20
	Youth Leaders	18
	Total	99
China	Economic Youth	25
	Youth Leaders	25
	Total	50

- Grand Total: 1.031

'Result of Questionnair by Youth and Comment from Japanese Side' [Sheet 2]

February 9, 1990
Japan International Cooperation Agency

1. Pre-departure programme

The following is the result of each item. Since more than 70% of the youth answered 'Appropriate' for almost all items, it can be considered that the programme generally meets the need of the youths. (There is only one item that shows the unfavorable opinion of the youths. 65% of them answered 'time allotted for Japanese instruction' was not enough.)

(Table 1)

1. Length of orientation programme
   (1) Too long 13% (2) Appropriate 70% (3) Too short 17%
2. Time of orientation programme
   (1) Too early 6% (2) Appropriate 71% (3) Too late 22%
3. Number of lectures
   (1) Too many 22% (2) Appropriate 67% (3) Too few 11%
4. Level of lectures
   (1) Appropriate 88% (2) Inappropriate 12%
5. Time allotted for Japanese instruction
   (1) Too much 2% (2) Appropriate 33% (3) Not enough 65%
6. Level of Japanese instruction
   (1) Appropriate 91% (2) Inappropriate 9%
7. Amount of guidance provided by your coordinator
   (1) Too much 4% (2) Appropriate 88% (3) Not enough 8%
8. Guidance provided
   (1) Appropriate 94% (2) Inappropriate 6%
9. Observational Tour
   (1) Appropriate 89% (2) Inappropriate 11%
10. Orientation materials
   (1) Appropriate 90% (2) Inappropriate 10%

2. General evaluation on programme in Japan

The table below is the general evaluation by the youth on the programme in Japan. More than 70% of the youth answered 'Appropriate' for the items 'Backgrounds of the Japanese youths you met and discussed', 'Places selected for observational tours', 'Management and enforcement of the programme', 'Number of programmes', 'Length of stay' and 'Size of your group'. (Particularly, 'Management and enforcement of the programme' marked 98%.) Also, as to the understanding of the theme, about 90% of them answered 'Fairly' or 'Understood'. It can be judged from this fact that this programme is basically conducted smoothly.

The overall impression by the youth can be seen in the Item 11 'How do you evaluate your experience in Japan as a whole?' and Item 12 'Would you recommend participation in this programme to your friends?'. 97% selected 'Excellent' or 'Good' for the Item 11, and as for the Item 12, 99% answered that they would recommend participation in the programme to their friends. This means that the purpose and the basic scheme of this programme are welcomed by any youth.

As for the opportunities to have exchange with Japanese youth, more consideration is needed because half of them answered insufficient. We can say, however, that this result does not mean the way of programme-making is inappropriate, but it is just that the exchange with Japanese youth is highly evaluated.

Also, as 'the most impressive place', half of them named the prefecture they visited in 'Programmes conducted outside of Tokyo'. This means that they highly evaluate the exchange with the local youth and people.

(On programme in Japan)

(Table 2)

1. Opportunities to exchange with Japanese youths
   (1) Sufficient 46% (2) Insufficient 54%

2. Backgrounds of the Japanese youths you met and discussed
   (1) Appropriate 77% (2) Inappropriate 23%

3. Places selected for observational tours
   (1) Appropriate 90% (2) Inappropriate 10%

4. Management and enforcement of the programme
   (1) Appropriate 97% (2) Inappropriate 3%

5. Number of programmes
   (1) Too many 8% (2) Appropriate 85% (3) Not enough 6%

6. Length of stay
   (1) Too long 4% (2) Appropriate 73% (3) Too short 22%

7. Size of your group
   (1) Too large 8% (2) Appropriate 90% (3) Too small 2%

8. Depending on the theme of your group, how would you measure your level of understanding? (Those who participated in a group with a specific theme, please answer below.)
   (1) I understood very well 34% (2) I understood fairly well 55% (3) I understood somewhat 10%
   (4) I didn't understand very well 2% (5) I didn't understand at all 0%

9. Which places impressed you most?
   (1) Tokyo 7% (2) The area of in house Seminar 19% (3) Places that held the programmes outside Tokyo 50%
   (4) Places selected for observational and study tours 19% (5) Others 4%

10. How do you evaluate your experience in Japan as a whole?
    (1) Excellent 51% (2) Good 46% (3) Fair 3%
    (4) Poor

11. Would you recommend participation in this programme to your friends?
    (1) Definitely 88% (2) Probably 11% (3) Not sure 1%
    (4) Definitely not 0%

3. Degree of satisfaction by youth

With the background that the 'Group by theme' was introduced from 1989, in the questionnair this time, we conducted five-grade evaluation method for two questions: 'How well did you understand the content of the programme?' and 'How interesting did you find the programme?' The tables below show the result.

The percentages shown in the collums 'Degree of understanding' and 'Degree of interest' are the total of those who marked 'Understood', 'Fairly' and 'Somewhat' (Degree of understanding), and 'Extremely', 'Pretty' and 'Interesting' (Degree of interest).

(Degree of understanding) (Table 3)

		Understood	Fairly	Somewhat	Little	Not at all	Degree of understanding
General orientation	Lectures	303	329	130	18		97.7%
	Japanese language	107	255	241	152	5	78.7%
	Practice of the Japanese language	94	230	275	162	5	77.0%
	Martial Arts events	215	264	150	55	2	90.0%
	Observational tours	311	288	90	9	3	98.3%
In house Seminar	Discussion with Japanese	273	340	104	24		96.3%
	Association with Japanese	258	313	120	24		96.6%
Programmes conducted in Tokyo	Lectures	362	339	132	22		97.1%
	Observational tours	306	285	85	7	1	98.8%
	Courtesy calls	331	267	77	13	1	98.0%
	Discussions with Japanese other than those in house Seminar	195	298	184	43	4	93.5%
	Exchange with Japanese other than those in house Seminar	186	317	151	53	4	92.0%
Programmes conducted outside of Tokyo	Lectures	261	346	123	23	1	97.0%
	Observational tours	336	266	77	10	1	98.4%
	Courtesy calls	331	272	78	14	1	97.8%
	Discussions with Japanese	233	288	155	29	1	95.8%
	Exchange with Japanese	237	311	129	24	1	96.4%
	Homestay	397	224	59	14		98.0%
Visits to historical places	Kyoto, Nara, etc.	324	248	68	8	1	98.6%
	Hiroshima, Nagasaki, etc.	383	215	55	7		98.9%

(Degree of interest) (Table 4)

		Extremely	Pretty	Interesting	Not very interesting	Not at all interesting	Degree of interest
General orientation	Lectures	96	216	309	44	6	92.5%
	Japanese language	99	93	292	27	2	96.2%
	Practice of the Japanese language	79	83	277	27	1	96.2%
	Martial Arts events	234	214	232	25	3	96.2%
	Observational tours	311	215	187	24	3	96.4%
In house Seminar	Discussion with Japanese	32	94	94	0	2	97.0%
	Association with Japanese	37	183	183	3		98.7%
Programmes conducted in Tokyo	Lectures	124	303	278	50	5	91.7%
	Observational tours	272	219	203	25	1	96.4%
	Courtesy calls	225	199	212	56	5	91.2%
	Discussions with Japanese other than those in house Seminar	236	302	236	28	1	95.9%
	Exchange with Japanese other than those in house Seminar	256	202	221	25	3	96.0%
Programmes conducted outside of Tokyo	Lectures	143	228	233	40	6	92.9%
	Observational tours	300	220	180	20	3	96.9%
	Courtesy calls	258	198	210	40	6	93.5%
	Discussions with Japanese	264	210	205	26	1	96.2%
	Exchange with Japanese	302	209	184	18	2	97.2%
	Homestay	496	188	94	8	1	98.3%
Visits to historical places	Kyoto, Nara, etc.	377	201	144	14	2	97.2%
	Hiroshima, Nagasaki, etc.	424	196	127	2		98.3%

(Comments from the Japanese side)

(1) The tables show high percentage in any programmes, both for 'Degree of understanding' and 'Degree of interest'. It can be considered that 'Degree of satisfaction' on the whole was considerably high. This result supports the evaluation mentioned before in Item 2 on page .

(2) When we compare the figures in each programme, 'Exchange with Japanese', 'Homestay' and 'Visit to Hiroshima' enjoy high percentage, while 'Lectures', 'Courtesy calls' and 'Japanese language lesson' are less popular. This result shows that the participants tend to like active-type or exchange-type programmes. The same result was seen in the last five years.

(3) Considering this tendency, we made an effort to reflect the participants' interest on 'Lectures' and 'Observational tours'. At the same time, we tried to decrease the number of 'Courtesy calls'. As a result, although the figures shown in 'Degree of interest' did not show much difference from those last year, 'Degree of understanding' obtained high percentage. It can be considered that the youth understood the significance and necessity of the programme itself.

(4) As for 'Japanese language lesson' and 'Practice of the Japanese language', the percentage shown in 'Degree of understanding' is lower than that in 'Degree of interest'. We need to find a better way to enhance the effect of learning Japanese language.

Youth Invitation Schedule for "Fiendship Programme for the 21st Century" in 1990

Period	Country	Field (Group)	Size (Persons)	Implementing Organization	Place of Local Programme
May15 ～ Jun.14	Malaysia	Students	20	NAYD	Okinawa
	〃	Teachers	20	IHCSA	Nagano
	Philippines	Students	20	WYVEA	Nigata
	〃	Teachers	20	EIL	Yamanashi
	Thailand	Students(Fine Arts)	25	DAY	Fukushima
	〃	Working Youth	25	WYWA	Wakayama
May29 ～ Jun.28	ASEAN Group	Students	30	UNESCO	Miyagi
	ASEAN Group	Teachers	30	UNESCO	Hyogo
	Brunei	Teachers・Students	20	JOCA	Yamaguchi
	Indonesia	Theme A(Students)	15	WYVEA	Osaka
	〃	Teachers	25	NCYOJ	Tottori
	Singapore	Students	15	WYVEA	Hokkaido
	〃	Teachers	20	IHCSA	Iwate
Jul.3 ～ Aug.2	Philippines	Working Youth(Agricultural)	25	JOCA	Yamagata
	〃	Theme A	20	NAYD	Fukuoka
	Singapore	Civil Servants I	24	IHCSA	Akita
	〃	Working Youth	23	DAY	Miyazaki
	Thailand	Youth Leaders	25	NCYOJ	Ibaraki
	〃	Theme B	15	JSC	Ehime
Jul.10 ～ Aug.9	Korea	Students	30	WYVEA	Toyama
	〃	Teachers	20	IHCSA	Aomori
	〃	Working Youth	30	WYWA	Nara
	〃	Youth Leaders	20	NCYOJ	Hokkaido
Aug.21 ～ Sep.20	ASEAN Group	Civil Servants I	30	IHCSA	Tochigi
	Indonesia	Theme B(Civil Servants)	20	JOCA	Oita
	〃	Agricultural Youth	25	RYEDA	Shiga
	Malaysia	Theme A(Working Youth)	20	JEC	Ibaraki
	〃	Youth Leaders	25	NAYD	Fukui
	Singapore	Civil Servants II	24	DAY	Numazu(Shizuoka)
	〃	Youth Leaders	24	EIL	Okayama
Aug.28 ～ Sep.27	ASEAN Group	Civil Servants II	30	NAYD	Kyushu
	Brunei	Theme A	10	JEC	Osaka
	Philippines	Working Youth(Industrial)	25	JYH	Kyoto
	〃	Theme B	20	JOCA	Kochi
	Thailand	Theme A	15	WYWA	Aichi
	〃	Agricultural Youth	25	RYEDA	Saga
Sep.11 ～ Oct.11	Papua New Guinea	Teachers	20	IHCSA	Nagasaki
	〃	Civil Servants	10	JEC	Gifu
	Fiji	Civil Servants(or Teachers)	12	UNESCO	Kagoshima
	Pacific Countries	Civil Servants	24	WYVEA	Okayama
	〃	Teachers	14	JYH	Ishikawa
	Myanmar	(undecided)	20	WYVEA	Mie
Oct.16 ～ Nov.15	Indonesia	Working Youth	25	WYWA	Gunma
	〃	Students	20	EIL	Hiroshima
	Malaysia	Civil Servants	25	WYVEA	Kagawa
	〃	Theme B(Agricultural Youth)	20	RYEDA	Kumamoto
Nov.6 ～ Dec.6	China	Working Youth(Economic)	25	JEC	Hyogo
	〃	Teachers	25	JOCA	Okayama
	〃	Civil Servants	25	IHCSA	Shimane
	〃	Youth Leaders	25	JSC	Mie
Nov.20 ～ Dec.20	China	(undecided)	25	WYVEA	Tokushima
	〃	(undecided)	25	RYEDA	Gifu
	〃	(undecided)	25	DAY	Okinawa
	〃	(undecided)	25	NAYD	Hiroshima

Theme A : High-Technology Industry in Japan , Theme B : Promotion of Agriculture and Local Industry

Note:

NAYD :National Assembly for Youth Development
NCYOJ :National Council of Youth Organization in Japan
WYVEA :World Youth Visit Exchange Association
EIL :Japanese Association of the Experiment in International Living
RYEDA :Rural Youth Education Development Association
JEC :Junior Executive Council of Japan
WYWA :Working Youth Welfare Association
DAY :Development Association for Youth
IHCSA :International Hospitality and Conference Service Association
JOCA :Japan Overseas Cooperative Association
JSC :Japan Seinendan Council
UNESCO :National Federation of UNESCO Association in Japan
JYH :Japan Youth Hostels, Inc.

Youth Invitation Schedule for "Fiendship Programme for the 21st Century" in 1990

Country	Field (Group)	Size (Persons)	Period
Brunei	Teachers・Students ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	20 5 5	May29 ~Jun. 28 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug. 21~Sep. 20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Theme A	5 10	Aug. 28~Sep. 27 〃
Indonesia	Theme A (Students) Teachers ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	15 25 5 5	May29 ~Jun. 28 〃 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Theme B (Civil Servants) Agricultural Youth	5 20 25	Aug. 21~Sep. 20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug. 28~Sep. 27
	Working Youth Students	25 20	Oct. 16~Nov. 15 〃
Malaysia	Students Teachers	20 20	May15 ~Jun. 14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun. 28 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Theme A (Working Youth) Youth Leaders	5 20 25	Aug. 21~Sep. 20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug. 28~Sep. 27
	Civil Servants Theme B (Agricultural Youth)	25 20	Oct. 16~Nov. 15 〃
Philippines	Students Teachers	20 20	May15 ~Jun. 14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun. 28 〃
	Working Youth (Agricultural) Theme A	25 20	Jul. 3 ~Aug. 2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug. 21~Sep. 20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Working Youth (Industrial) Theme B	5 25 20	Aug. 28~Sep. 27 〃 〃
Singapore	Students Teachers ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	15 20 5 5	May29 ~Jun. 28 〃 〃 〃
	Civil Servants I Working Youth	24 23	Jul. 3 ~Aug. 2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Civil Servants II Youth Leaders	5 24 24	Aug. 21~Sep. 20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug. 28~Sep. 27
Thailand	Students (Fine Arts) Working Youth	25 25	May15 ~Jun. 14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun. 28 〃
	Youth Leaders Theme B	25 15	Jul. 3 ~Aug. 2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug. 21~Sep. 20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Theme A Agricultural Youth	5 15 25	Aug. 28~Sep. 27 〃 〃
Papua New Guinea	Teachers Civil Servants	20 10	Sep. 11~Oct. 11 〃
Fiji	Civil Servants (or Teachers)	12	Sep. 11~Oct. 11
Pacific Countries	Civil Servants Teachers	24 14	Sep. 11~Oct. 11 〃
Myanmar	(undecided)	20	Sep. 11~Oct. 11
China	Working Youth (Economic) Teachers Civil Servants Youth Leaders	25 25 25 25	Nov. 6 ~Dec. 6 〃 〃 〃
	(undecided) (undecided) (undecided) (undecided)	25 25 25 25	Nov. 20~Dec. 20 〃 〃 〃
Korea	Students Teachers Working Youth Youth Leaders	30 20 30 20	Jul. 10~Aug. 9 〃 〃 〃

Theme A : High-Technology Industry in Japan
Theme B : Promotion of Agriculture and Local Industry

Attached Sheet 1-2

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

MODEL PROGRAMME FOR FY 1990

(Except Group by Theme)

		SCHEDULE	PLACE
General Orientation			
1	Tue	Arrival in Tokyo Guidance on Life in Japan	Tokyo
2	Wed	Briefing Opening Ceremony Briefing on programmes by Organization Concerned Japanese Language lesson	〃
3	Thu	Lecture: Industry & Economy of Japan Courtesy Call on Embassy	〃
4	Fri	Japanese Language Lesson Lecture: Modern History of Japan Evening of Japanese Martial Arts	〃
5	Sat	Experimental Japanese Language Lesson	〃
6	Sun	Free	〃
7	Mon	Observation Tour	〃
8	Tue	Lecture: Subject Concerned with Spcialized Field Lecture:Society & Culture of Japan	〃
Specialized Programme in Tokyo (Including In-House Seminar)			
9	Wed	Courtesy Call on Ministry concerned	Tokyo
10	Thu	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
11	Fri	Move to Accomodation for In-House Seminar Opening of The In-House Seminar	Local
12	Sat	Plenary Session Group Discussion Sports/Recreation	〃
13	Sun	Plenary Session Group Discussion Sports/Recreation Exchange Party	〃
14	Mon	Free	Tokyo
Specialized Programme in Local Prefecture (Intluding Homestay)			
15	Tue	Briefing on Specialized Programme in Local Prefecture Move to Local Prefecture	Local
16	Wed	Courtesy Call on Local Government Reception Hosted by Governer	〃
17	Thu	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
18	Fri	Homestay	〃
19	Sat	Homestay	〃
20	Sun	Homestay	〃
21	Mon	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
22	Tue	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
23	Wed	Free	〃
Observation Tour to Hiroshima & Kyoto			
24	Thu	Move to Hiroshima	Hiroshima
25	Fri	Observation Tour in Hiroshima	〃
26	Sat	Sightseeing in Kyoto	Kyoto
27	Sun	Sightseeing in Kyoto	〃
28	Mon	Move to Tokyo	Tokyo
Evaluation Programme			
29	Tue	Free	Tokyo
30	Wed	Evaluation Meeting Briefing on Departure Preparation for Departure Farewell Party	〃
31	Thu	Departure	

Name of Country :

No.

Name of Group :	Size : Persons
Period : from 1990 to 1999	

I *Schedule for Preparation*

1 *Period for application :*

2 *Date of Completing Selection :*

3 *Date of Sending Application Form to JICA :*

4 *Date of Applicants' Meeting Prior to Pre-departure Program(if any) :*

5 *Period of Pre-depature Program :*

II *Qulification of Youth to be Selected*

III *The Name of Organization or School To Which Participants Probably Belong*

IV *Expectation to This Program*

V *Specific Requests to the Program*

7. 韓国調査団資料（和文）

２１世紀のための友情計画
（韓国青年招へい事業）
１９８９年度評価・計画打ち合せ調査団

１９９０年1月１９日
国際協力事業団

１　派遣目的

日・韓双方関係者により１９８９年度事業の評価を行うとともに９０年度の受入計画を打ち合わせる。

２　派遣期間及び日程（案）

1月２３日（火）	１２：３０	ソウル着（ＪＬ９５１）
		日本大使館との打ち合せ
２４日（水）		文教部社会国際教育局長表敬
		社会教育振興課との打ち合せ
		（韓国青少年団体協議会同席）
２５日（木）		引続き韓国関係機関と必要に応じ協議
		現地社会状況視察
	夕方	文教部、青少年団体協議会の関係者、帰国青年との夕食懇談会
２６日（金）		日本大使館への報告・調査結果とりまとめ
	１３：５０	ソウル発（ＪＬ９５２）

３　団員構成

（オオハシ　トシヒロ） 大橋　敏博	総括・団長	文部省学術国際局教育文化交流室 室長補佐・海外協力官
（サトウ　タダヨシ） 佐藤　忠良	分野別 プログラム	中央青少年団体連絡協議会 副委員長
（イソガイ　トシノリ） 磯貝　季典	企画・調整	国際協力事業団研修事業部 青年招へい業務室 職員
（ウシオ　ケイコ） 牛尾　恵子	業務調整	（財）国際協力サービス・センター 研修監理員

４　業務内容

（１）別添３の資料に基づき１９８９年度事業に対する日本側の評価を説明。
韓国側評価の説明を得た上、今後の改善点等につき協議する。

（２）来年度計画については、別添１の各事項を確認すると共に、プログラム内容に対する韓国側の具体的要望を聴取する。また、同時に今後の準備日程を確認する。

（３）韓国側より提示あればその他必要事項に関する協議。

以上

別添１

１９９０年度受入計画に関し確認したい事項
及び韓国側への要望事項

１．各グループ人選の具体的な範囲及び基準

１９９０年度の受入計画

（受入時期）

１９９０年７月１０日（火）～８月９日（木）

（分　野）		（確認事項）
学生（青少年活動者）	３０名	青少年活動者の具体的な内容
教員（中学校教師）	２０名	専攻科目の確認
勤労青年 －都市勤労青年 －農村勤労青年 －科学技術分野青年	３０名 (10) (10) (10)	３グループの混成でなく青年の興味を集約できるような構成に変更できないか。
青年指導者及び関係公務員	２０名	両者の構成の比率は？

２．人選に関する日本側からの要望

（１）女性の比率が低いのでバランスのとれた交流をするため比率を上げてもらいたい

８９年度実績　　全体平均　２０％

学生	３３％
教員	５％
勤労青年	２３％
青年指導者	１１％

（２）年齢制限を厳守してもらいたい（引率者は除く）

１８歳～３５歳（８９年度オーバーは引率者を除いて８名）

８９年度実績　全体平均年齢　２９．４歳（引率者含む）

学生	２３．２歳
教員	３３．０
勤労青年	２８．５
青年指導者	３７．５

３．現地プログラムについて
（人選スケジュール、アプリケーションの送付時期についても協議する。）

（１）韓国側よりの意見（別添２）についての調整、確認
（現地プログラムの早期実施について）

韓国側案
目的：事前知識及び日本語の学習、習得に必要な時間を与える。
予定日：９０年６月上旬
これにともない日本でのプログラムを現プロ実施の２０日前までに通報ありたい

８９年度の実績

ＧＩの送付	４月上旬
アプリケーションの送付	５月末 （約１カ月）
現地プログラム	７／３～７／６（３泊４日） （４日間の準備期間）
来　　日	７／１１

日本側としては
帰国時のアンケートによると現プロ時期については７２％の青年が適当と答えている。（直前すぎる１６％、早すぎる１２％）
さらに、日本側で来日青年のバックグランド、興味を考慮したプログラムを作成するためには、韓国側での人選、アプリケーションの早期送付（２カ月前）が必要になり、現プロを６月上旬、２０日前のプログラム送付で考えると、アプリケーションの送付時期は３月下旬となり実質的に実施はむずかしい。

以上を考慮すると８９年度よりも１週間程度早く実施する案を検討するのが得策であり、具体的日程についてはアプリケーションの送付時に調整する。

ＧＩの送付（日本側）	２月中に送付
アプリケーションの送付（韓国側）	４月上旬
日本でのプログラム送付（日本側）	６月上旬
現地プログラム	６月下旬
来　　日	７／１０（火）

（２）日本側よりの要望事項
現プロの内容に計画当初から事業全体及びＪＩＣＡについての説明時間を組み入れてもらいたい。

グループの和をはかるためにも全員宿泊としてもらいたい。（８９年度はソウル在住者は宿泊しなかった。）

4．その他の要望（韓国側よりの意見　別添２）についての内容、背景を確認する。

産業施設の見学機会の拡大の要望

ホームステイ時、教育・環境・地位・年齢などの考慮を要望

1990年度韓国青年団JICA招請事業に関する意見

<table>
<tr><th>区　分</th><th>意　見</th></tr>
<tr><td>o韓国青年代表団構成</td><td>o グループ別の派遣人員
<table>
<tr><th>区　分</th><th>人．員</th><th>備考</th></tr>
<tr><td>o 大学生（青少年活動者）</td><td>３０</td><td></td></tr>
<tr><td>o 教員（中学校の教師）</td><td>２０</td><td></td></tr>
<tr><td>o 勤労青少年</td><td>３０</td><td></td></tr>
<tr><td>－都市勤労青少年</td><td>(10)</td><td></td></tr>
<tr><td>－農村勤労青少年</td><td>(10)</td><td></td></tr>
<tr><td>－技能科学技術分野青少年</td><td>(10)</td><td></td></tr>
<tr><td>o 青少年指導者及び関係公務員</td><td>２０</td><td></td></tr>
<tr><td>計</td><td>１００</td><td></td></tr>
</table>
＃グループ別引率者含む
o 年令制限：１８才以上、３５才未満である者
－青少年指導者及び関係公務員含む
－引率者の年令制限は除外</td></tr>
<tr><td>o事前教育の早期実施</td><td>o 事前教育の早期実施を要望
－事前知識及び日本語の学習、習得に必要な時間を与える
－予定日時：９０年６月上旬</td></tr>
<tr><td>o訪日日程の早期通報を要望
o その他の事項（89訪問団の要請事項）</td><td>o 事前教育の実施の２０日前まで確定、通報要望
－事前教育の日程を編成時、日本内訪問日程の考慮が必要
o 産業施設の見学機会の拡大の要望
o ネーム・スティ時、教育・環境・地位・年令などの考慮を要望</td></tr>
</table>

２１世紀のための友情計画（韓国青年招へい事業）

１９８９年度実施状況報告書

１９９０年1月２４日
国際協力事業団

１．事業の目的

「２１世紀のための友情計画（韓国青年招へい事業）」は、将来の国作りを担う韓国の青年を日本に招へいし、日本の青年との交流を通じ、２１世紀に向けて、よ　り良き将来と繁栄を分かち合うために、相互理解と友情を培うことを目的とするも　のである。

２.招へい実績

本計画では１９８７年から１９９１年にわたり毎年１００名、計５００名の韓国青年を招へいすることとし、１９８７年１００名、１９８８年９９名に続き、１９８９年度は、勤労青年３１名、青年指導者１８名、小学校教員２０名、学生３０名の計９９名を招へいした。

３．日本でのプログラム

３０日にわたるプログラムは、次のような要素に分れる。
（詳細なプログラムについては別添グループ別プログラム参照）

（１）日本についての経済、文化、政治等についての講義、基幹産業見学（今年度については横浜博覧会）を含む共通プログラム

（２）分野別プログラム
A.日本青年との合宿を含む都内分野別プログラム
B.日本を理解するためのホームステイ等を含む地方分野別プログラム

（３）京都・奈良・広島への見学旅行

（４）評価プログラム

4．評価

（1）総合評価

１９８９年度の受け入れは、本事業が開始されて３年目であることから、日・韓両国関係者の改善の努力によりプログラムも充実したものとなってきたことと、来日青年の意欲的なプログラム参加姿勢により、成功裡に実施することができた。

青年帰国時のアンケートの集計結果によると７８％の青年がプログラム全体を良かったものとして評価している。（集計１）

ただ、青年のアンケート、評価会での意見等をみると、日本青年との交流の機会が不足しているとの指摘がある、さらに印象深いプログラムとしても日本青年との交流の機会がある合宿セミナー、ホームステイのある地方プログラムが上げられており（集計１）、いかに青年が交流的要素を望んでいるかがわかる。従って今後とも同分野の拡充に努力していく必要がある。

（2）昨年の評価からの改善点

a．日程がタイトで休日がなくプログラムが機械的に消化された。
→１週間に１日の割合での休日の設定
→主旨のわかるプログラムの作成

b．大衆文化に触れられる機会の増加
→一般の映画館での日本映画の鑑賞、茶道の体験、浅草散策、プロ野球観戦
歌舞伎、農村歌舞伎、人形浄瑠璃等の観劇、祭りの体験
深川江戸資料館、相撲博物館などの民俗博物館の見学、映画村見学

c．見学に際しての資料の充実
→ハングル語による資料の作成拡充を実施

d．現地プログラムと共通プログラムの重複を避ける。
→現地プログラム時に共通プログラム内容を事前に通報することにより重複を回避すると共に、共通プログラムの講義も質疑応答の時間を増やすなどして青年の興味を引くものとした。

e．合宿セミナー、ホストファミリー等の日本人が韓国について余りにも知らない。
→それぞれ事前研修会、説明会を実施すると共に資料を配布し対応したが、青年からの感想によるといまだ不十分であり今後とも努力する必要がある。

f．合宿セミナーの討議内容、参加者の事前通知
→現地プログラム時に参加者の概要、討議内容を通知すると共に、共通プログラム時にも内容についての日本青年との打ち合せを実施した。

（３）共通プログラムへの評価

今年度は３年目でもあり講義も青年の興味をとらえる工夫がされて来ていること、さらに新しく小グループによる日本青年と実際に都内を歩いての体験的日本語学習、合宿セミナーの事前打合せ、一般の映画館での映画鑑賞なども加わり８８年度より高い評価となった。

（４）グループ別評価

ａ．学生グループ

例年のことながら学生グループにおいては、日本人学生と直接交流する合宿セミナーが高く評価されている。しかしながら討論ばかりでプログラムがたいくつなものになっているとの指摘もあり、今後も工夫が必要である。また、香川県での地方プログラムは、ホストファミリーとの交流や地方の特色を生かしたプログラムが組まれ好評であった。

ｂ．小学校グループ

今年度の４グループのなかではもっともグループの興味が集約されており、地方プログラムでは幼稚園、小学校、高校、特殊教育センターを、単なる見学ではなく専門性のある説明、交流を付加して見学するなどしたことと、青年の教育者としての積極的なプログラム参加姿勢もあって全体的に高く評価された。

ｃ．勤労青年

このグループは、農村勤労青年、都市勤労青年、科学技術分野関係者の混成となっていることから別行動のプログラムを入れるなど配慮したが、見学先の選定に対する評価は残念ながら低いものとなった。

ｄ．青年指導者

地方プログラムにおいてプログラムが盛りだくさんであったものの、専門的なものだけでなく一般的なものも多く、見学先の選定に対する評価は低いものとなった。このことは参加青年の年齢が高く、プログラムに対しての柔軟な対応がむずかしいことも一因していると思える。

（５）現地プログラム

今年度は現地プログラム終了から出発まで４日間の準備期間を設けるなどして８８年度の反省点が改善された。（アンケート集計２参照）
学生グループよりグループ内での交流の機会を設定してもらいたいとの意見が出されている。

以　上

別添：青年帰国時アンケート集計結果
　　１９８９年度グループ別受入プログラム

青年帰国時アンケート集計結果

1. プログラム内容について

		非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	非常に楽しんだ	かなり楽しんだ	段分楽しんだ	あまり楽しまず	全く楽しまず
共通プログラム	講義	4	11	55	24	4	1	14	35	40	5
	日本語学習	3	18	61	11	4	5	27	47	9	5
	体験的日本語学習	9	16	47	22	1	14	34	32	12	2
	武道鑑賞	11	24	36	15	2	14	29	34	16	5
	見学	11	22	43	14	2	16	31	31	16	4
合宿セミナー	日本人との討論	17	43	27	9	1	31	37	19	7	1
	日本人との交流	22	24	38	10		38	32	24	4	1
都内分野別プログラム	講義	4	15	57	21	1	5	15	40	28	5
	見学	9	27	51	10	1	11	30	39	12	4
	表敬訪問		11	64	17	3	4	11	50	20	7
	合宿セミナー以外の日本人との討論	4	22	44	23	5	10	33	29	17	5
	合宿セミナー以外の日本人との交流	3	25	37	26	3	17	25	33	19	3
地方分野別プログラム	講義		21	51	22	3	1	16	42	26	4
	見学	7	32	44	10	2	7	43	33	12	2
	表敬訪問	3	17	57	16	3	4	18	40	20	4
	日本人との討論	7	28	47	12	1	10	36	37	9	1
	日本人との交流	12	37	37	8		19	45	22	9	1
	ホームスティ	27	25	29	3	1	42	25	16	4	3
見学旅行	京都または奈良他	14	29	41	9		14	33	39	9	1
	広島または長崎他	14	32	36	12	1	14	26	35	14	6

2. 日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	32	63

	適当	不適当
2．討議・交流した日本青年の分野	58	39

	適当	不適当
3．見学先の選定	43	53

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	83	13

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数	42	52	3

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	29	65	4

	大きすぎる	適当	少なすぎる
7．グループの大きさ	20	73	4

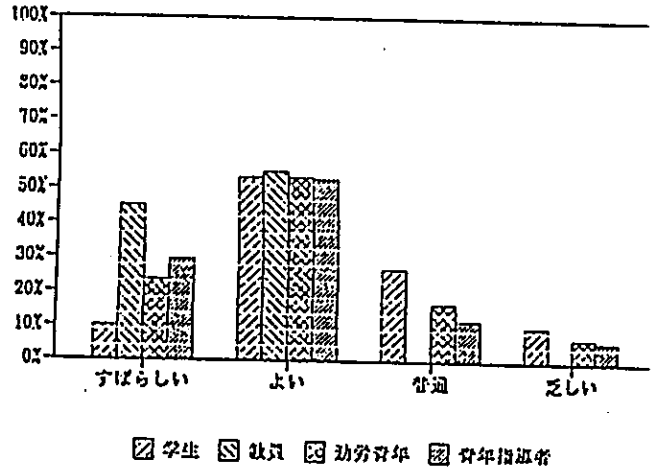
	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解	14	22	51	8	

	東京	合宿セミナー	地方，プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	2	42	43	9	3

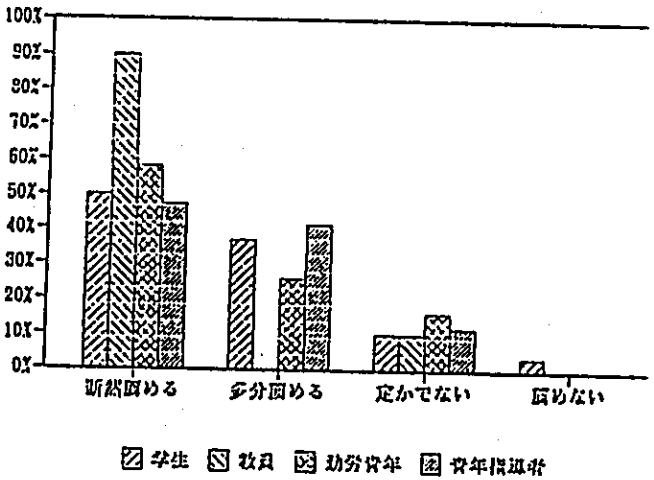
	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	24	52	15	6

	断然薦める	多分薦める	定かでない	薦めない
12．次人に参加を薦めるか	59	26	12	1

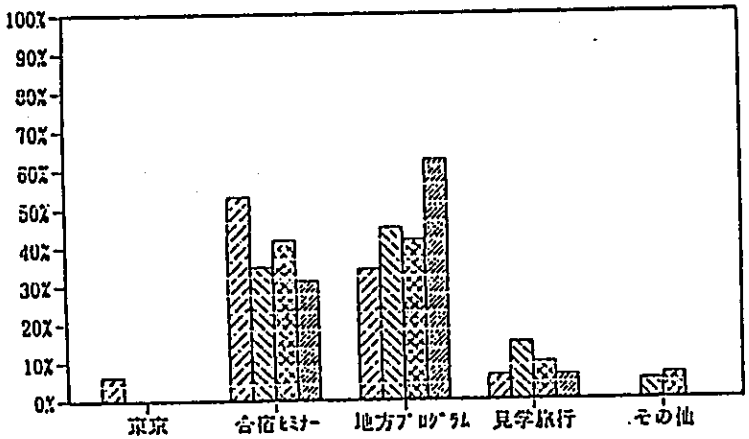
全体としての評価



次人に参加を薦めるか

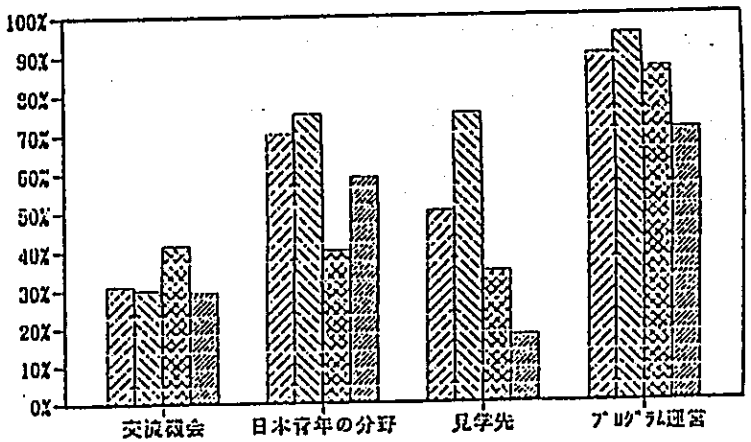


どこが最も印象深かったか



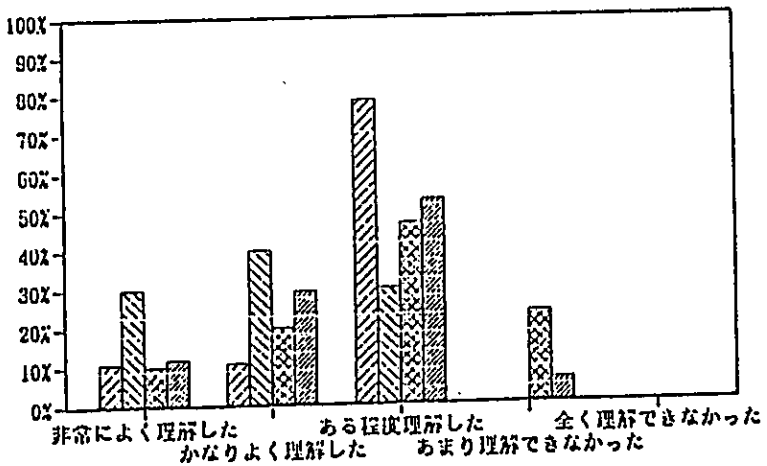
学生　教員　勤労青年　青年指導者

適当（充分）と回答した割合



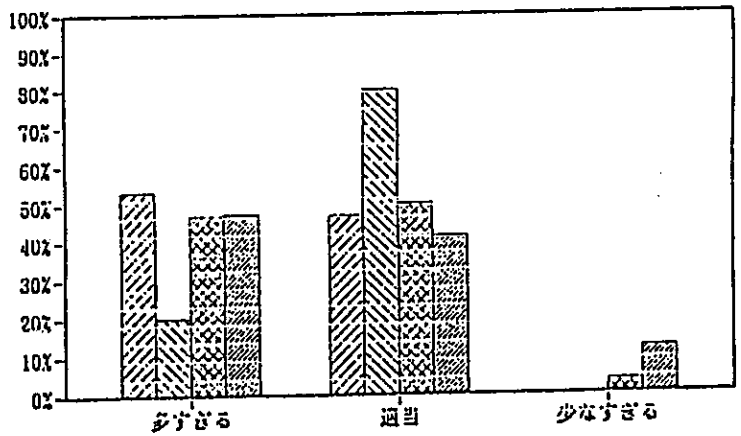
学生　教員　勤労青年　青年指導者

テーマについての理解



学生　教員　勤労青年　青年指導者

プログラム数



学生　教員　勤労青年　青年指導者

3. 現地プログラム

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地プログラムの期間	33	62	2

	早すぎる	適当	直前すぎる
2．現地プログラムの時期	11	70	16

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数	49	46	3

	適当	不適当
4．講義内容	48	48

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間	1	49	46

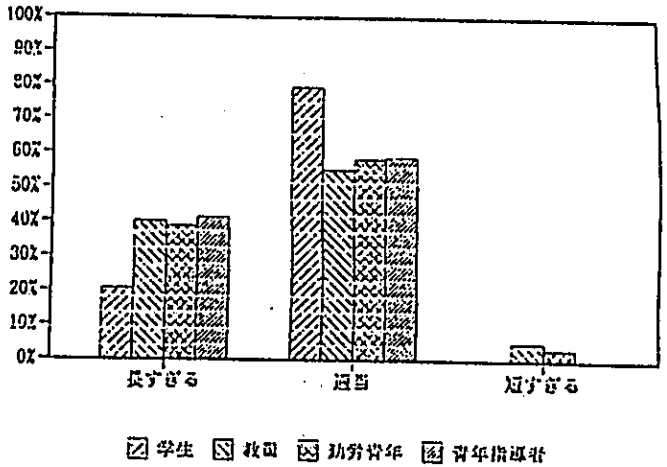
	適当	不適当
6．日本語学習の内容	77	20

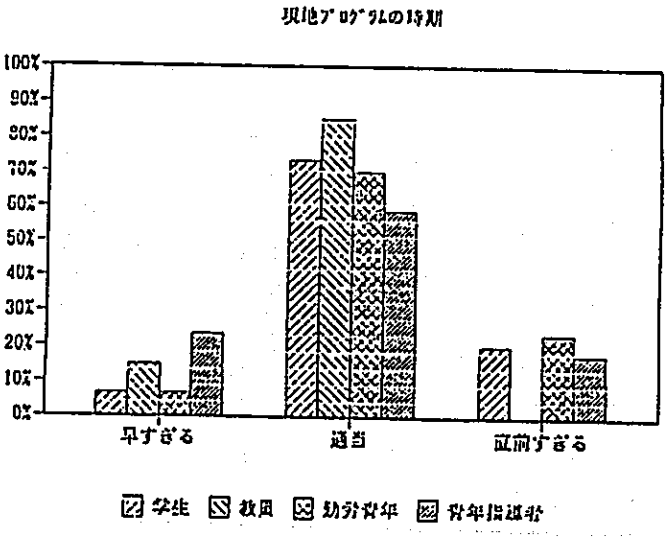
	多すぎる	適当	少なすぎる
7．コーディネーターによるプログラム説明の時間	4	89	5

	適当	不適当
8．毎日プログラム説明の内容	77	20

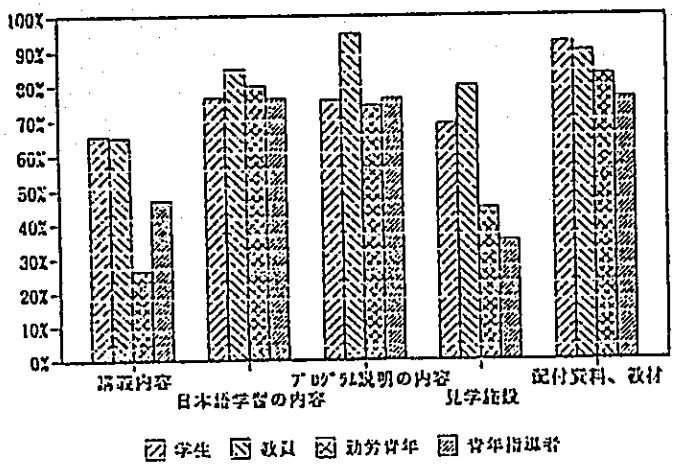
	適当	不適当
9．見学施設	55	40

	適当	不適当
10．配布資料および教材	81	13

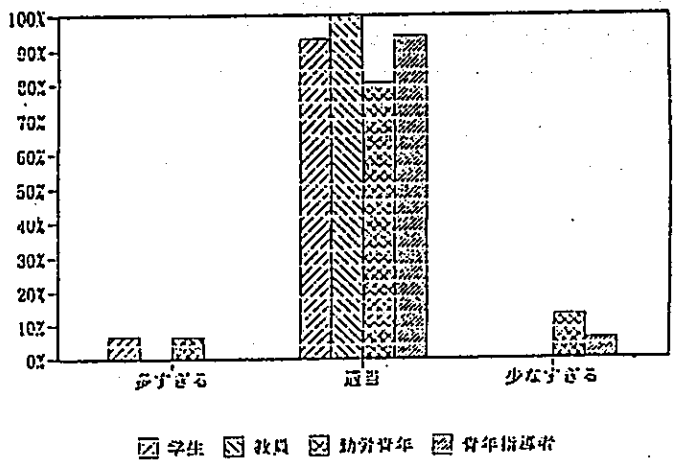




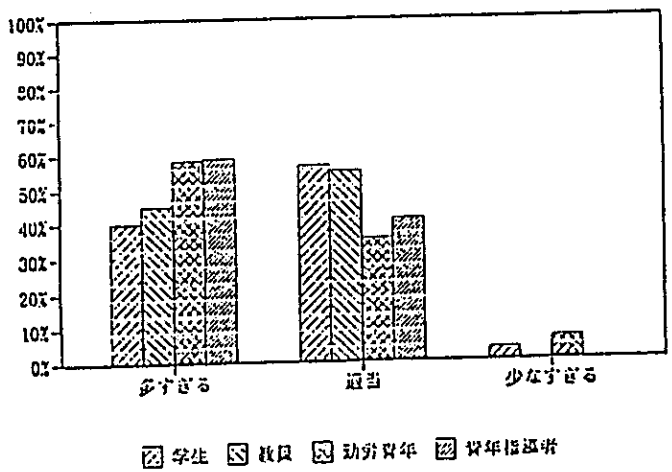
適当と回答した割合



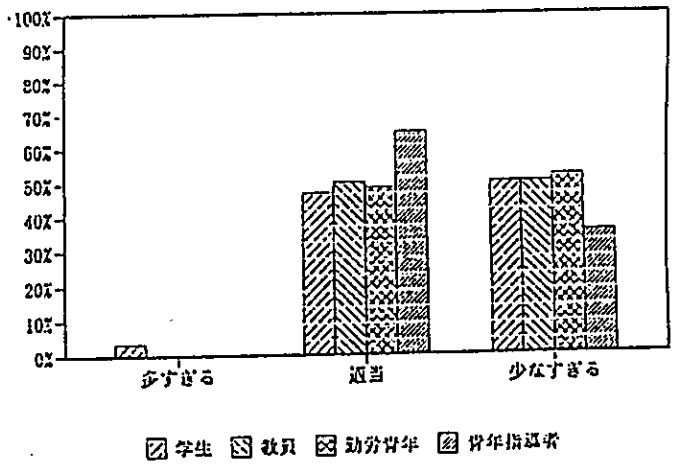
プログラム説明の時間



講義数



日本語学習の時間



21世紀のための友情計画 実行計画書

第4班 国名：日　　区 分野：学生 人数：31名 分野別実施協力団体：（財）世界青少年交流協会 地方分野別プログラム担当支部：四国支部

区分		月日	曜日	プログラム 午前	プログラム 午後	実施場所	宿泊場所	電話番号
共通プログラム	1	7/11	火	（JL 8854 14:50→17:40）	来日　生活ガイダンス	東京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
	2	7/12	水	本部員のブリーフィング（結団式） 歓迎会	日本語学習Ⅰ　団体のプログラム紹介	〃	〃	〃
	3	7/13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語学習Ⅱ　日本語サロン	〃	〃	〃
	4	7/14	金	講義「日本の近・現代史」	映画鑑賞　歓迎懇会	〃	〃	〃
	5	7/15	土	合宿セミナー打合せ	体験的日本語学習	〃	〃	〃
	6	7/16	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	7	7/17	月	横浜博覧会見学	同左　日本語サロン	〃	〃	〃
	8	7/18	火	講義「日本と韓国」	「日本の社会と文化」	〃	〃	〃
合宿セミナー	9	7/19	水	芝パークホテルへ　オリエンテーション 開講式	大学見学	〃	芝パークホテル	03-433-4141
	10	7/20	木	下町風俗資料館　相撲博物館	自主研修	〃	〃	〃
	11	7/21	金	山中湖へ移動	合宿セミナー　分科会Ⅰ　全体討論	山梨	シャトーテル山中湖	0555-62-2231
	12	7/22	土	分科会Ⅱ	レクレーション　分科会Ⅰ	〃	〃	〃
	13	7/23	日	分科会Ⅲ	分科会Ⅳ　交流のタベ	〃	〃	〃
	14	7/24	月	バスにて富士山へ（五合目）	都内宿舎へ	東京	芝パークホテル	03-433-4141
地方分野別プログラム	15	7/25	火	香川へ移動　羽田空港発（JAS 393便）	オリエンテーション（香川県の概要説明）	香川	ホテルリッチ高松	0878-22-3555
	16	7/26	水	瀬戸大橋記念公園見学	四国電力坂出発電所見学　歓迎レセプション	〃	〃	〃
	17	7/27	水	県指定無形民俗文化財・琴引庄（獅子歌舞伎）	陸送産業見学（新潟屠工場）	〃	〃	〃
	18	7/28	金	深沢工場見学	少林寺拳法道場見学　民泊家庭へ	〃	ホームステイ家庭	
	19	7/29	土	瀬戸内海クルージング（手造りて風食）	記念植樹（公園）　民泊家庭へ	〃	〃	
	20	7/30	日	ホームステイ	ホームステイ	〃	〃	
	21	7/31	月	瀬戸内海歴史民族資料館見学・自然科学館見学	五色台少年自然の家・野外活動センター見学	〃	ラポールインタカマツ	0878-62-2431
	22	8/01	火	特別老人ホーム「香寿園」見学	香川県知事表敬訪問，香川県議会見学	〃	〃	〃
	23	8/02	水	自主研修	荷物整理　さよならパーティ	〃	〃	〃
見学旅行プログラム	24	8/03	木	浮桟公園　香川から広島へ移動	広島着　平和公園	広島	広島グランドホテル	082-227-1313
	25	8/04	金	宮島見学	京都へ移動（新幹線 ひかり36号）	京都	第2タワーホテル	075-361-3261
	26	8/05	土	奈良へ　奈良市内見学（東大寺，奈良公園等）	同左	〃	〃	〃
	27	8/06	日	京都市内見学（金閣寺，清水寺，映画村等）		〃	〃	〃
	28	8/07	月	東京へ移動（新幹線 ひかり344号）	ホテルへ	東京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
評価プログラム	29	8/08	火	帰国旅程	同左	〃	〃	〃
	30	8/09	水	評価会　帰国についての説明・諸手続	帰国旅程　歓送会	〃	〃	〃
	31	8/10	木	帰国（JL 953 11:30→13:50）				

２１世紀のための友情計画実行計画書（１９８９）

89. 6. 29

第4陣　国名：韓国　　分野名：教員　　人数：２０名　分野別実施協力団体：（社）国際交流サービス協会　地方協力団体：北海道青少年団体連絡協議会　　ＪＩＣＡ担当支部：北海道支部

区分		月日	曜日	プログラム内容 午前	プログラム内容 午後	実施場所	宿泊場所	電話番号
共通プログラム	1	7／11	火		来日（JL954 14:50発 17:10着）　生活ガイダンス	東　京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
	2	7／12	水	本計画のブリーフィング（諸手続）　歓迎会	日本語学習Ⅰ，団体のオリエンテーション	〃	〃	〃
	3	7／13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語学習Ⅱ　日本語サロン	〃	〃	〃
	4	7／14	金	講義「日本の近・現代史」	映画鑑賞　武道観賞 ちゃぶ交歓会	〃	〃	〃
	5	7／15	土	合宿セミナー打合せ	体験的日本語学習	〃	〃	〃
	6	7／16	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	7	7／17	月	横浜博覧会 見学	同左　夜間日本語サロン	〃	〃	〃
	8	7／18	火	講義「日本と韓国」	講義「日本の社会と文化」	〃	〃	〃
地方分野別プログラム	9	7／19	水	北海道へ移動・（08:30 羽田発／09:55 千歳着 JAL503）	支笏湖，札幌東高校見学（授業・クラブ活動等）	北海道	ホテルノースシティ	011-512-4433
	10	7／20	木	（幼稚園見学）札幌山の手南小学校訪問	同左　大倉山シャンツェ	〃	〃	〃
	11	7／21	金	道知事・札幌市長表敬訪問	教育長表敬，北海道教育概要説明，レセプション	〃	〃	〃
	12	7／22	土	市内中心部～真駒内～芸術の森～羊ケ丘	北海道開拓記念館～札幌ビール工場　（豊平川花火大会）	〃	〃	〃
	13	7／23	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	14	7／24	月	特殊教育センター見学	移動（札幌～日高管内静内町）　地元青年との交流会	〃	ウェリントンホテル	01464-3-3811
	15	7／25	火	レクリエーション	オリエンテーション，ホームステイ	〃	ホームステイ	
	16	7／26	水	ホームステイ	同左	〃	〃	〃
	17	7／27	木	ホームステイ	さよならパーティ	〃	ウェリントンホテル	01464-3-3811
	18	7／28	金	バスで移動（静内町～千歳）	東京へ移動（13:50 千歳発／15:20 羽田着ANA　60）	東　京	ホテルB＆B	03-642-0011
合宿セミナープロ	19	7／29	土	自主研修	合宿セミナーへ	神奈川	相模湖トリム研修セ	04268-7-4501
都内分野別プログラム	20	7／30	日	基調講演（日本／韓国青年）	分科会　報告会　交流の夕べ	〃	〃	〃
	21	7／31	月	スポーツ大会	東京へ移動	東　京	ホテルB＆B	03-642-0011
	22	8／1	火	自主研修	同左	〃	〃	〃
	23	8／2	水	お茶会	ＮＨＫ放送センター	〃	〃	〃
見学旅行プログラム	24	8／3	木	広島へ移動（09:00 東京／13:36 広島　ひかり２３）	広島市内視察（平和記念公園）	広　島	広島グランドホテル	082-227-1313
	25	8／4	金	広島市内見学（宮島）	京都へ移動（15:36 広島／17:53 京都　ひかり１０）	京　都	新都ホテル	075-661-7111
	26	8／5	土	京都市内見学（映画村）	京都市内見学（古代友禅苑，他）	〃	〃	〃
	27	8／6	日	奈良市内見学（奈良公園，東大寺他）	同左	〃	〃	〃
	28	8／7	月	京都市内見学	東京へ移動（13:53 京都／16:32 東京　ひかり２４）	東　京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
評価プログラム	29	8／8	火	帰国準備	同左	〃	〃	〃
	30	8／9	水	評価会　帰国についての説明・諸手続	帰国準備　歓送会	〃	〃	〃
	31	8／10	木	帰国（JL953 11:30発 13:50着）		〃	〃	〃

２１世紀のための友情計画実行計画書

第4陣　国名：韓　国　分野：勤労青年　人数：３１名　実施協力団体：（社）勤労厚生協会　地方協力団体：仙台青年会議所　ＪＩＣＡ担当支部：東北支部

区分		月日	曜日	プログラム内容 午前	プログラム内容 午後	備考	
共通プログラム	1	7－11	火		成田(JL 954　14:50→17:00)　生活ガイダンス	宿泊　池袋メトロポリタン	03-986-1111
	2	7－12	水	諸手続き　ブリーフィング　歓迎会	日本語学習（1）団体オリエンテーション	〃	
	3	7－13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語学習（II）日本語サロン	〃	
	4	7－14	金	講義「日本の近・現代史」	映画鑑賞　武道観賞	〃	
	5	7－15	土	合宿セミナー打ち合わせ	体験的日本語学習	〃	
	6	7－16	日	自主研修		〃	
	7	7－17	月	横浜博覧会見学	同左　夜間日本語サロン	〃	
	8	7－18	火	講義「日本と韓国」	講義「日本の社会と文化」	〃	
都内プログラム	9	7－19	水	都内見学　浅草	労働大臣表敬　日本の労働行政について講義	宿泊　新宿サンパークホテル	03-362-7101
合宿セミナープログラム	10	7－20	木	一日研修　都市部労青年グループ　工場見学　東王冶都市部(株)　茨城台東区工場／農村青年グループ　埼玉県立農業大学校　農協研修所　先輩農家(米,花,酪農)		〃	
	11	7－21	金	日本青年との合宿セミナー　オリエンテーション	グループディスカッション（6対6）　スポーツ交流	宿泊　相模湖トリムセンター	04263-7-4501
	12	7－22	土	グループディスカッション（6対6）	グループディスカッション（6対6）　自然友流ハイキング		
	13	7－23	日	グループディスカッション（まとめ）	感想文を書く　お別れセレモニー　ホテルへ	宿泊　新宿サンパークホテル	03-362-7101
	14	7－24	月	自主研修	同左	〃	
地方プログラム	15	7－25	火	宮城県へ移動	宮城県プログラムオリエンテーション	宿泊　宮城第一ホテル	022-297-4411
	16	7－26	水	知事表敬　県政概要説明	河北新報社見学　知事歓迎レセプション	〃	
	17	7－27	木	一日研修　都市部労青年グループ　工場見学(株)東芝リコー／農村青年グループ　宮城県立農業試験場	阿部蒲鉾店　泉工場	〃	
	18	7－28	金	ホームステイ家庭へ引き渡し	同左	宿泊　ホスト家庭	
	19	7－28	土	ホームステイ	同左	〃	
	20	7－30	日	ホームステイ	ホームステイ家庭より引き取り	宿泊　宮城第一ホテル	022-297-4411
	21	7－31	月	日本青年との交流　テーマ別ディスカッション	体験入学（茶道・華道など）	〃	
	22	8－1	火	工場見学　キリンビール仙台工場	蔵王こけし館　工芸の館見学	〃	
	23	8－2	水	自主研修		〃	
広島プログラム	24	8－3	木	広島へ移動（高速バス・新幹線にて）	広島市内見学　平和記念公園	宿泊　広島グランドホテルン	082-227-1313
	25	8－4	金	徳島へ移動（新幹線・瀬戸大橋にて）	徳島市内見学　阿波十郎兵衛屋敷　鳴門公園	宿泊　鳴門プリンスホテル	0886-85-4567
	26	8－5	土	京都へ移動（鳴門大橋・水中翼船で）	京都市内見学　清水寺・古代衣裳（祇園コーナー）	宿泊　京都グランドホテル	075-341-2241
	27	8－6	日	京都市内見学　金閣寺・西陣会館	京都市内散策　円山公園　二条城	〃	
	28	8－7	月	京都市内散策	東京へ移動	宿泊　池袋メトロポリタン	03-986-1111
評価プログラム	29	8－8	火	自主研修		〃	
	30	8－9	水	評価会　帰国手続き　帰国準備	歓送会	〃	
	31	8－10	木	帰国　JL953（11:30→13:50）			

21世紀のための友情計画　実行計画概要

研修国名：韓国　分野名：青年指導者　人数：18名　実施協力団体：(財)青少年育成国民会議　地方協力団体：鳥取県青友会　JICA担当支部：中国支部

区分		月	日	曜日	プログラム内容 午前	プログラム内容 午後	実施場所	宿泊場所	電話番号
共通プログラム	1	7	11	火	来日	生活ガイダンス	東京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
	2	7	12	水	本計画のブリーフィング　歓迎会	日本語会話I　団体のオリエンテーション	〃	〃	〃
	3	7	13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語会話II　日本語サロン	〃	〃	〃
	4	7	14	金	講義「日本の近・現代史」	映画鑑賞　歓迎懇談および交歓会	〃	〃	〃
	5	7	15	土	合宿セミナー打合せ	体験的日本語学習	〃	〃	〃
	6	7	16	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	7	7	17	月	横浜博覧会見学	同左　日本語サロン	〃	〃	〃
	8	7	18	火	分野別講義	講義「日本の社会と文化」	〃	〃	〃
国内分野別および合宿セミナープログラム	9	7	19	水	・メトロポリタン発 ・NAYDプログラムオリエンテーション(青少年団体の実施および青年指導者) ・初上長会議	・左(青年指導者対象)(青少年団体関係)「青少年育成セミナの講義」 ・東京ドリームフェア(内容未定)	東京	高輪東急ホテル	03-443-1211
	10	7	20	木	・文化庁(文化学園講堂)「日本文化の特質」(講義)	・東京学生会館(日本の社会体験) ・東京ドーム(野球観戦)	〃	〃	〃
	11	7	21	金	・8:30 ホテル発 ―富士・箱根観光―	・ホテル発 皇居散策 ・日本交流のつどい	東京 富士吉田	プロパセブン富士	0555-8-2211
	12	7	22	土	・グループ別討議(I)「21世紀の日韓関係を考える」	・グループ別討議(II) ・ディスカッション ・キャンプファイヤー	富士吉田	〃	〃
	13	7	23	日	・8:00 ホテル発 東京へ ・ホテル着	・自由研究 ・自由	富士吉田 東京	高輪東急ホテル	03-443-1211
	14	7	24	月	・ホテルチェックアウト ―終日自主研修― ・21:30 空港発(大阪空港)		東京	利平内	
地方分野別プログラム	15	7	25	火	・11:00 松江着 ホテルへ ・オリエンテーション(地域と文化の特質)	・市内観光	松江	松江ワシントンホテル	0852-22-8111
	16	7	26	水	―終日自由―	・比丘尼寺と市内散策・夕食	〃	〃	〃
	17	7	27	木	・鳥取県知事表敬 ・県官房長(県庁講義)	・比丘尼寺青年指導者との交歓会 ・知事主催「レセプション」	〃	〃	〃
	18	7	28	金	・11:00 ホテル発 ―ふるさと創生(地域活性化の18施策)―		吉田村	(財)村(県)湯之上館	0858-87-0573
	19	7	29	土	・9:00 大山へ ―グループ別研修(ディスカッション)― ・行動	・11:00 「日韓両国の生活と文化」 ・比丘尼寺と大学会	一畑薬師	国民宿舎一畑薬師	0853-37-0111
	20	7	30	日	・平和日本文化体験 ・11:00 3社社(大宮寺・大田寺・仁摩寺)	・ホームステイ打合せ ―ホームステイプログラム―	大田市・大田市・仁摩寺	ホームステイ	
	21	7	31	月	―終日ホームステイプログラム―				
	22	8	1	火	―同上―			ホームステイ	
	23	8	2	水	―終日ホームステイプログラム―	・ホームステイ打ち上げ ・サヨナラパーティー	大田市	島根県婦人会会館	0853-23-7308
見学旅行プログラム	24	8	3	木	・9:00 大阪へ出発(バス)(昼食)	15:00 大阪ホテル着 15:30 平和公園(原爆ドーム・平和祈念資料館)	広島 大阪	広島東急イン	082-248-8181
	25	8	4	金	・9:00 広島駅発(ひかりスペース)	・11:45 東京駅着 ―東京市内(皇居・靖国寺・靖国寺)観光―	大阪 京都	かさぎ京都ホテル	075-371-0111
	26	8	5	土	・9:30 ホテル発 ―終日奈良市内(東大寺・春日社)―	奈良国立博物館 ―― ・18:00 ホテル着	(奈良)	〃	〃
	27	8	6	日	―終日自由―	(市内散策)	京都	〃	〃
	28	8	7	月	・17:10 ホテル発 ・20:00 東京駅発(ひかりスペース)	・11:00 東京駅着 ・12:00 メトロポリタン着 自由	東京	池袋メトロポリタン	03-980-1111
評価プログラム	29	8	8	火	帰国準備	同左	〃	〃	〃
	30	8	9	水	評価会　帰国についての説明・話手録	歓送会	〃	〃	〃
	31	8	10	木	帰国				

韓国青年招へい事業招へい実績

1990.1.23

分　　野	８７年度	８８年度	８９年度	合　　計	90予定	累計
勤労青年	３５		３１	６６	３０	９６
農村青年	２５			２５		２５
青年指導者	４０		１８	５８	２０	７８
教　　員		７４	２０	９４	２０	１１４
学　　生		２５	３０	５５	３０	８５
小　　計	１００	９９	９９	２９８	１００	３９８

8. 韓国調査団資料（韓文）

韓国青年招へい実績グループ内訳

1990.1.23

◎８７年度　（Ⅰ）勤労青年（３５名）

・都市勤労青少年２０名および関連科学技術分野青年１５名

（Ⅱ）農村青年（２５名）

・農村勤労青少年２０名および関連科学技術分野青年５名

（Ⅲ）青年指導者Ａ（２０名）

・青少年団体の指導者２０名

（Ⅳ）青年指導者Ｂ（２０名）

・青年指導関連公務員（スポーツ、文化、社会活動等）および青少年団の指導者

◎８８年度　（Ⅰ）小学校教師（２５名）

（Ⅱ）中学校教師（２５名）

・社会科、特に歴史、地理、倫理社会

（Ⅲ）高等学校教師（２５名）

・社会科、特に歴史、地理、倫理社会

（Ⅳ）学生（２５名）

・文科系

◎８９年度　（Ⅰ）勤労青年（３１名）

・都市勤労青年１１名、科学技術分野青年１０名農村勤労青年１０名

（Ⅱ）青年指導者（１８名）

・青年指導者５名、関係公務員１３名

（Ⅲ）教員（２０名）

・小学校教員

（Ⅳ）学生（３０名）

・理科系

２１世紀　　友情計画（韓国青年招청　事業）

１９８９年度実施状況報告書

１９９０年1月２４日
国際協力事業団

１．事業의目的

「２１世紀를 위한 友情計画（韓国青年招청　事業）」은　将来의 나라를 짊어갈 韓国의青年을 日本에 초청하여 日本의青年과의交流를 통해 ２１世紀를向하여 보다 좋은 将来과繁栄을 공유하기 위해,　相互理解와友情을 배양한 것을 目的으로 삼는다.

２.招청　実績

本計画으로는１９８７年부터 １９９１年에걸쳐서 毎年１００名、計５００名 韓国青年을 초청하기로 했으며,　１９８７年１００名、１９８８年９９名에 이어서１９８９年度에는 勤労青年３１名、青年指導者１８名、小学校教員２０名、学生３０名　計９９名을 초청했다.

３．日本에서의 프로그램

３０日에 걸친 프로그램은 다음과 같은　要素로 나누어진다.
（詳細한 프로그램에 관해서는 別添　그룹 別프로그램을参照）

（１）日本에 대한　経済、文化、政治等에 관한　講義、基幹産業見学
（今年度에 있어서는 横浜博覧会）을 포함한共通프로그램

（２）分野別프로그램
A.日本青年과의合宿을포함한都内分野別프로그램
B.日本을理解하기위한 홈스테이등을 포함한　地方分野別프로그램

（３）京都・奈良・広島등의 見学旅行

（４）評価 프로그램

4. 評価

(1) 総合評価

1989年度의 이 계획은 本事業이開始된지 3年째이며 韓·日 両国関係者의改善의努力으로 인해 프로그램내용도 보다 充実해짐과 동시에 来日青年의意欲的인 프로그램 参加姿勢로 인해 成功裡에実施할 수 있었다.

青年帰国時의 앙케이트의 集計結果에 의하면 78%의青年들이 프로그램 全体가 좋았다라는 평가를 내리고 있다.(集計1)
다만 青年의 앙케이트, 評価会에서의意見等을 본다면 日本青年과의交流의機会가不足했다라는 指摘이 있었다. 또한 印象적인 프로그램으로서도 日本青年과의 交流의機会가 있는 合宿세미나, 홈스테이가 포함되어 있는 地方프로그램을 선택하고 있으며 (集計1)、얼마나 青年들이交流的要素를 원하고 있는가 알 수 가 있다. 따라서 앞으로도同分野의 拡充에 努力해 나갈 必要가 있다.

(2) 昨年의評価에 의한改善点

a. 日程이 하아드하고 休日도 없어서 프로그램을 機械的으로消化시켰다.
→1週間에1日정도의 바쁘지 休日을 設定
→主旨가 알기쉬운 프로그램의 作成

b. 大衆文化에 접할수있는機会의 増加
→一般의映画館에서의日本映画를 鑑賞、茶道를 体験、浅草散策、프로 野球観戦
歌舞伎、農村歌舞伎、人形浄瑠璃等의観劇、祭(마쓰리)体験
深川江戸資料館、相撲博物館등의 民俗博物館을 見学、映画村見学

c. 見学을 할때의 資料의充実
→ 韓国語로 된 資料의作成拡充을実施

d. 現地프로그램과 共通프로그램의 重複을 피한다.
→現地프로그램시에 共通프로그램 内容을事前에通報함으로서 필요없는重複을回避함과 동시에 共通프로그램의 講義도質疑応答의時間을 증가하는 등 青年들이興味를 가질수 있게끔 했다.

e. 合宿세미나, 홈스테이 가족 等 日本人들이韓国에 대해서 너무 모른다.

→ 각각 事前研修会、説明会를 実施함과 동시에 資料를 配布하여対応했지만 青年들의 소감에 의하면 아직不充分하며 今後도 努力할 必要가 있다.

f. 合宿세미나의 討議内容、参加者의事前通知
→現地 프로그램 時에 参加者의概要、討議内容을 通知함과 동시에 共通프로그램 현에도内容에 관한 日本青年과의 사전미팅을 実施했다.

(3) 共通프로그램에 대한 評価

今年度는 3年째므로 講義도 青年들의 興味를 이끌게 하도록 연구, 개선 했봤다. 또 나아가서 小人員数의 그룹으로 日本青年과 実際로 都内를 다녀 볼 体験的日本語学習、合宿세미나의 事前미팅 、一般의 映画館에서의 映画鑑賞등의 있었으며 88年度보다 높은 評価를 받게 되었다.

(4) 그룹 別評価

a. 学生 그룹

매년 같기는 하나 学生그룹에 있어서는 日本人学生과 直接交流할 合宿세미나가 높은 評価를 받고 있다. 그러나 討論만으로는 프로그램이 지루해진다라는 지적도 있었으며 앞으로도 많은 연구가 必要할 것이다. 또한 香川県에서의 地方프로그램은 호스트 파미리과의 交流, 地方의 特色을 살린 프로그램이 있어서 好評이었다.

b. 小学校 그룹

今年度의 4그룹 중에서는 가장 명확하게 그룹의 興味가 集約되어 있었으며 地方프로그램에서는 幼稚園、小学校、高校、特殊教育센터등을 単순한 見学이 아니라 専門性이 있는 説明、交流를 付加해서 見学할 수 가 있었다. 또 青年들의 教育者로서 積極的으로 프로그램에 参加하였기 때문에 全体的으로 높은 評価를 받았다.

c. 勤労青年

이 그룹는 農村勤労青年、都市勤労青年、科学技術分野関係者의 混成으로 이루어지고 있었기때문에 몇개의 프로그램을 실시하는 등의 配慮를 했으나 見学장소의 選定에 対해서는 評価가 유감스럽게도 낮았다.

d. 青年指導者

地方프로그램에 있어서 프로그램이 가득있는데도 불구하고 専門的인 분야만이 아니고 一般的인 것이 많아 見学장소의 選定에 対한 評価는 낮은 것이었다. 그러나 이것은 参加青年이 年齢이 높아(平均年齢 37.5세) 프로그램에 대해서 융통성 있게 대응하기가 어려웠다는 것도 하나의 원인이라고 생각된다.

(5) 現地 프로그램

今年度는 現地프로그램이 끝나고 出発까지 4日間의 準備期間을 마련하는 등 해서 88年度의 反省点을 改善했다. (앙케이트 集計2参照)

学生 그룹에서 그룹내 자체가 交流할 機会를 마련하기를 원한다는 意見이 나와 있었다.

以 上

別添：青年帰国時 앙케이트集計結果

1989年度 그룹 別 실시 프로그램

青年 帰国時 앙케이트集計結果

1. 프로그램 내용에 관해서

		매우잘 이해할수 있었다	상당히잘 이해할수 있었다	어느정도 이해할수 있었다	그다지잘 이해할수 있었다	전혀 이해할수 없었다
共通프로그램	講義	4	11	55	24	4
	日本語学習	3	10	61	11	4
	体験的日本語学習	9	16	47	22	1
	武道指導	11	24	36	15	2
	見学	11	22	43	14	2
合宿세미나	日本人과의 討論	17	43	27	9	1
	日本人과의 交流	22	24	30	10	
都内分野別프로그램	講義	4	15	57	21	1
	見学	9	27	51	10	1
	天皇訪問		11	64	17	3
	合宿세미나以外의日本人과의 討論	4	22	44	23	5
	合宿세미나以外의日本人과의交流	3	25	37	26	3
地方分野別프로그램	講義		21	51	22	3
	見学	7	32	44	10	2
	天皇訪問	3	17	57	16	3
	日本人과의討論	7	20	47	12	1
	日本人과의交流	12	37	37	8	
	홈스테이	27	25	20	3	1
見学旅行	京都 또는 奈良·기타	14	29	41	9	
	広島 또는 長崎·기타	14	32	36	12	1

매우 즐겼다	상당히 즐겼다	약간 즐겼다	그다지 즐기지 못했다	전혀 즐기지 못했다
1	14	35	40	5
5	27	47	9	5
14	34	32	12	2
14	29	34	16	5
16	31	31	16	4
31	37	19	7	1
38	32	24	4	1
5	15	40	28	5
11	30	39	12	4
4	11	50	20	7
10	33	29	17	5
17	25	33	19	3
1	16	42	26	4
7	43	33	12	2
4	18	40	20	4
10	36	37	9	1
19	45	22	9	1
42	25	16	4	3
14	33	39	9	1
14	26	35	14	6

2. 日本에서의 프로그램

	充分	不充分
1. 日本青年과의 交流機会	32	63

	適当	不適当
2. 計画・交流한 日本青年의 分野	58	39

	適当	不適当
3. 見学장소 選定	43	53

	適当	不適当
4. 프로그램의 運営・管理	83	13

	너무 많다	適当	너무 적다
5. 프로그램 数	42	52	3

	너무 길다	適当	너무 짧다
6. 滞在期間	29	65	4

	너무 크다	適当	너무 적다
7. 그룹의 규모	20	73	4

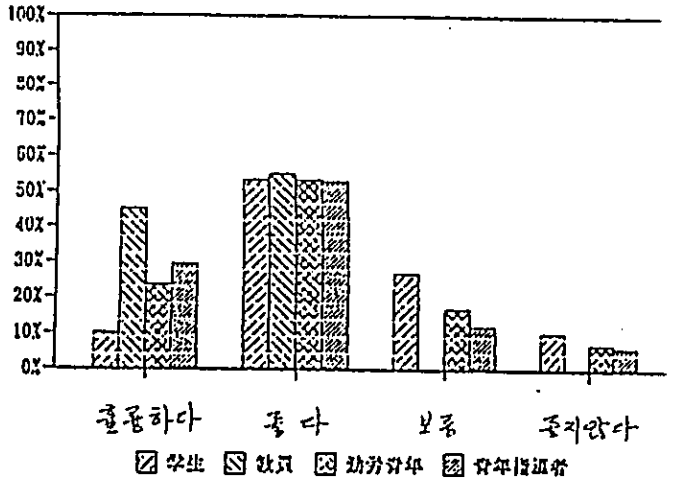
	매우 잘 이해할수 있었다	상당히 잘 이해할수 있었다	어느 정도 이해할수 있었다	그다지 이해할 수 없었다	전혀 잘 이해하지 못했다
8. 테마에 대한 理解	14	22	51	8	

	東京	合宿세미나	地方 프로그램	見学旅行	기 타
10. 가장 인상적인 장소	2	42	43	9	3

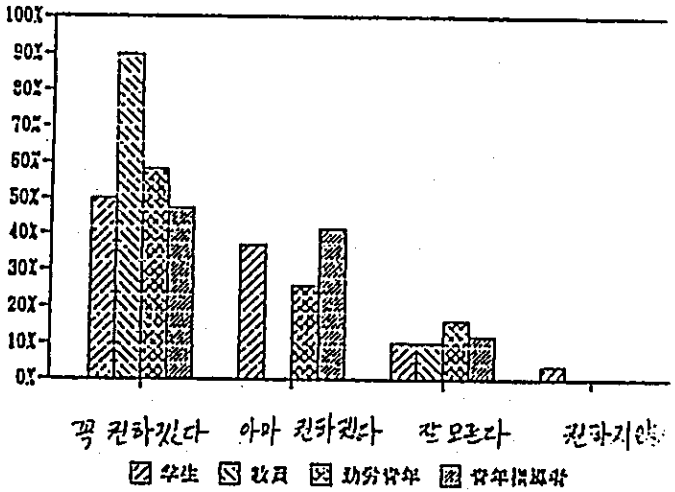
	훌륭하다	좋 다	보 통	좋지않다
11. 全体로서의 評価	24	52	15	6

	꼭 권하겠다	아마 권하겠다	잘 모르겠다	권하지 않다
12. 친구에게 권할 것이냐	59	26	12	1

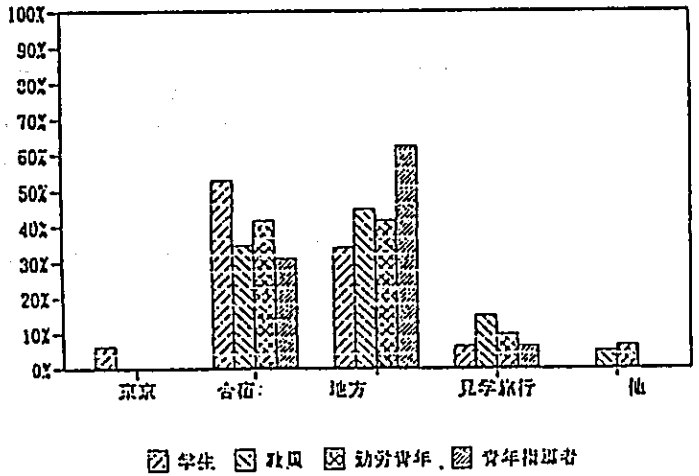
全体로서의 評価



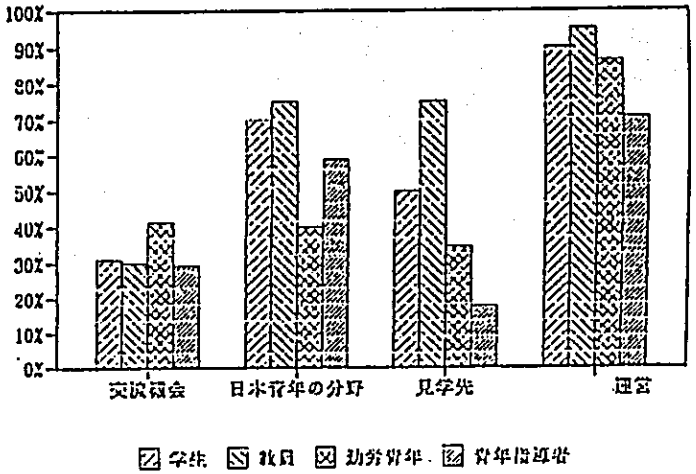
友人に参加を勧めるか



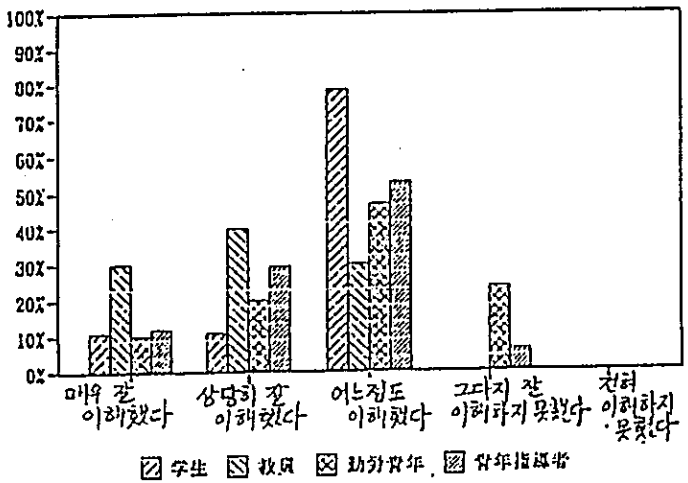
가장 인상적인 장소



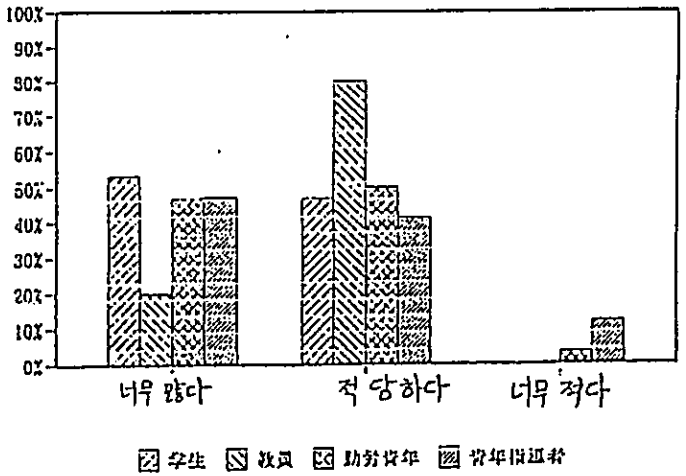
적당하다(充分)이라고 대답한 비율



테마에 대한 이해



프로그램수



3. 現地 프로그램

	너무 길다	適当	너무 짧다
1. 現地프로그램의 期間	33	62	2

	너무 이르다	適当	너무 늦다
2. 現地프로그램의 時期	11	70	16

	너무 많다	適当	너무 적다
3. 訪問段	49	46	3

	適当	不適当
4. 訪問內容	48	48

	너무 많다	適当	너무 적다
5. 日本語学習의 時間	1	49	46

	適当	不適当
6. 日本語学習의 內容	77	20

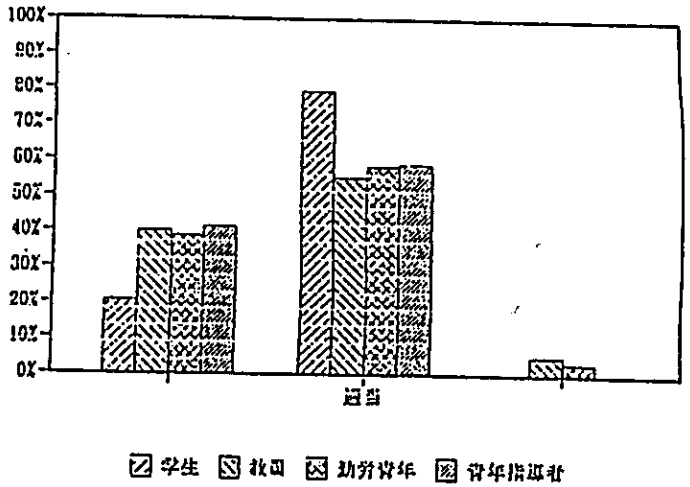
	너무 많다	適当	너무 적다
7. 코어디네이터 의한 프로그램 說明의 時間	4	89	5

	適当	不適当
8. 每日프로그램 說明의 內容	77	20

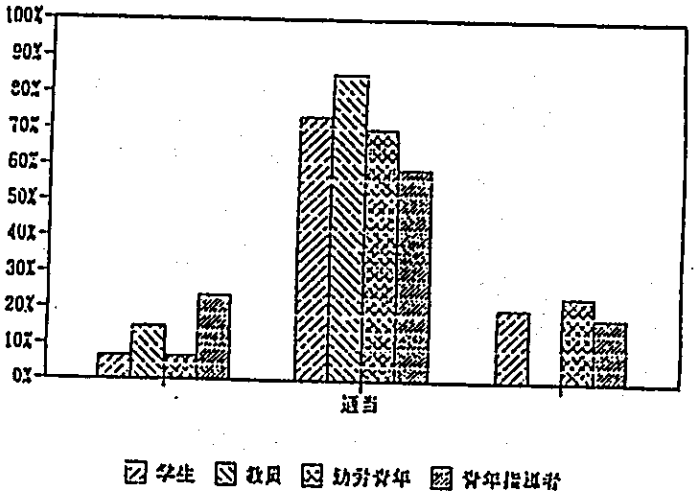
	適当	不適当
9. 見学施設	55	40

	適当	不適当
10. 配布資料 및 教材	81	13

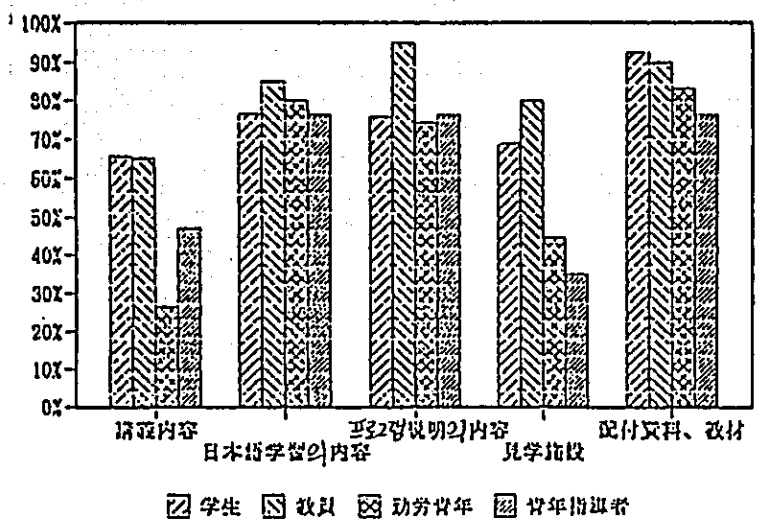
現地 프로그램의 기간



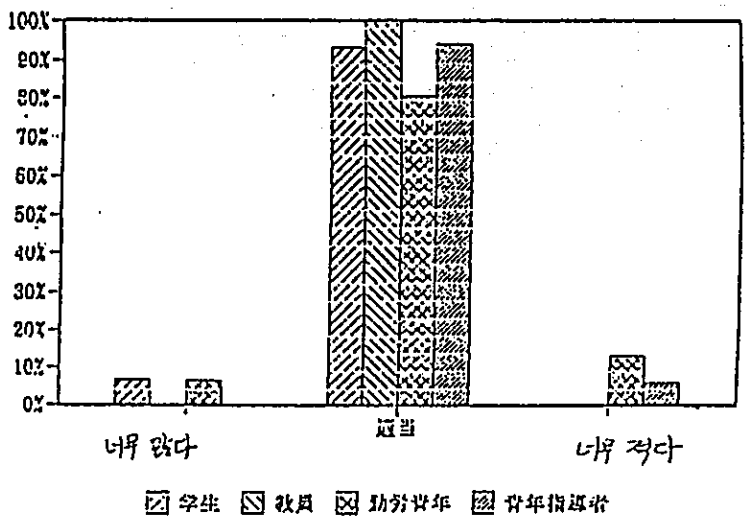
現地프로그램의 시기



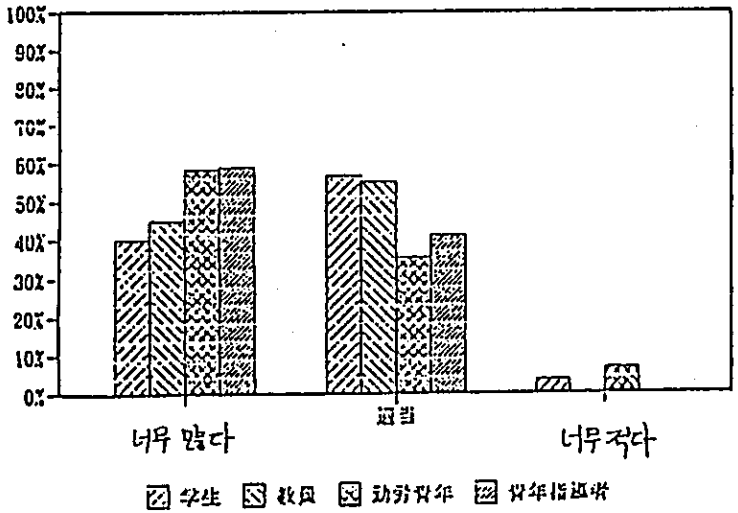
적당하다고 대답한 비율



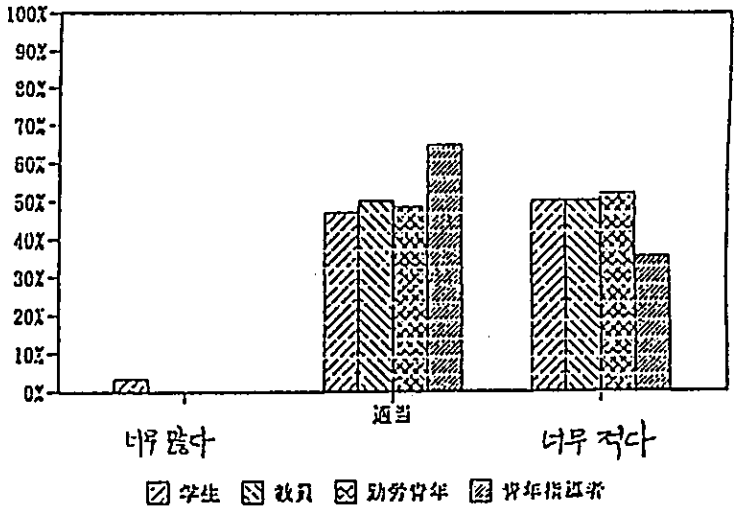
프로그램 설명의 시간



講義数



日本語学習 時間



21世紀을 위한 友情計画実行計画書

第4陣　国名：韓　国　分野：勤労青年　人数：31名　実施協力団体：（社）勤労厚生協会　地方協力団体：仙台青年会議所　JICA担当支部：東北支部

区分		月日	曜日	プログラム内容 午前	午後	備考
共通プログラム	1	7－11	火		宿日（JL-954　14:50→17:00）　쓰는가이만스	
	2	7－12	水	諸手続　本部ブリーフィング　歓迎会	日本語学習（I）団体オリエンテーション	宿泊　池袋メトロポリタン
	3	7－13	木	講義「日本の産業と経済」	日本語学習（II）日本語사롱	03－980－1111
	4	7－14	金	講義「日本の近・現代史」	映画鑑賞　武道観賞　및　茶会	〃
	5	7－15	土	合宿セミナー　사전협의	体験的日本語学習	〃
	6	7－16	日	自主研修	同左	〃
	7	7－17	月	横浜博覧会見学	同左　夜間日本語사롱	〃
	8	7－18	火	講義「日本と韓国」	講義「日本の社会と文化」	〃
新宿プログラム	9	7－19	水	都内見学　浅草	労働大臣表敬　日本の労働行政에 대한 講義	〃
合宿セミナー	10	7－20	木	一日研修　[illegible]／[illegible]	[illegible]	宿泊　新宿선 파크 호텔
	11	7－21	金	日本青年들과 合宿セミナー　오리엔테이션		03－362－7101
	12	7－22	土	그룹토의（6만으로）	그룹토의（6만으로）　스포츠교류	宿泊　相模湖 트립센터
	13	7－23	日	그룹토의（결론）	그룹토의（6만으로）　한일친선교류파티	04268－7－4501
	14	7－24	月	自主研修	감상문 작성　한국랭사　호텔로	宿泊　新宿선 파크 호텔
地方プログラム	15	7－25	火	宮城県에 移動	同左	03－362－7101
	16	7－26	水	知事表敬　県政概要説明	宮城県 프로그램 오리엔테이션	宿泊　宮城第一호텔
	17	7－27	木	一日研修　[illegible]／[illegible]	河北新報社見学　知事歓迎리셉션	022－297－4411
	18	7－28	金	각 홈스테이・家庭으로	阿部商鉄店　泉工場	〃
	19	7－28	土	홈스테이	홈스테이	宿泊　홈스테이家庭
	20	7－30	日	홈스테이	홈스테이	〃
	21	7－31	月	日本青年들과의交流　각계 別 토의	각 홈스테이 家庭에서　호텔로	宿泊　宮城第一호텔
	22	8－1	火	工場見学　기린・맥주 仙台工場	体験入学（茶道・華道등）	022－297－4411
	23	8－2	水	自主研修	蔵王고케시館　工芸의館見学	〃
見学旅行	24	8－3	木	広島에移動（비행기　新幹線으로）	同左	〃
	25	8－4	金	徳島에移動（新幹線・瀬戸大橋 운하）	広島市内見学（平和記念公園）	宿泊　広島그랜드 호텔（082－227－1313）
	26	8－5	土	京都에移動（鳴門大橋・水中観光으로）	徳島市内見学（阿波十郎兵衛屋敷，鳴門公園）	宿泊　鳴門프린스호텔（0886－85－4567）
	27	8－6	日	京都市内見学（金閣寺・西陣織会館）	京都市内見学（清水寺・三十三間堂・祇園코너）	宿泊　京都그랜드 호텔
	28	8－7	月	京都市内散策	京都市内散策（円山公園・二条城）	075－341－2311
評価プログラム	29	8－8	火	自主研修	東京에移動	宿泊　池袋메트로폴리탄
	30	8－9	水	評価会　帰国手続　帰国準備		03－980－1111
	31	8－10	木	帰国　JL953（11:30→13:50）	歓送会	〃

21世紀을 위한 友情計画実行計画書（1989）

第4陣　国名：韓国　　分野名：開発者班　人数：18名　分野別実施協力団体：（社）青少年育成国民会議　　JICA担当支部：中国 支部

区分		月	日	曜日	プログラム内容 午前	プログラム内容 午後	実施場所	宿泊場所	電話番号
共通プログラム	1	7	11	火		来日（JL954 14:50発 17:00着）　生活ガイダンス	東京	池袋 메트로포리탄	03-980-1111
	2	7	12	水	本計画 브리핑　（諸手続）　歓迎会	日本語学習Ⅰ，団体 오리엔테이션	〃	〃	〃
	3	7	13	木	講義「日本의産業과経済」	日本語学習Ⅱ　日本語 사용	〃	〃	〃
	4	7	14	金	講義「日本의近・現代史」	映画鑑賞　武道観覧 및 交歓会	〃	〃	〃
	5	7	15	土	合宿 세미나 準備協議	体験的日本語学習	〃	〃	〃
	6	7	16	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	7	7	17	月	横浜博覧会 見学	同左　「夜間日本語사용	〃	〃	〃
	8	7	18	火	講義「日本과韓国」	講義「日本의社会와文化」	〃	〃	〃
合宿セミナープログラム	9	7	19	水	NAYD오리엔테이션「青少年의現状과健全育成」	総務庁예방　東京나이트투어	東京	高輪京急호텔	03-443-1211
	10	7	20	木	文部省訪問「生涯学習의施策」（懇談）	裏千家（日本의文化茶道体験）　野球観戦	〃	〃	〃
	11	7	21	金	富士箱根観光	同左　自由散策　스포츠・交流会（芸能交歓）	富士ヶ嶺	프로이센 富士	05558-9-2211
	12	7	22	土	分科会討議（Ⅰ）「21世紀의韓日関係를展望한다」	分科会討議（Ⅱ）・全体討議発表会　스포츠・캠프파이어	〃	〃	〃
	13	7	23	日	東京으로 移動	合同懇食会（호텔에서）　自由	東京	高輪京急호텔	03-443-1211
	14	7	24	月	自主研修	同左　松江로移動（21:20出発3号）	〃	刀車	
地方研修プログラム	15	7	25	火	松江着（10:06着）　오리엔테이션「歴史와文化의島根」	市内見学	松江	松江호텔와싱톤	0852-22-0111
	16	7	26	水	自主研修	同左　日本青年과市内散策	〃	〃	〃
	17	7	27	木	島根県知事예방　県政概要説明「青少年育成」	地域青年과懇談会　知事歓迎파티	〃	〃	〃
	18	7	28	金	地域活動視察	同左（実習体験）	吉田村	（湯村温泉）湯之上館	08547-8-0513
	19	7	29	土	出雲로　一畑薬師国際포럼 討議「韓日両国의	喜楽과歴史」　交流会	一畑薬師	（国民宿舎）一畑薬師	0853-67-0111
	20	7	30	日	早朝日本文化体験　各地域으로出発（出雲市・太田市・	仁摩町）　홈스테이	出雲市	홈 스테이	
	21	7	31	月	홈스테이	同左	太田市	〃	
	22	8	1	火	홈스테이	同左	仁摩町	〃	
	23	8	2	水	홈스테이	歓送会	出雲市	島根厚生年金会館	0853-23-2238
見学旅行プログラム	24	8	3	木	自由	出雲～広島（バスで移動）　広島市内見学	広島	広島東急イン	082-247-0102
	25	8	4	金	広島（ひかり 202号 9:50発）	京都（12:45着）京都市内見学（金閣寺 清水寺）	京都	가라스마京都호텔	075-371-5111
	26	8	5	土	奈良（東大寺・春日神社・奇跡的な[illegible]）	同左	（京良）	〃	〃
	27	8	6	日	自主研修（市内散策）	同左	京都	〃	〃
	28	8	7	月	東京へ移動（京都13:21～東京 [illegible] ひかり 232）	[illegible]　自由	東京	池袋	03-980-1111
評価プログラム	29	8	8	火	帰国準備	同左	〃	〃	〃
	30	8	9	水	評価会　帰国에 관한　説明・諸手続	帰国準備　歓送会	〃	〃	〃
	31	8	10	木	帰国（JL953 11:30発 13:50着）		〃	〃	〃

２１世紀를 위한 友情計画実行計画書（１９８９）

第4陣　国名：韓国　　分野名：教員　　人数：２０名　分野別実施協力団体：（社）国際交流·서비스 協会　地方協力団体：北海道青少年団体連絡協議会　　ＪＩＣＡ担当支部：北海道支部

区分		月日	曜日	プログラム内容 午前	プログラム内容 午後	実施場所	宿泊場所	電話番号
共通プログラム	1	7／11	火		渡日（JL954　14:50発 17:00着）　生活가이던스	東京	池袋.메트로폴리탄	03-980-1111
	2	7／12	水	本部에 의 브리핑(諸手続)　歓迎会	日本語学習Ⅰ，団体 의 오리엔테이션	〃	〃	〃
	3	7／13	木	講義「日本의産業과経済」	日本語学習Ⅱ　日本語사용	〃	〃	〃
	4	7／14	金	講義「日本의近·現代史」	武道観賞 및 交歓会	〃	〃	〃
	5	7／15	土	合宿·세미너　사전 협의	体験的日本語学習	〃	〃	〃
	6	7／16	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	7	7／17	月	横浜博覧会 見学	同左　日本語·사용	〃	〃	〃
	8	7／18	火	講義「日本과 韓国」	講義「日本의社会와文化」	〃	〃	〃
地方分野別プログラム	9	7／19	水	北海道로移動　(08:30 羽田発／09:55 千歳着 JAL503)	支笏湖，札幌東高校見学（投業·과외活動등）	北海道	호텔 노스시티	011-512-4433
	10	7／20	木	(幼稚園見学) 札幌山노手南小学校訪問	同左　大倉山 샨헤 見学	〃	〃	〃
	11	7／21	金	道知事·札幌市長表敬訪問	教育長表敬，北海道教育概要説明，리셉션	〃	〃	〃
	12	7／22	土	市内中心部～真駒内～芸術의森～羊ケ丘	北海道開拓記念館～札幌 맥주 工場　(豊平川花火大会)	〃	〃	〃
	13	7／23	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	14	7／24	月	特殊教育 센터　見学	移動（札幌～日高管内静内町）　地元青年 과의交流会	〃	워링톤 호텔	01464-3-3811
	15	7／25	火	레크리에이션	오리엔테이션　홈스테이	〃	홈스테이 家庭	
	16	7／26	水	홈스테이	同左	〃	〃	〃
	17	7／27	木	홈스테이	歓送会	〃	워링톤 호텔	01464-3-3811
	18	7／28	金	버스로移動（静内町～千歳）	東京로移動（13:50 千歳発／15:20 羽田着ANA　60）	東京	호텔 B&B	03-642-0011
合宿세미너 및 部内分野別	19	7／29	土	自主研修	合宿세미너에	神奈川	相模湖 트림 研修 센터	04268-7-4501
	20	7／30	日	基調講演（日本／韓国 교수）	分科会．報告会　交流의저녁	〃	〃	〃
	21	7／31	月	스포츠大会	東京로移動	東京	호텔 B&B	03-642-0011
	22	8／1	火	自主研修	同左	〃	〃	〃
	23	8／2	水	茶道	NHK放送·센터	〃	〃	〃
見学旅行 プログラム	24	8／3	木	広島로移動（09:00 東京／13:36 広島　히카리２３）	広島市内視察（平和記念公園등）	広島	広島·그랜드 호텔	082-227-1313
	25	8／4	金	広島市内見学（宮島）	京都로移動（15:36 広島／17:53 京都　히카리１０）	京都	新都호텔	075-661-7111
	26	8／5	土	京都市内見学(映画村)	京都市内見学（古代友禅花.他）	〃	〃	〃
	27	8／6	日	奈良市内見学（奈良公園 東大寺 他）	同左	〃	〃	〃
	28	8／7	月	京都市内見学	東京로移動（13:53 京都／16:32 東京　히카리２４）	東京	池袋.메트로폴리탄	03-980-1111
評価 プログラム	29	8／8	火	帰国準備	同左	〃	〃	〃
	30	8／9	水	評価会　帰国에 대한 説明·諸手続	帰国準備　歓送会	〃	〃	〃
	31	8／10	木	帰国（JL953　11:30発 13:50着）		〃	〃	〃

21世紀를 위한 友情計画 実行計画表

第4班 国名：韓　国分類：学生　人数：31名　分野別民間協力団体：(財)世界青少年交流協会 地方分野別プログラム 担当支部：四国支部

区分		日付	曜日	プログラム 内容	プログラム 講師	宿泊場所	宿泊場所	電話番号
共通プログラム	1	7/11	火	(JL #869 14:50→17:00)	来日 生活 가이던스	京都	천황메트로폴리탄	03-980-1111
	2	7/12	水	本計画のブリーフィング (結団式) 歓迎会	日本語学習Ⅰ 団体오리엔테이션	〃	〃	〃
	3	7/13	木	講義 「日本の国家と経済」	日本語学習Ⅱ 日本語 사용	〃	〃	〃
	4	7/14	金	講義 「日本・近・現代史」	歓迎懇会 交歓会	〃	〃	〃
	5	7/15	土	合宿セミナー 사전 협의	体験的日本語学習	〃	〃	〃
	6	7/16	日	自主研修	同左	〃	〃	〃
	7	7/17	月	理数保健教育見学	同左 日本語 사용	〃	〃	〃
	8	7/18	火	講義 「日本と韓国」	「日本の芸術と文化」	〃	조파크 호텔	03-433-4141
合宿セミナー	9	7/19	水	조파크 호텔에 移動 오리엔테이션 開講式	大学見学	〃	〃	〃
	10	7/20	木	下町医療関係科学 相撲博物館	自主研修	〃	〃	〃
	11	7/21	金	山中湖 移動	合宿セミナー 分科会Ⅰ 全体討論	山梨	사러 텔 山中湖	0555-62-2031
	12	7/22	土	分科会Ⅰ	리크리에이션 分科会Ⅰ.Ⅱ	〃	〃	〃
	13	7/23	日	分科会Ⅱ	分科会Ⅲ 交流会	〃	〃	〃
	14	7/24	月	バス로 富士山에 (五合目)	都内宿舎에 到着	東京	조파크 호텔	03-433-4141
地方分野別プログラム	15	7/25	火	香川에 移動 羽田空港発 (JAS 393便)	오리엔테이션 (香川県 概要説明)	香川	호텔 릿치 高松	0878-23-3555
	16	7/26	水	瀬戸大橋記念公園見学	四国電力板出発電所見学 歓迎会	〃	〃	〃
	17	7/27	木	県指定無形民俗文化財・琴引浜 (鳴き砂浜)	陸奥産業見学 (封筒製工場)	〃	〃	〃
	18	7/28	金	高松工場見学	少林寺善通寺見学 民泊家庭に	〃	홈 스테이 家庭	
	19	7/29	土	瀬戸内海遊覧船 (与島에서 昼食)	記念植樹 (公園内公園) 民泊家庭に	〃	〃	
	20	7/30	日	홈 스테이	同左	〃	〃	
	21	7/31	月	瀬戸内海歴史民俗資料館見学・自然科学館見学	五色台少年自然の家・野外活動센터 見学	〃	라포인 다카마쓰	0878-62-2431
	22	8/01	火	徳島老人ホーム 「善友園」見学	香川県知事表敬訪問・香川県議会見学	〃	〃	〃
	23	8/02	水	自主研修	荷物整理 歓送会	〃	〃	〃
見学旅行プログラム	24	8/03	木	愛媛公園 香川から広島へ移動	広島著 平和公園	広島	広島그랜드 호텔	082-227-1313
	25	8/04	金	宮島見学	京都에 移動 (新幹線 히카리 26号)	京都	第2 타워 호텔	075-361-3261
	26	8/05	土	奈良에 奈良市内見学 (東大寺 奈良公園等)	同左	〃	〃	〃
	27	8/06	日	京都市内見学 (金閣寺 清水寺 映画村等)	가든코너	〃	〃	〃
	28	8/07	月	東京에 移動 (新幹線 히카리 348号)		東京	천황 메트로폴리탄	03-980-1111
帰国プログラム	29	8/08	火	帰国準備	同左	〃	〃	〃
	30	8/09	水	解団会 帰国에 대한 説明・質疑応答	帰国準備 歓送会	〃	〃	〃
	31	8/10	木	帰国 (JL #953 11:30→13:50)				

9. 太平洋諸国調査団資料（和文）

１９８９年度青年招へい事業
太平洋諸国評価および計画打合せ調査団

Ｉ　調査団派遣の概略

１．調査団の目的

１９８９年度事業の評価を行うとともに、１９９０年度事業に係る計画打合せを実施することを目的とする。

２．調査団派遣期間

１９９０年３月７日（水）から３月２２日（木）（１６日間）

３．調査対象国

太平洋諸国（フィジー、ヴァヌアツ、ＰＮＧ）

４．調査日程

1	３月　７日（水）	成田発(18:55) ＴＥ０２４
2	３月　８日（木）	ナンディ着(06:20) 入国手続き後ＴＥ指定ホテルにて待機 ナンディ発(15:45) ＦＪ１０９ スバ着(16:15)
3	３月　９日（金）	ＪＩＣＡフィジー事務所にて打合せ 在フィジー日本大使館表敬
4	３月１０日（土）	招へい青年との懇談
5	３月１１日（日）	資料収集
6	３月１２日（月）	フィジー政府（窓口）機関と打合せ 関係者との懇談
7	３月１３日（火）	ＪＩＣＡフィジー事務所への報告 スバ発(19:00) ＦＪ７１０ ポート・ヴィラ（バウアフィールド空港）着(22:05)
8	３月１４日（水）	ヴァヌアツ政府（窓口）機関との打合せ
9	３月１５日（木）	関係者および招へい青年との懇談
10	３月１６日（金）	資料収集
11	３月１７日（土）	ポート・ヴィラ発(07:30) ＰＸ０８５ ポート・モレスビー（ジャクソン空港）着(11:50)
12	３月１８日（日）	資料収集
13	３月１９日（月）	ＪＩＣＡパプア・ニューギニア事務所にて打合せ 在パプア・ニューギニア日本大使館表敬
14	３月２０日（火）	パプア・ニューギニア政府（窓口）機関との打合せ 関係者との懇談
15	３月２１日（水）	ポート・モレスビー発(15:20) ＰＸ３９２ シンガポール（チャンギ空港）着(19:40) シンガポール発(23:00) ＪＬ７１０
16	３月２２日（木）	成田着(06:15)

５．調査協議事項

（１）１９８９年度事業の評価について当方より説明
（２）１９９０年度事業の国別受入計画について当方より説明
（３）本計画全般に関する先方の要望事項を聴取
（４）現地プログラムに関する打合せ（フィジー、ＰＮＧ）

６．調査団員 (Member List)

団長　山下　邦明
日本ユネスコ協会連盟　組織部長
Leader　Mr. Kuniaki YAMASHITA
Director, Division for Organizations,
National Federation of UNESCO Associations in Japan

団員　石濱　義朗
日本武道館　振興課長
Member　Mr. Yoshiro ISHIHAMA
Head of Promotion Division,
Nippon Budokan

団員　河野　宣之
国際協力サービス・センター　研修監理員
Member　Mr. Nobuyuki KONO
International Cooperation Service Center

団員　中山　利隆
青年招へい業務室
Member　Mr. Toshitaka NAKAYAMA
Youth Invitation Programme Division, JICA

２１世紀のための友情計画
（太平洋青年招へい事業）
１９８９年度事業実施報告書

１．事業の目的

２１世紀に向けて、日本と太平洋諸国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う各国の青年を我国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

２．経緯および招へい実績

本計画は、１９８４年度よりＡＳＥＡＮ６カ国を対象として開始された。１９８６年度より、対象を太平洋諸国に拡大し、フィジーとパプア・ニューギニアからの招へいも開始した。１９８７年度からは更に中国と韓国にも拡大した。

１９８８年度には、太平洋のフィジーとパプア・ニューギニア以外にも拡大し、新規に１２カ国・地域から２グループに分け４５名の青年を招へいした。

１９８９年度には、太平洋の１３カ国・地域（ナウルは交通等の関係で来日中止）から合計８４名の青年を招へいした。

来日前数日間の現地プログラムをフィジー（３５名参加）、ＰＮＧ（３５名参加、内１名は来日中止）、ソロモン（９名参加）、グアム（６名参加）でそれぞれ実施した後、１９８９年１０月３日から１１月２日までの１カ月間（国により若干の違いがある）日本に滞在した。

１９８６年度	フィジー	公務員	１０名	
	ＰＮＧ	教員	１０名	計２０名
１９８７年度	フィジー	公務員	１０名	
	ＰＮＧ	教員	１４名	計２４名
１９８８年度	フィジー	公務員	１１名	
	ＰＮＧ	教員	２０名	
	〃	青年指導者	１０名	
	太平洋諸国混成	教員	２１名	
	〃	公務員	２４名	計８６名
１９８９年度	フィジー	公務員	１２名	
	ＰＮＧ	教員	２０名	
	〃	青年指導者	１４名	
	太平洋諸国混成	教員	１３名	
	〃	公務員	２５名	計８４名

１９８９年度太平洋諸国受入実績

国名／分野名	公務員	教　員	計
パプア・ニューギニア	１４	２０	３４
フィジー	１２	０	１２
ソロモン	4	5	9
ヴァヌアツ	5	0	5
トゥヴァル	1	0	1
トンガ	3	2	5
西サモア	3	2	5
クック	1	0	1
ニウエ	1	1	2
キリバス	2	2	4
ナウル	0	0	0
マーシャル	2	1	3
ミクロネシア	2	0	2
パラオ	1	0	1
太平洋混成小計	２５	１３	３８
太平洋全域合計	５１	３３	８４

３．日本でのプログラム

約１カ月間にわたる日本でのプログラムは次のような要素に分れる。

（１）日本の経済、文化等についての講義、基幹産業の見学、武道鑑賞を含む共通プログラム

（２）分野別プログラム

① 日本青年との合宿を含む都内分野別プログラム

② 日本家庭を体験するホームステイを含む地方分野別プログラム

（３）京都・奈良・広島への見学旅行

（４）評価プログラム

４．評価

（１）太平洋諸国全体の総合評価

本年度招へいした１３カ国、８４名の青年について、アンケート集計結果および評価会での意見を総合すると、プログラム内容については、ほぼ全員が満足を示し、全ての青年が友人にこのプログラムへの参加を薦めると回答しており、かつ日本での体験を良かったと評価している。一方、日本青年との討論や交流の機会が不足しているとの指摘もあるが、討論や交流の内容については高く評価されている。また、生活上の問題では、物価に対する問題が一番大きく指摘されている。フィジー以外では、他に混雑、気候、宗教についての問題の指摘も多い。

以上のように、細かい指摘はあるものの、全体を通しては、日本青年のみならず他の太平洋諸国の青年とも交流できたこと、合宿などの日本青年との交流や自分達と同じ職場の見学などを通して学ぶ点も多かったことを高く評価していることがうかがえる。

５．今後の課題

（１）日本国内での太平洋諸国の理解を更に高めるよう合宿参加日本青年へのオリエンテーションの強化とともに各訪問先への太平洋諸国青年の習慣やバック・グラウンドの説明の強化を行なう。

（２）プログラム内容はタイトとならないよう適宜休日を入れるとともに、分野の特徴に応じたプログラムの作成と合宿参加日本青年の確保に努める。

（３）日本文化の紹介等もおりまぜながら、日本青年との交流が図れるようなプログラムとする。

（４）招へいした青年は意欲的であったが、一部に深酒により体調を崩したり、マナーの悪い青年もいたことから、現地プログラムでのオリエンテーションを強化するとともに、各国出発前には既参加者から経験談を聞くなどで対応を計りたい。

（５）日本側でのプログラム作成が容易となるよう、招へい青年の人選に関し、その考え方、分野の特徴などの早期通報とともに要請書の早期送付が望まれる。

６．グループ別評価

（１）フィジー公務員グループ

帰国を前にして実施した評価会およびアンケート集計結果からは、

①現地プログラムについて

・日本語学習の時間が短い

・期間を丸２日にできないか

・フィジーでの国内交通費の支給

②共通プログラムについて

・日本語学習の時間が短い

③合宿セミナーについて

・コミュニケーションの問題

・グループ討論は組み変えてほしい

④ホームステイを含む地方プログラムについて

・地方でも合宿セミナーのような討論をしたい

・ホームステイは有意義だが、ことばの問題がある

⑤見学旅行

・広島の平和記念館では講義があればもっと理解できた

・寺院見学が多すぎた

⑥その他

・日本語のテキストを事前に送付してほしい

・手当は数度に分けて支給してほしい

以上のように、個々のプログラムについての指摘がある。しかし、全体を通して、プログラム内容に関してはほぼすべての青年が満足している。

青年は協力的で、まとまりも良く、滞日プログラムはほぼ満足できるものであった。

反省材料としては、各見学先でも討論を盛り込んだり、交流的プログラムをさらに考慮するなどの点が挙げられる。

（２）太平洋混成教員グループ

帰国を前にして実施した評価会およびアンケート集計結果からは、
①現地プログラムについて
・日本に来る前にもっとインフォメーションがほしい
②共通プログラムについて
・講義は内容的にはおもしろかった
・日本語サロンは日本語を連発されわかりにくかった
③合宿セミナーについて
・環境も良く、討論でも互いの国のようすがわかり良かった
・日本側に小学校教員の参加者が少ない
④合宿以外の都内プログラムについて
・教育資料を見たり、自国で役立ちそうなものも多く、ユネスコアジア文化センター、ソニーメディアワールド訪問は特に有益だった
⑤ホームステイを含む地方プログラムについて
・ホームステイでは色々な日本文化を見ることができ特に良かった
⑥見学旅行
・広島での被爆体験談は興味深く悲しかった
・京都は美しかった
⑦その他
・自国で充分な情報がほしい
・日本語の学習時間を増やしてほしい
・日本語のテキストを事前に送付してほしい
・手当の支給は分けてほしい
・スポーツ交流を多くしてほしい

以上のように、個々のプログラムについての指摘がある。しかし、全体を通して、日本青年のみならず太平洋諸国の青年同士とも交流できたこと、合宿や学校訪問を通じて、自分の仕事にも参考になる点があったことなどにより、プログラム内容に関してはほぼすべての青年が満足している。

青年の日本に対する印象も大変良く、また６カ国から成る１３名のグループで現地プログラムも３カ所に分かれて実施したが、青年達は互いに協力しあい、プログラムへの参加姿勢も積極的であった。小人数でかつゆったりしたプログラム作りがなされたこともあり、滞日プログラムはほぼ満足できるものであった。

反省材料としては、合宿参加日本青年に小学校教員を増やしたり、スポーツ交流を多く取り入れるなどの配慮が挙げられる。

（３）太平洋混成公務員グループ

帰国を前にして実施した評価会およびアンケート集計結果からは、

①現地プログラムについて

・日本に来る前にもっとインフォメーションがほしい

・支度金はＵＳドルでほしい

・自国で現地プログラムを実施してほしい

②共通プログラムについて

・プログラムの最後にまとめて質問ができる機会がほしい

③合宿セミナーについて

・もっとシリアスなテーマがほしい

・テーマを自分達で選びたい

④合宿以外の都内プログラムについて

・もっとスポーツをする機会がほしい

・もっと自分の国について語る時間がほしい

⑤ホームステイを含む地方プログラムについて

・ホームステイの期間を長くしてほしい

・ホストファミリーが英語を話せない

⑥見学旅行

・広島の平和記念館では講義があればもっと理解できた

・寺院見学が多すぎた

⑦その他

・自国で充分な情報がほしい

・日本語のテキストを事前に送付してほしい

・日曜日には礼拝の時間がほしい

以上のように、個々のプログラムについての指摘がある。しかし、全体を通して、プログラム内容に関してはほぼすべての青年が満足している。

１１カ国から成る２５名のグループで現地プログラムも３カ所に分かれて実施するという、混成グループとしての不利な点もあり、全体がまとまって行動するということには困難がつきまとったものの、滞日プログラムはほぼ満足できるものであった。

飲酒に関してはビール以外はなれていない青年も多く、飲すぎた青年もいたようだが、プログラムに支障をきたすことは殆どなかった。また時間にはルーズな点があり、日本のペースについて行くことは大変であっただろうと推察される。

反省材料としては、さらにゆったりとしたプログラム作りをするなどの点が挙げられる。

（４）ＰＮＧ教員グループ

帰国を前にして実施した評価会およびアンケート集計結果からは、
①現地プログラムについて
・日本語学習の時間が短い
②共通プログラムについて
・講義は内容、時間ともに適当
・日本語サロンは全員参加としてほしい
③合宿セミナーについて
・討論時間が少ない
・イモ掘りなどはリラックスでき良かった
④合宿以外の都内プログラムについて
・動物園、博物館の見学は適当
⑤ホームステイを含む地方プログラムについて
・ホームステイは非常に良い経験である
・教育センター見学は非常に有効
⑥見学旅行
・広島での被爆体験者との交流があればなお良い
・京都は印象的
⑦その他
・日本語のテキストを事前に送付してほしい
・英日辞書を配布して欲しい
・ＰＮＧに関連の大きい見学先を選定してほしい

以上のように、個々のプログラムについての指摘がある。しかし、全体を通して、プログラム内容に関してはほぼすべての青年が満足している。

青年のまとまりは良く、滞日プログラムはほぼ満足できるものであった。青年には東京より地方都市でのプログラムが自国での環境にも近く評価が高い。

反省材料としては、更に具体的でわかり易い情報の提供とともに、宿舎の移動などが疲れる原因とならないよう考慮するなどが挙げられる。

（５）ＰＮＧ公務員（青年指導者）グループ

帰国を前にして実施した評価会およびアンケート集計結果からは、

①現地プログラムについて

・日本語学習の時間が短い

・事前の情報が少ない

②共通プログラムについて

・大使館などからアドバイスをもらう機会がほしい

・発電所の見学など理解しにくい

③合宿セミナーについて

・期間が短い

④合宿以外の都内プログラムについて

・少年院、小学校などは理念の上で興味深い

⑤ホームステイを含む地方プログラムについて

・自国に似てすごし易かった

・農業関係の施設見学が望ましい

⑥見学旅行

・広島は平和に対しての意識が深まり価値が高い

⑦その他

・日本語のテキストを事前に送付してほしい

・参加者の職業が違いすぎてまとまらない

・宗教や休日について配慮してほしい

以上のように、個々のプログラムについての指摘がある。しかし、全体を通して、プログラム内容に関しての評価は高い。

しかし青年自身から、プログラムの意義にのっとった人選を求める声があったことは留意すべき点と思われる。また、出発当日、来日中止がでたことなども多少人選と絡んでいるものと思われる。

滞日スケジュールに関しての反省材料としては、移動時間と見学時間の適正な配分、時間的に融通のきくプログラム設定などが挙げられる。

７．１９９０年度受入計画

（１）計画概要

１９８９年度の受入計画人数は８０名であったが、運用により８４名の青年を招へいした。

１９９０年度の予算人数枠は１９８９年度と同数であることから、各国の受入人数の割当ては、１９８９年度の受入計画人数と同数とした。また、混成グループの受入分野は、１９９０年度についても、編成が容易となる教員と公務員とした。フィジーの受入分野は公務員または教員のいずれかを１グループとして招へいする。ＰＮＧの受入分野は公務員および教員の２グループとするが、公務員については、行政関係か青年指導者関係か、分野の構成を明確にする必要がある。

１９９０年度の参加者の要請書提出にあたっては、１９８９年度と同様、人数割当数を越える場合、優先順位を付した提出を要望する。要請書の提出は、受入れの約３カ月前（６月上旬を目途）までとし、適格者の推薦がない場合には、割当人数を再度調整することとする。

なお、ＧＩは４月上旬までに送付する。

（２）受入時期

１９９０年９月１１日から１０月１１日（日本滞在期間）までの一括招へいとする。

１９９０年度太平洋諸国受入計画

国名／分野名	公務員	教　員	計
パプア・ニューギニア	１０	２０	３０
フィジー	１２		１２
ソロモン	4	3	7
ヴァヌアツ	3	2	5
トゥヴァル	1	0	1
トンガ	3	2	5
西サモア	3	2	5
クック	1	0	1
ニウエ	1	0	1
キリバス	2	2	4
ナウル	1	0	1
マーシャル	2	1	3
ミクロネシア	2	2	4
パラオ	1	0	1
太平洋混成小計	２４	１４	３８
太平洋全域合計	４６	３４	８０

１９８９年度青年招へい事業
現地プログラム日程（フィジー）について

１．現地プログラム会場：ホテル・トラベロッジ
バイヤンの間

２．現地プログラム参加者
フィジー公務員　１２名
太平洋混成公務員　１６名
太平洋混成教員　７名　（計　３５名）

３．現地プログラム日程

１日目　９月２８日（木）

８：３０～　９：００	登録および紹介
９：００～１０：００	ビザ発給、手当支払手続
１０：００～１０：３０	ティーブレイク
１０：３０～１２：００	ＪＩＣＡおよび事業紹介 フィルム「２１世紀への友情」
１２：００～１３：３０	昼食
１３：３０～１４：３０	プログラム説明（混成公務員） 他はフィルム「ＪＩＣＡ２４時間」
１４：３０～１５：３０	プログラム説明（混成教員とフィジー） 他はフィルム「ＪＩＣＡ２４時間」
１５：３０～１５：４５	ティーブレイク
１５：４５～１６：３０	日本の生活説明 フィルム「Japan An Overview 」
１６：３０～１７：３０	日本語学習 （２室に分けコーディネーター）

２日目　９月２９日（金）

８：３０～　９：３０	既参加者の体験談 （前回のチームリーダー Mr. Eliki）
９：３０～１０：００	質疑応答
１０：００～１０：３０	ティーブレイク
１０：３０～１２：００	日本語学習 （２室に分けコーディネーター）
１２：００～１２：３０	渡航説明 （フィジー航空トラベルサービス）
１２：３０～１３：００	質疑応答
１３：００～１８：００	渡航準備
１８：３０～２３：００	送別パーティ

３日目　９月３０日（土）　自由行動

４日目　１０月１日（日）　出発　東京着

４．評価

（１）会場の準備状況はティーブレイク時のサンドウィッチ等の用意を含め非常に良かった

（２）プログラムの説明や招へい青年の情報収集に相当の時間を要する

（３）宿舎は同一地域の場合、同一の宿舎が適する

（４）自国で実施する現地プログラムではない場合、個人の得ている情報にバラツキがあることもあり、新たな準備は不可能となるケースが多い

（５）日本語学習は簡単な会話に絞るか、教材の事前送付により予備知識をもって臨んでもらう等の配慮が必要であり、現状では何か中途半端な感がある

（６）関係者の協力により大変順調であった

（７）今回の日程は１日半であり、せめて２日～２日半必要

（８）ナンディとスバの効率的移動

５．１９９０年度計画

基本的には、１９８９年度計画と同様であり、自国での現地プログラムとならない混成グループの青年には不満が残ることは否めない。そのため、事前の情報提供をどうするかという問題はあるが、本事業による滞日経験者から自国においてブリーフィングを受けるなどで改善を図らざるを得ない。

フィジーでのプログラムは、半日程度延ばし、余裕を持ってスケジュール説明を行ったり、招へい青年の情報収集ができるようにするとともに、同一宿舎の確保およびナンディへの移動が飛行機でできるよう考慮することも必要と思われる。

１９８９年度青年招へい事業
現地プログラム日程（ＰＮＧ）について

１．現地プログラム会場：インサービスカレッジ

２．現地プログラム参加者
　ＰＮＧ青年指導者　１４名（１５名の内１名来日中止）
　ＰＮＧ教員　　２０名　（計　３４名）

３．現地プログラム日程
１日目　９月２６日（火）
　９：００～　９：３０　開会式
　９：３０～１０：００　フィルム「２１世紀への友情」
１０：００～１７：００　プログラム説明と日本語学習

２日目　９月２７日（水）
　９：００～１２：００　合宿セミナーの説明と日本語学習
１２：００～１４：００　日本食試食会
１４：００～１７：００　ホームステイの説明

３日目　９月２８日（木）
　９：００～１６：００　既参加者によるブリーフ
　　旅券、査証に関する諸手続
　　その他来日の準備
４日目　９月２９日（金）
　９：００～１２：００　パーティ出し物練習、その他来日準備
１２：００～１４：００　壮行会

５日目　９月３０日（土）　自由行動

６日目　１０月１日（日）　自由行動

７日目　１０月２日（月）　出発（フィリピン泊）

８日目　１０月３日（火）　東京着

４．評価
（１）関係者の協力によりスムーズに実施できた
（２）当初時間にルーズな青年もいたが、徐々に慣れてきた
（３）日本語学習はソゲリ高校の日本語専門家の協力で実施され、招へい青年は、積極的に使用するようになった
（４）出発当日、１名辞退者が出たが、人選に関し、慎重な対応が必要と思われる。

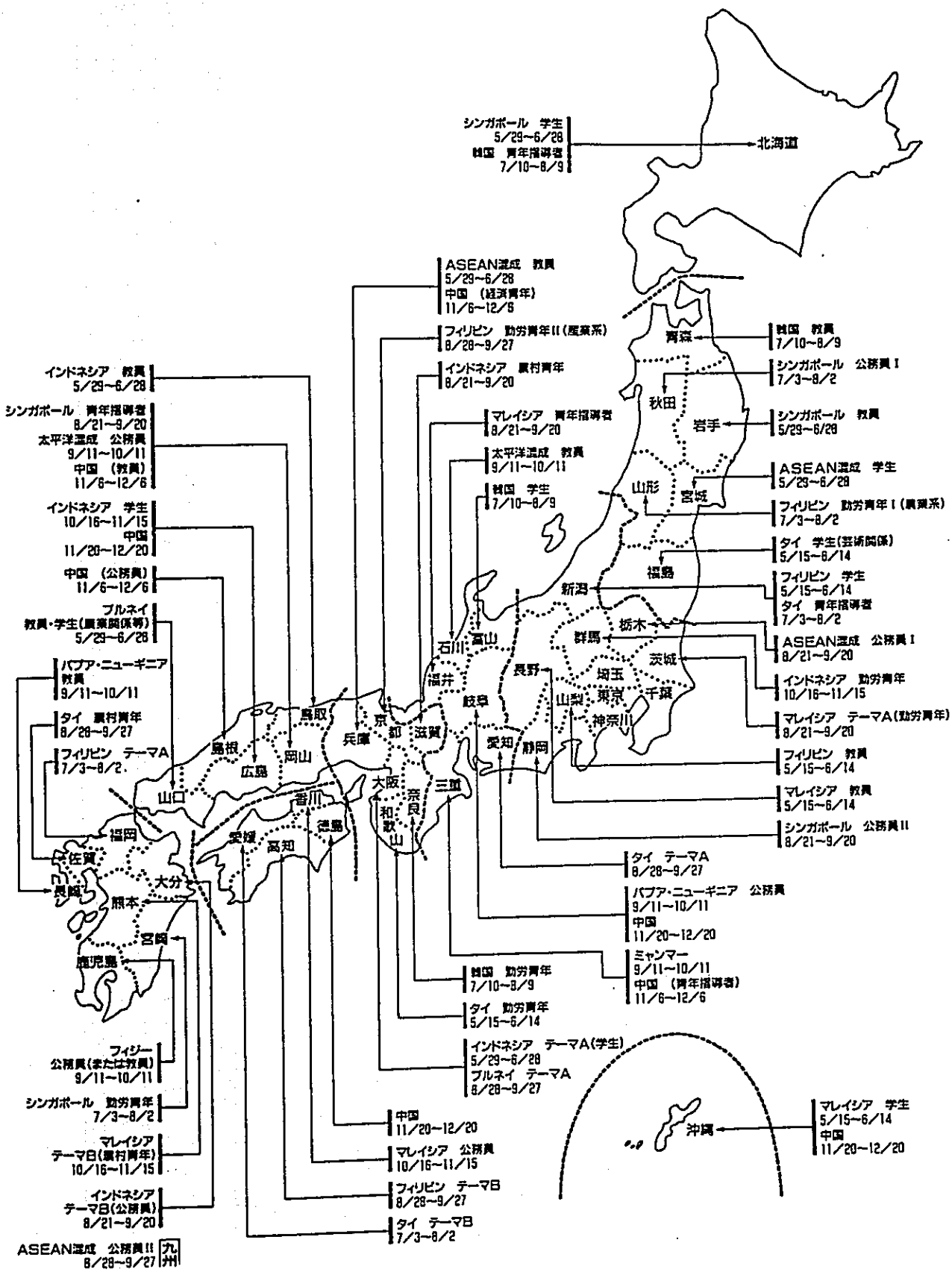
１９９０年度「２１世紀のための友情計画」標準プログラム

		実　施　内　容	宿　泊
		各国首都集合 結団式、現地講師による講義、日本語の日常会話の学習 現地講師による講義、日本語の日常会話の学習 経済技術協力の現場及び日系企業の見学 渡航に係るブリーフィング	現地のホテル
１	火	来　日	都内のホテル
２	水	本計画のブリーフィング　歓迎会　団体のオリエンテーション　日本語会話(I)	〃
３	木	講義（日本の産業と経済）　大使館表敬　日本語サロン	〃
４	金	日本語会話(II)　講義（日本の近・現代史）　武道鑑賞および交歓会	〃
５	土	体験的日本語学習	〃
６	日	自主研修	〃
７	月	施設見学　日本語サロン	〃
８	火	分野関連科目　講義（日本の社会と文化）	〃
９	水	都内分野別プログラム（関係省庁等訪問）	〃
１０	木	都内分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	〃
１１	金	合宿セミナーのための移動日　合宿セミナー開会	合宿施設
１２	土	合宿セミナー（基調講演　意見交換　スポーツ　レクレーション等）	〃
１３	日	合宿セミナー（基調講演　意見交換　スポーツ　レクレーション等）交流の夕べ	〃
１４	月	自主研修	都内のホテル
１５	火	地方分野別プログラムのための移動日　地方分野別プログラムのブリーフィング	地方のホテル
１６	水	地方分野別プログラム（関係地方自治体等訪問）　知事等歓迎会	〃
１７	木	地方分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	〃
１８	金	ホームステイ	受入家庭
１９	土	ホームステイ	〃
２０	日	ホームステイ　交流の夕べ	〃
２１	月	地方分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	地方のホテル
２２	火	地方分野別プログラム（関連施設見学　討論　交流等）	〃
２３	水	自主研修	〃
２４	木	見学旅行（広島）	広島のホテル
２５	金	見学旅行（広島）	〃
２６	土	見学旅行（京都等）	京都等のホテル
２７	日	見学旅行（京都等）	〃
２８	月	東京に集合	都内のホテル
２９	火	帰国準備	〃
３０	水	評価会　帰国に関する説明・諸手続　歓送会	〃
３１	木	帰　国	

（註）ここに示したプログラムは、標準的な流れであり、招へい国、招へい分野、実施県等の違いにより、実際のプログラムは、標準プログラムと異なる場合がある。
なお、テーマ設定方式によるグループの場合には、第７日にテーマ関連科目を行い、分野別プログラムは第８日より開始する。また、第３０日には滞日成果を有識者との質疑によりまとめる総括セッションを行なう。

21世紀のための友情計画

平成2年度青年招へい事業――地方実施県一覧(地図)



「２１世紀のための友情計画」
平成２年度青年招へい事業受入計画（案）

平成2年2月22日
青年招へい業務室

受入時期	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	JICA国内支部
5月15日～6月14日	マレイシア	学生	20	青少年育成国民会議	沖縄	沖縄支部
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	長野	関東支部
1陣　130名	フィリピン	学生	20	世界青少年交流協会	新潟	関東支部
	〃	教員	20	日本国際生活体験協会	山梨	関東支部
	タイ	学生（芸術関係）	25	ユースワーカー能力開発協会	福島	東北支部
	〃	勤労青年	25	勤労厚生協会	和歌山	関西支部
5月29日～6月28日	ASEAN混成	学生	30	日本ユネスコ協会連盟	宮城	東北支部
	ASEAN混成	教員	30	日本ユネスコ協会連盟	兵庫	関西支部
2陣　155名	ブルネイ	教員・学生（農業関係等）	20	青年海外協力協会	山口	中国支部
	インドネシア	テーマA（学生）	15	世界青少年交流協会	大阪	関西支部
	〃	教員	25	中央青少年団体連絡協議会	鳥取	中国支部
	シンガポール	学生	15	世界青少年交流協会	北海道	北海道支部
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	岩手	東北支部
7月3日～8月2日	フィリピン	勤労青年Ⅰ（農業系）	25	青年海外協力協会	山形	東北支部
	〃	テーマA	20	青少年育成国民会議	福岡	九州支部
3陣　132名	シンガポール	公務員Ⅰ	24	国際交流サービス協会	秋田	東北支部
	〃	勤労青年	23	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	熊本出張所
	タイ	青年指導者	25	中央青少年団体連絡協議会	新潟	関東支部
	〃	テーマB	15	日本青年団協議会	愛媛	四国支部
7月10日～8月9日	韓国	学生	30	世界青少年交流協会	富山	中部支部
	〃	教員	20	国際交流サービス協会	青森	東北支部
4陣　100名	〃	勤労青年	30	勤労厚生協会	奈良	関西支部
	〃	青年指導者	20	中央青少年団体連絡協議会	北海道	北海道支部
8月21日～9月20日	ASEAN混成	公務員Ⅰ	30	国際交流サービス協会	栃木	関東支部
	インドネシア	テーマB（公務員）	20	青年海外協力協会	大分	九州支部
5陣　168名	〃	農村青年	25	全国農村青少年教育振興会	滋賀	関西支部
	マレイシア	テーマA（勤労青年）	20	日本経済青年協議会	茨城	関東支部
	〃	青年指導者	25	青少年育成国民会議	福井	中部支部
	シンガポール	公務員Ⅱ	24	ユースワーカー能力開発協会	静岡	関東支部
	〃	青年指導者	24	日本国際生活体験協会	岡山	中国支部
8月28日～9月27日	ASEAN混成	公務員Ⅱ	30	青少年育成国民会議	九州	九州支部
	ブルネイ	テーマA	10	日本経済青年協議会	大阪	関西支部
6陣　125名	フィリピン	勤労青年Ⅱ（産業系）	25	日本ユースホステル協会	京都	関西支部
	〃	テーマB	20	青年海外協力協会	高知	四国支部
	タイ	テーマA	15	勤労厚生協会	愛知	中部支部
	〃	農村青年	25	全国農村青少年教育振興会	佐賀	九州支部
9月11日～10月11日	PNG	教員	20	国際交流サービス協会	長崎	九州支部
	〃	公務員	10	日本経済青年協議会	岐阜	中部支部
7陣　100名	フィジー	公務員（または教員）	12	日本ユネスコ協会連盟	鹿児島	熊本出張所
	太平洋混成	公務員	24	世界青少年交流協会	岡山	中国支部
	〃	教員	14	日本ユースホステル協会	石川	中部支部
	ミャンマー	未定	20	世界青少年交流協会	三重	中部支部
10月16日～11月15日	インドネシア	勤労青年	25	勤労厚生協会	群馬	関東支部
	〃	学生	20	日本国際生活体験協会	広島	中国支部
8陣　90名	マレイシア	公務員	25	世界青少年交流協会	香川	四国支部
	〃	テーマB（農村青年）	20	全国農村青少年教育振興会	熊本	熊本出張所
11月6日～12月6日	中国	（経済青年）	25	日本経済青年協議会	兵庫	関西支部
	〃	（教員）	25	青年海外協力協会	岡山	中国支部
9陣　100名	〃	（公務員）	25	国際交流サービス協会	島根	中国支部
	〃	（青年指導者）	25	日本青年団協議会	三重	中部支部
11月20日～12月20日	中国	未定	25	世界青少年交流協会	徳島	四国支部
	〃	未定	25	全国農村青少年教育振興会	岐阜	中部支部
10陣　100名	〃	未定	25	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	沖縄支部
	〃	未定	25	青少年育成国民会議	広島	中国支部
合計	ASEAN6カ国（800）　太平洋諸国（80）　ミャンマー（20） 中国（200）　韓国（100）				54グループ 1200名	

テーマA：ハイテク・科学技術産業の現状、テーマB：地方の農業・地場産業振興
ミャンマーおよび中国未定分については、今後相手国と協議の上、受入分野を決定する。

２１世紀のための友情計画
平成２年度受入計画（案）

平成２年２月９日
青年招へい業務室

受入時期	国名	分野名	人数
５月15日～６月14日	マレイシア	学生	２０
	〃	教員	２０
１陣　１３０名	フィリピン	学生	２０
	〃	教員	２０
	タイ	学生（芸術関係）	２５
	〃	勤労青年	２５
５月29日～６月28日	ＡＳＥＡＮ混成	学生	３０
	ＡＳＥＡＮ混成	教員	３０
２陣　１５５名	ブルネイ	教員・学生（農業関係等）	２０
	インドネシア	テーマＡ（学生）	１５
	〃	教員	２５
	シンガポール	学生	１５
	〃	教員	２０
７月３日～８月２日	フィリピン	勤労青年Ｉ（農業系）	２５
	〃	テーマＡ	２０
３陣　１３２名	シンガポール	公務員Ｉ	２４
	〃	勤労青年	２３
	タイ	青年指導者	２５
	〃	テーマＢ	１５
７月10日～８月９日	韓国	学生	３０
	〃	教員	２０
４陣　１００名	〃	勤労青年	３０
	〃	青年指導者	２０
８月21日～９月20日	ＡＳＥＡＮ混成	公務員Ｉ	３０
	インドネシア	テーマＢ（公務員）	２０
５陣　１６８名	〃	農村青年	２５
	マレイシア	テーマＡ（勤労青年）	２０
	〃	青年指導者	２５
	シンガポール	公務員II	２４
	〃	青年指導者	２４
８月28日～９月27日	ＡＳＥＡＮ混成	公務員II	３０
	ブルネイ	テーマＡ	１０
６陣　１２５名	フィリピン	勤労青年II（産業系）	２５
	〃	テーマＢ	２０
	タイ	テーマＡ	１５
	〃	農村青年	２５
９月11日～10月11日	ＰＮＧ	教員	２０
	〃	公務員	１０
７陣　１００名	フィジー	公務員（または教員）	１２
	太平洋混成	公務員	２４
	〃	教員	１４
	ミャンマー	未定	２０
10月16日～11月15日	インドネシア	勤労青年	２５
	〃	学生	２０
８陣　９０名	マレイシア	公務員	２５
	〃	テーマＢ（農村青年）	２０
11月６日～12月６日	中国	（経済青年）	２５
	〃	（教員）	２５
９陣　１００名	〃	（公務員）	２５
	〃	（青年指導者）	２５
11月20日～12月20日	中国	未定	２５
	〃	未定	２５
10陣　１００名	〃	未定	２５
	〃	未定	２５
合計	ＡＳＥＡＮ６カ国（８００）　太平洋諸国（８０） ミャンマー（２０）中国（２００）韓国（１００）		

テーマＡ：ハイテク・科学技術産業の現状
テーマＢ：地方の農業・地場産業振興

21世紀のための交流計画（案）
平成2年度国別受入計画

平成2年2月9日
青年招へい業務室

国名	分野名	人数	受入時期
ブルネイ	教員・学生（農業関係等） ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	20 5 5	5月29日～6月28日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員I	5	8月21日～9月20日
	テーマA ASEAN混成・公務員II	10 5	8月28日～9月27日 〃
インドネシア	テーマA（学生） 教員 ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	15 25 5 5	5月29日～6月28日 〃 〃 〃
	テーマB（公務員） 農村青年 ASEAN混成・公務員I	20 25 5	8月21日～9月20日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員II	5	8月28日～9月27日
	勤労青年 学生	25 20	10月16日～11月15日 〃
マレイシア	学生 教員	20 20	5月15日～6月14日 〃
	ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	5 5	5月29日～6月28日 〃
	ASEAN混成・公務員I テーマA（勤労青年） 青年指導者	5 20 25	8月21日～9月20日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員II	5	8月28日～9月27日
	公務員 テーマB（農村青年）	25 20	10月16日～11月15日 〃
フィリピン	学生 教員	20 20	5月15日～6月14日 〃
	ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	5 5	5月29日～6月28日 〃
	勤労青年I（農業系） テーマA	25 20	7月3日～8月2日 〃
	ASEAN混成・公務員I	5	8月21日～9月20日
	ASEAN混成・公務員II 勤労青年II（産業系） テーマB	5 25 20	8月28日～9月27日 〃 〃
シンガポール	学生 教員 ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	15 20 5 5	5月29日～6月28日 〃 〃 〃
	公務員I 勤労青年	24 23	7月3日～8月2日 〃
	ASEAN混成・公務員I 公務員II 青年指導者	5 24 24	8月21日～9月20日 〃 〃
	ASEAN混成・公務員II	5	8月28日～9月27日
タイ	学生（芸術関係） 勤労青年	25 25	5月15日～6月14日 〃
	ASEAN混成・学生 ASEAN混成・教員	5 5	5月29日～6月28日 〃
	青年指導者 テーマB	25 15	7月3日～8月2日 〃
	ASEAN混成・公務員I	5	8月21日～9月20日
	ASEAN混成・公務員II テーマA 農村青年	5 15 25	8月28日～9月27日 〃 〃
PNG	教員 公務員	20 10	9月11日～10月11日 〃
フィジー	公務員（または教員）	12	9月11日～10月11日
太平洋混成	公務員 教員	24 14	9月11日～10月11日 〃
ミャンマー	未定	20	9月11日～10月11日
中国	（経済青年） （教員） （公務員） （青年指導者）	25 25 25 25	11月6日～12月6日 〃 〃 〃
	未定 未定 未定 未定	25 25 25 25	11月20日～12月20日 〃 〃 〃
韓国	学生 教員 勤労青年 青年指導者	30 20 30 20	7月10日～8月9日 〃 〃 〃
合計	ASEAN6カ国（800）　太平洋諸国（80） ミャンマー（20）中国（200）韓国（100）		

テーマA：ハイテク・科学技術産業の現状
テーマB：地方の農業・地場産業振興

Youth Invitation Schedule for "Fiendship Programme for the 21st Century" in 1990

Period	Country	Field (Group)	Size (Persons)	Implementing Organization	Place of Local Programme
May15 ~ Jun.14	Malaysia	Students	20	NAYD	Okinawa
	〃	Teachers	20	IHCSA	Nagano
	Philippines	Students	20	WYVEA	Nigata
	〃	Teachers	20	EIL	Yamanashi
	Thailand	Students(Fine Arts)	25	DAY	Fukushima
	〃	Working Youth	25	WYWA	Wakayama
May29 ~ Jun.28	ASEAN Group	Students	30	UNESCO	Miyagi
	ASEAN Group	Teachers	30	UNESCO	Hyogo
	Brunei	Teachers・Students	20	JOCA	Yamaguchi
	Indonesia	Theme A(Students)	15	WYVEA	Osaka
	〃	Teachers	25	NCYOJ	Tottori
	Singapore	Students	15	WYVEA	Hokkaido
	〃	Teachers	20	IHCSA	Iwate
Jul.3 ~ Aug.2	Philippines	Working Youth(Agricultural)	25	JOCA	Yamagata
	〃	Theme A	20	NAYD	Fukuoka
	Singapore	Civil Servants I	24	IHCSA	Akita
	〃	Working Youth	23	DAY	Miyazaki
	Thailand	Youth Leaders	25	NCYOJ	Nigata
	〃	Theme B	15	JSC	Ehime
Jul.10 ~ Aug.9	Korea	Students	30	WYVEA	Toyama
	〃	Teachers	20	IHCSA	Aomori
	〃	Working Youth	30	WYWA	Nara
	〃	Youth Leaders	20	NCYOJ	Hokkaido
Aug.21 ~ Sep.20	ASEAN Group	Civil Servants I	30	IHCSA	Tochigi
	Indonesia	Theme B(Civil Servants)	20	JOCA	Oita
	〃	Agricultural Youth	25	RYEDA	Shiga
	Malaysia	Theme A(Working Youth)	20	JEC	Ibaraki
	〃	Youth Leaders	25	NAYD	Fukui
	Singapore	Civil Servants II	24	DAY	Shizuoka
	〃	Youth Leaders	24	EIL	Okayama
Aug.28 ~ Sep.27	ASEAN Group	Civil Servants II	30	NAYD	Kyushu
	Brunei	Theme A	10	JEC	Osaka
	Philippines	Working Youth(Industrial)	25	JYH	Kyoto
	〃	Theme B	20	JOCA	Kochi
	Thailand	Theme A	15	WYWA	Aichi
	〃	Agricultural Youth	25	RYEDA	Saga
Sep.11 ~ Oct.11	Papua New Guinea	Teachers	20	IHCSA	Nagasaki
	〃	Civil Servants	10	JEC	Gifu
	Fiji	Civil Servants(or Teachers)	12	UNESCO	Kagoshima
	Pacific Countries	Civil Servants	24	WYVEA	Okayama
	〃	Teachers	14	JYH	Ishikawa
	Myanmar	(undecided)	20	WYVEA	Mie
Oct.16 ~ Nov.15	Indonesia	Working Youth	25	WYWA	Gunma
	〃	Students	20	EIL	Hiroshima
	Malaysia	Civil Servants	25	WYVEA	Kagawa
	〃	Theme B(Agricultural Youth)	20	RYEDA	Kumamoto
Nov.6 ~ Dec.6	China	Working Youth(Economic)	25	JEC	Hyogo
	〃	Teachers	25	JOCA	Okayama
	〃	Civil Servants	25	IHCSA	Shimane
	〃	Youth Leaders	25	JSC	Mie
Nov.20 ~ Dec.20	China	(undecided)	25	WYVEA	Tokushima
	〃	(undecided)	25	RYEDA	Gifu
	〃	(undecided)	25	DAY	Okinawa
	〃	(undecided)	25	NAYD	Hiroshima

Theme A : High-Technology Industry in Japan Theme B : Promotion of Agriculture and Local Industry

Note:
- NAYD :National Assembly for Youth Development
- NCYOJ :National Council of Youth Organization in Japan
- WYVEA :World Youth Visit Exchange Association
- EIL :Japanese Association of the Experiment in International Living
- RYEDA :Rural Youth Education Development Association
- JEC :Junior Executive Council of Japan
- WYWA :Working Youth Welfare Association
- DAY :Development Association for Youth
- IHCSA :International Hospitality and Conference Service Association
- JOCA :Japan Overseas Cooperative Association
- JSC :Japan Seinendan Council
- UNESCO :National Federation of UNESCO Association in Japan
- JYH :Japan Youth Hostels, Inc.

Youth Invitation Schedule for "Fiendship Programme for the 21st Century" in 1990

Country	Field (Group)	Size (Persons)	Period
Brunei	Teachers・Students ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	20 5 5	May29 ~Jun.28 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug.21~Sep.20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Theme A	5 10	Aug.28~Sep.27 〃
Indonesia	Theme A (Students) Teachers ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	15 25 5 5	May29 ~Jun.28 〃 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Theme B (Civil Servants) Agricultural Youth	5 20 25	Aug.21~Sep.20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug.28~Sep.27
	Working Youth Students	25 20	Oct.16~Nov.15 〃
Malaysia	Students Teachers	20 20	May15 ~Jun.14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun.28 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Theme A (Working Youth) Youth Leaders	5 20 25	Aug.21~Sep.20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug.28~Sep.27
	Civil Servants Theme B (Agricultural Youth)	25 20	Oct.16~Nov.15 〃
Philippines	Students Teachers	20 20	May15 ~Jun.14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun.28 〃
	Working Youth (Agricultural) Theme A	25 20	Jul.3 ~Aug.2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug.21~Sep.20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Working Youth (Industrial) Theme B	5 25 20	Aug.28~Sep.27 〃 〃
Singapore	Students Teachers ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	15 20 5 5	May29 ~Jun.28 〃 〃 〃
	Civil Servants I Working Youth	24 23	Jul.3 ~Aug.2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Civil Servants II Youth Leaders	5 24 24	Aug.21~Sep.20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug.28~Sep.27
Thailand	Students (Fine Arts) Working Youth	25 25	May15 ~Jun.14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun.28 〃
	Youth Leaders Theme B	25 15	Jul.3 ~Aug.2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug.21~Sep.20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Theme A Agricultural Youth	5 15 25	Aug.28~Sep.27 〃 〃
Papua New Guinea	Teachers Civil Servants	20 10	Sep.11~Oct.11 〃
Fiji	Civil Servants (or Teachers)	12	Sep.11~Oct.11
Pacific Countries	Civil Servants Teachers	24 14	Sep.11~Oct.11 〃
Myanmar	(undecided)	20	Sep.11~Oct.11
China	Working Youth (Economic) Teachers Civil Servants Youth Leaders	25 25 25 25	Nov.6 ~Dec.6 〃 〃 〃
	(undecided) (undecided) (undecided) (undecided)	25 25 25 25	Nov.20~Dec.20 〃 〃 〃
Korea	Students Teachers Working Youth Youth Leaders	30 20 30 20	Jul.10~Aug.9 〃 〃 〃

Theme A : High-Technology Industry in Japan
Theme B : Promotion of Agriculture and Local Industry

青年招へい事業太平洋諸国受入実績および受入予定

国名	首都	面積	人口	1986年度受入実績			1987年度受入実績		
				公務員	教員	計	公務員	教員	計
パプア・ニューギニア	ポート・モレスビー	460,000 km²	3,480,000人		10	10		14	14
フィジー	スヴァ	18,274	714,000	10		10	10		10
ソロモン	ホニアラ	29,785	297,000						
ヴァヌアツ	ポート・ヴィラ	12,189	142,000						
トゥヴァル	フナフティ	25.9	8,229						
トンガ	ヌクアロファ	747	110,000						
西サモア	アピア	2,934	163,000						
クック	アバルア	241	20,000						
ニウエ	アロフィ	259	2,774						
キリバス	タラワ	728	70,000						
ナウル	ヤレン	21.3	8,000						
マーシャル	マジュロ	181	35,000						
ミクロネシア	コロニア	837	91,240						
パラオ	コロール	494	15,000						
			太平洋諸国小計	0	0	0	0	0	0
			太平洋全域合計	10	10	20	10	14	24

国名	1988年度受入実績			1989年度受入計画			1989年度受入実績			1990年度受入予定		
	公務員	教員	計	公務員	教員	計	公務員	教員	計	公務員	教員	計
パプア・ニューギニア	10	20	30	10	20	30	14	20	34	10	20	30
フィジー	11	0	11	12	0	12	12	0	12	12		12
ソロモン	4	3	7	4	3	7	4	5	9	4	3	7
ヴァヌアツ	3	4	7	3	2	5	5	0	5	3	2	5
トゥヴァル	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1
トンガ	4	3	7	3	2	5	3	2	5	3	2	5
西サモア	3	2	5	3	2	5	3	2	5	3	2	5
クック	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1
ニウエ	0	1	1	1	0	1	1	1	2	1	0	1
キリバス	3	4	7	2	2	4	2	2	4	2	2	4
ナウル	1	0	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1
マーシャル	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3
ミクロネシア	2	2	4	2	2	4	2	0	2	2	2	4
パラオ	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1
太平洋混成小計	24	21	45	24	14	38	25	13	38	24	14	38
太平洋全域合計	45	41	86	46	34	80	51	33	84	46	34	80

（註）太平洋全域の計画人数：1986年20名、1987年20名、1988年80名、1989年80名
1990年度のフィジーの受入分野は公務員または教員

太平洋諸国合計

1. 生活全般について

項目	まったく問題なし	ほとんど問題なし	多少問題	かなり問題	非常に問題	満足度
物価・諸費用	5	1	19	7	4	-0.111
治安	34	2		1		1.865
道路	11	8	8	5	5	0.405
ホームシック	19	12	4	1		1.361
気候	9	15	7	4	1	0.750
時間厳守、早い生活ペース	9	16	6	2	3	0.722
衛生	20	13	4			1.432
宿舎	34	3				1.919
プライバシーの欠如	27	7	3			1.649
グループ・メンバーとの人間関係	35	1	1			1.919
外国人に対する日本人の態度	26	7	3	1		1.568
宗教上の問題	18	5	8	2	4	0.830

2. プログラム内容について

		非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	非常に楽しんだ	かなり楽しんだ	満分楽しんだ	あまり楽しまず	全く楽しまず	満足度	満足度
共通プログラム	講義	27	6	1			5		26			1.765	0.323
	日本語学習	6	10	1	19		4		26			0.003	0.267
	体験的日本語学習	9	5	4	12		8	7	19			0.367	0.676
	武道鑑賞	14	7	2	4		10	3	21			1.148	0.676
	見学	18	8				16	1	19			1.692	0.917
合宿セミナー	日本人との討論	15	7	2	5		11	3	17	1		1.103	0.750
	日本人との交流	11	12	2	2		14	4	14	1		1.185	0.939
都内分野別プログラム	講義	19	10	1	1		5	3	21			1.516	0.448
	見学	18	7				11	3	19			1.720	0.756
	表敬訪問	17	4	2	2		16		17	2		1.440	0.857
	合宿セミナー以外の日本人との討論	12	10	3	2		9	3	18	2		1.185	0.594
	合宿セミナー以外の日本人との交流	11	12	1	2		13	2	17	1		1.231	0.818
地方分野別プログラム	講義	23	4	3	1		8	1	21			1.581	0.567
	見学	16	8	1	2		10	4	20			1.407	0.706
	表敬訪問	17	6	2	1	1	10	3	19	2		1.370	0.610
	日本人との討論	12	12	1	3		7	2	23			1.179	0.500
	日本人との交流	12	13	1	3		12	4	16			1.172	0.824
	ホームステイ	20	4		1		21	1	11			1.720	1.303
見学旅行	京都または奈良他	16	8		1		14	2	19			1.560	0.857
	広島または長崎他	17	8	1	1		14	1	19			1.519	0.853

3.プログラム全般について

現地プログラム

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地プログラムの期間	5	26	5

	早すぎる	適当	遅すぎる
2．現地プログラムの時期		32	5

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数	4	28	5

	適当	不適当
4．講義内容	30	1

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間		25	12

	適当	不適当
6．日本語学習の内容	30	7

	多すぎる	適当	少なすぎる
7．コーディネーターによるプログラム説明の時間	5	30	2

	適当	不適当
8．毎日プログラム説明の内容	34	3

	適当	不適当
9．見学施設	36	2

	適当	不適当
10．配布資料および教材	36	1

3.プログラム全般について

現地プログラム

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地プログラムの期間	14%	72%	14%

	早すぎる	適当	遅すぎる
2．現地プログラムの時期	0%	86%	14%

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数	11%	76%	14%

	適当	不適当
4．講義内容	97%	3%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間	0%	68%	32%

	適当	不適当
6．日本語学習の内容	81%	19%

	多すぎる	適当	少なすぎる
7．コーディネーターによるプログラム説明の時間	14%	81%	5%

	適当	不適当
8．毎日プログラム説明の内容	92%	8%

	適当	不適当
9．見学施設	95%	5%

	適当	不適当
10．配布資料および教材	97%	3%

日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	25	10

	適当	不適当
2．討論・交流した日本青年の分野	30	6

	適当	不適当
3．見学先の選定	35	1

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	36	

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数	2	35	

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	2	27	8

	大きすぎる	適当	少なすぎる
7．グループの大きさ	1	25	11

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解	20	23			

	東京	各面セミナー	地方プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	1	6	21	6	1

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	24	12	1	

	断然薦める	多分薦める	定かでない	薦めない
12．友人に参加を薦めるか	33	4		

日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	71%	29%

	適当	不適当
2．討議・交流した日本青年の分野	83%	17%

	適当	不適当
3．見学先の選定	97%	3%

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	100%	0%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数	5%	95%	0%

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	5%	73%	22%

	大きすぎる	適当	小さすぎる
7．グループの大きさ	3%	68%	30%

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解	47%	53%	0%	0%	0%

	東京	各面セミナー	地方プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	3%	17%	60%	17%	3%

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	65%	32%	3%	0%

	断然薦める	多分薦める	定かでない	薦めない
12．友人に参加を薦めるか	89%	11%	0%	0%

フィーダー合計

1. 生活全般について

項目	まったく困難なし	ほとんど困難なし	多少困難	かなり困難	非常に困難	満足度
物価・消費用		5	5	1	1	0.167
治安	12					2.000
設備	9	2	1			1.667
ホームシック	11		1			1.833
気候	11	1				1.917
時間厳守、早い生活ペース	9	3				1.750
交通	11	1				1.917
衛生	12					2.000
プライバシーの欠如	11	1				1.917
グループ・メンバーとの人間関係	11	1				1.917
外国人に対する日本人の態度	9	2		1		1.583
宗教上の問題	10	2				1.833

2.プログラム内容について

		非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	非常に楽しんだ	かなり楽しんだ	満足に楽しんだ	あまり楽しまず	全く楽しまず	満足度	満足度
共通プログラム	講義	8	4				2	1	9			1.667	0.417
	日本語学習		5	2	5				12			0.000	0.000
	体験的日本語学習		4	3	5			1	11			-0.083	0.083
	武道鑑賞	5	5	2			2	2	8			1.250	0.500
	見学	9	3				6		6			1.750	1.000
合宿セミナー	日本人との討論	5	5		2		2	2	8			1.083	0.500
	日本人との交流	6	5	1			3	2	7			1.417	0.667
部内分野別プログラム	講義	7	5				3	2	7			1.583	0.667
	見学	10	2				4	1	7			1.833	0.750
	表敬訪問	8	4				3	3	6			1.667	0.750
	合宿セミナー以外の日本人との討論	4	5	2	1		3	4	5			1.000	0.833
	合宿セミナー以外の日本人との交流	4	4	1	3		3	3	6			0.750	0.750
地方分野別プログラム	講義	7	5				2	4	6			1.583	0.667
	見学	7	5				5	2	5			1.583	1.000
	表敬訪問	7	5				3	4	5			1.583	0.833
	日本人との討論	5	5	1	1		5	1	6			1.167	0.917
	日本人との交流	4	5	2	1		3		9			1.000	0.500
	ホームステイ	10	2				7		5			1.833	1.167
見学旅行	京都または奈良旅	8	4				4	1	7			1.667	0.750
	広島または宮島旅	9	3				5	1	6			1.750	0.917

3.プログラム全般について

現地プログラム

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地プログラムの期間		8	4

	早すぎる	適当	遅すぎる
2．現地プログラムの時期		10	2

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数		11	1

	適当	不適当
4．講義内容	11	1

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間		1	11

	適当	不適当
6．日本語学習の内容	8	4

	多すぎる	適当	少なすぎる
7．コーディネーターによるプログラム説明の時間		11	1

	適当	不適当
8．毎日プログラム説明の内容	12	

	適当	不適当
9．見学施設	12	

	適当	不適当
10．配布資料および教材	10	2

3.プログラム全般について

現地プログラム

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地プログラムの期間	0%	67%	33%

	早すぎる	適当	遅すぎる
2．現地プログラムの時期	0%	83%	17%

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数	0%	92%	8%

	適当	不適当
4．講義内容	92%	8%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間	0%	8%	92%

	適当	不適当
6．日本語学習の内容	67%	33%

	多すぎる	適当	少なすぎる
7．コーディネーターによるプログラム説明の時間	0%	92%	8%

	適当	不適当
8．毎日プログラム説明の内容	100%	0%

	適当	不適当
9．見学施設	100%	0%

	適当	不適当
10．配布資料および教材	83%	17%

日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	4	8

	適当	不適当
2．討議・交流した日本青年の分野	6	6

	適当	不適当
3．見学先の選定	12	

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	12	

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数		12	

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間		9	3

	大きすぎる	適当	少なすぎる
7．グループの大きさ		10	2

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解					

	東京	合宿セミナー	地方プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	2	2	5	3	3

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	9	2	1	

	断然勧める	多分勧める	定かでない	勧めない
12．友人に参加を勧めるか	12			

日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	33%	67%

	適当	不適当
2．討議・交流した日本青年の分野	50%	50%

	適当	不適当
3．見学先の選定	100%	0%

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	100%	0%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数	0%	100%	0%

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	0%	75%	25%

	大きすぎる	適当	小さすぎる
7．グループの大きさ	0%	83%	17%

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解					

	東京	合宿セミナー	地方プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	13%	13%	33%	20%	20%

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	75%	17%	8%	0%

	断然勧める	多分勧める	定かでない	勧めない
12．友人に参加を勧めるか	100%	0%	0%	0%

ﾊﾟﾌﾟﾃｨｰﾆｭｰｷﾞﾆｱ合計

1. 生活全般について

項目	まったく困難なし	ほとんど困難なし	多少困難	かなり困難	非常に困難	満足度
物価・諸費用	6	6	10	8	4	0.059
治安	27	5	1			1.788
湿度	11	14	6		2	0.970
ﾎｰﾑｼｯｸ	25	7	1		1	1.618
気候	6	18	6			1.063
時間厳守、早い生活ペース	10	12	8	3	1	0.794
交通	9	13	7	3	1	0.788
宿舎	33			1		1.912
ﾌﾟﾗｲﾊﾞｼｰの欠如	23	6	3	1		1.545
ｸﾞﾙｰﾌﾟ・ﾒﾝﾊﾞｰとの人間関係	17	11	1	4	1	1.147
外国人に対する日本人の態度	13	12	7	1	1	1.029
宗教上の問題	14	5	6	3	5	0.606

2.ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ内容について

		非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまり理解できなかった	全く理解できなかった	非常に楽しんだ	かなり楽しんだ	設分楽しんだ	あまり楽しまず	全く楽しまず	満足度	満足度
共通ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	講義	17	10		1		2	5	17			:.536	0.375
	日本語学習	1	4	3	22	1	3	4	17			-0.581	0.417
	体験的日本語学習	3	4	15	6		3	4	18			0.143	0.400
	武道鑑賞	7	5	4	7		8	7	18			0.522	0.697
	見学	10	11		2		13	5	13			1.261	1.000
合宿ｾﾐﾅｰ	日本人との討論	16	6		2		18	3	9			1.500	1.300
	日本人との交流	6	15	3			12	6	9			1.192	1.111
都内分野別ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	講義	18	9	2	1		8	7	12			1.467	0.852
	見学	12	12	1			9	8	13			1.440	0.867
	表敬訪問	12	9	1	2		7	9	13			1.292	0.793
	合宿ｾﾐﾅｰ以外の日本人との討論	7	9	2	4		7	3	17	1		0.804	0.571
	合宿ｾﾐﾅｰ以外の日本人との交流	8	11	1	4		9	6	12			0.958	0.889
地方分野別ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	講義	14	12	1		1	6	6	10			1.357	0.818
	見学	13	8			1	14	3	10			1.455	1.143
	表敬訪問	13	9		1	1	13	2	9			1.333	1.167
	日本人との討論	13	6		3		10	6	10			1.318	1.000
	日本人との交流	15	6		2		11	5	12			1.478	0.964
	ﾎｰﾑｽﾃｲ	12	8				18	2	9			1.600	1.310
見学旅行	京都または奈良他	10	7		1		15	3	14			1.444	1.031
	広島または長崎他	13	6				18	4	10			1.684	1.250

3.ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ全般について

現地ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの期間	1	18	15

	早すぎる	適当	遅過すぎる
2．現地ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの時期		26	8

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数	2	23	8

	適当	不適当
4．講義内容	30	2

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間	1	14	16

	適当	不適当
6．日本語学習の内容	28	3

	多すぎる	適当	少なすぎる
7．ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ説明の時間	2	30	2

	適当	不適当
8．毎日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ説明の内容	32	2

	適当	不適当
9．見学施設	31	2

	適当	不適当
10．配布資料および教材	27	4

3.ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ全般について

現地ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ

	長すぎる	適当	短すぎる
1．現地ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの期間	3%	53%	44%

	早すぎる	適当	遅過すぎる
2．現地ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの時期	0%	76%	24%

	多すぎる	適当	少なすぎる
3．講義数	6%	70%	24%

	適当	不適当
4．講義内容	94%	6%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．日本語学習の時間	3%	45%	52%

	適当	不適当
6．日本語学習の内容	90%	10%

	多すぎる	適当	少なすぎる
7．ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰによるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ説明の時間	6%	86%	6%

	適当	不適当
8．毎日ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ説明の内容	94%	6%

	適当	不適当
9．見学施設	94%	6%

	適当	不適当
10．配布資料および教材	87%	13%

日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	15	17

	適当	不適当
2．計画・交流した日本青年の分野	23	8

	適当	不適当
3．見学先の選定	31	1

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	31	

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数	4	27	2

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	1	19	12

	大きすぎる	適当	少なすぎる
7．グループの大きさ	10	20	2

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解	11	16	1		

	東京	合宿セミナー	地方プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	3	10	15	8	1

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	23	9		

	断然勧める	多分勧める	定かでない	勧めない
12．友人に参加を勧めるか	30	2		

日本でのプログラム

	充分	不充分
1．日本青年との交流機会	47%	53%

	適当	不適当
2．計画・交流した日本青年の分野	74%	26%

	適当	不適当
3．見学先の選定	97%	3%

	適当	不適当
4．プログラムの運営・管理	100%	0%

	多すぎる	適当	少なすぎる
5．プログラム数	12%	82%	6%

	長すぎる	適当	短すぎる
6．滞在期間	3%	59%	38%

	大きすぎる	適当	小さすぎる
7．グループの大きさ	31%	63%	6%

	非常によく理解できた	かなりよく理解できた	ある程度理解できた	あまりよく理解できなかった	全くよく理解できなかった
8．テーマについての理解	39%	57%	4%	0%	[illegible]

	東京	合宿セミナー	地方プログラム	見学旅行	その他
10．どこが最も印象深かったか	8%	27%	41%	22%	[illegible]

	すばらしい	よい	普通	乏しい
11．全体としての評価	72%	28%	0%	0%

	断然勧める	多分勧める	定かでない	勧めない
12．友人に参加を勧めるか	94%	6%	0%	0%

10. 太平洋諸国調査団資料（英文）

THE FRIENDSHIP PROGRAMME

FOR

THE 21ST CENTURY

(Pacific Countries)

PROGRESS REPORT ON PACIFIC YOUTH INVITATION PROGRAMME IN 1989

March, 1990
Japan International Cooperation Agency

1. Purpose of the Programme

The purpose of this programme is to strengthen friendly and cooperative relationship between Pacific countries and Japan by inviting Pacific youth who bear the task of nation-building toward the future, providing them with opportunities to deepen mutual understanding through exchange with Japanese youth for true friendship and trust.

2. Circumstances and Record of Invitation

This programme was started for six ASEAN countries in 1984. In 1986, it was extended to Pacific countries, and invitation of youth from Fiji and Papua New Guinea was started. In 1987, it was further extended to China and Korea.

In 1988, it was extended to other Pacific countries besides Fiji and Papua New Guinea. 45 young people from 12 countries were newly invited in two groups.

In 1989, 84 young people from 13 countries were invited. (Nauru suspended sending participants due to traffic circumstances.)

Before coming to Japan the participants took part in the Pre-departure Programme for several days held in the following countries: Fiji (35 participants), Papua New Guinea (35, one of whom suspended coming to Japan), Solomon Islands (9) and Guam (6). They stayed in Japan for one month from October 3 to November 2 in 1989. (There was a little difference in the staying period among the participating countries.)

Year	Country	Field	No. of participants (Total No.)	
1986	Fiji	Civil Servants	10	
	PNG	Teachers	10	(20)
1987	Fiji	Civil Servants	10	
	PNG	Teachers	14	(24)
1988	Fiji	Civil Servants	11	
	PNG	Teachers	20	
	"	Youth Leaders	10	
	Pacific	Teachers	21	
	Component	Civil Servants	24	(86)
1989	Fiji	Civil Servants	12	
	PNG	Teachers	20	
	"	Youth Leaders	14	
	Pacific	Teachers	13	
	Component	Civil Servants	25	(84)

Number of Participants Invited in 1989

Country / Field	Civil Servants	Teachers	Total
Papua New Guinea	14	20	34
Fiji	12	0	12
Solomon Islands	4	5	9
Vanuatu	5	0	5
Tuvalu	1	0	1
Tonga	3	2	5
Western Samoa	3	2	5
Cook Islands	1	0	1
Niue	1	1	2
Kiribati	2	2	4
Nauru	0	0	0
Marshall Islands	2	1	3
Micronesia	2	0	2
Palau	1	0	1
Total in Pacific Component Group	25	13	38
Grand Total	51	33	84

3. Programme in Japan

The one-month programme in Japan comprises the following.

(1) General Orientation including lectures on economy and culture of Japan, observation of key industries and Japanese martial arts.

(2) Specialized Programme
① in and around Tokyo including In-house Seminar with Japanese youth,
② in local prefecture including Homestay during which the participants experience life in Japanese home

(3) Observation Tour to Kyoto, Nara and Hiroshima

(4) Evaluation

4. Evaluation of the Programme

(1) General evaluation

In 1989, 84 young people from 13 Pacific countries were invited. According to their opinions presented in the questionnair and at the evaluation meeting, almost all of the participants were satisfied with the content of the programme. All of them said that they would recommend participation in the programme to their friends, and they appraised that their experience in Japan was significant. Although it is suggested that more opportunities for exchange and discussions with Japanese youth should be given, the contents of the exchange and discussions were highly evaluated. The participants pointed out difficulty in life in Japan because of high prices of commodities. Also, many of them (except those from Fiji) said that they found it difficult to get used to congestion and difference in climate and religious customs.

Though various suggestions are given, the participants highly evaluate the programme on the whole, as they had exchange not only with Japanese youth but also youth from other Pacific countries, and they found much to learn through exchange with Japanese youth in the seminar and through visiting the same working places as theirs.

5. Future Plan for Improvement

(1) Intensify the orientation for Japanese youth participating in the In-house Seminar and brief the parties concerned on custom and background of the youth from respective countries to promote a better understanding of the Pacific countries in Japan.

(2) Consider the balance of the schedule not to be tight and set free days properly, make better programme according to the character of the field and secure Japanese youth for the In-house Seminar.

(3) Create the programme for good exchange with Japanese youth including introduction of Japanese culture.

(4) Intensify the orientation in the Pre-departure Programme and provide the explanation meeting by the ex-participants to avoid misunderstanding caused by difference in customs, in habits (e.g. drinking habit) and in general manners.

(5) Have better programme-making in Japan, asking each party concerned to give information early about the selection of the participants and the characteristic of the field, and early submission of the application forms.

6. Evaluation by Groups

(1) Fiji Civil Servants Group

The following is the summary of evaluation by the participants presented at the evaluation meeting and in the questionnair conducted before their return.

① Pre-departure Programme

* More time for Japanese language lesson should be given.
* Entire two days should be spent for practical programme.
* Commutation allowances in Fiji should be provided.

② General Orientation

* More time for Japanese language lesson should be given.

③ In-house Seminar

* There was difficulty in communication.
* Members of discussion groups should be alternated.

④ Programme in Local Prefectures (including Homestay)

* Discussions as in the In-house Seminar should be given.
* Homestay is significant, but there was difficulty in communication.

⑤ Observation Trip

* At the Peace Memorial Hall in Hiroshima, deeper understanding could have expected if there had been a lecture.
* Too many observations of temples.

⑥ Others

* Textbook of Japanese language lesson should be provided earlier.
* Allowances should be provided at several times, not at a time.

Though various suggestions are given to each part of the programme, almost all of the participants answered that they were satisfied with the programme in general.

The participants were cooperative and in union, which made the programme in Japan almost satisfactory.

For improvement, time for discussion should be given in each place to visit in order to give the participants more time for exchange.

(2) Pacific Component Teachers Group

The following is the summary of evaluation by the participants presented at the evaluation meeting and in the questionnair conducted before their return.

① Pre-departure Programme

* More information should be given before coming to Japan.

② General Orientation

* The lectures were interesting in terms of the contents.
* In the Open Session of Japanese Conversation, it was difficult to understand the language when they spoke one sentence after another.

③ In-house Seminar

* It was conducted in a place surrounded by good environment. The discussion was significant because we could grasp the situation in the respective countries.
* More elementary school teachers should participate from the Japanese side.

④ Programme in and around Tokyo (except In-house Seminar)

* The programme provided us with a lot of educational materials and other things which we can use in our own countries. Particularly visits to UNESCO Asian Culture Center and SONY Media World were significant.

⑤ Programme in Local Prefectures (including Homestay)

* Homestay was especially excellent because it was a good chance to

see various aspects of Japanese culture.

⑥ Observation Trip

* In Hiroshima, the story of victims of atomic air raids was interesting and sorrowful.
* We enjoyed the beauty of Kyoto.

⑦ Others

* Sufficient information should be given in the respective countries.
* More time for Japanese language lesson should be given.
* Textbook of Japanese language lesson should be provided earlier.
* Allowances should be provided at several times, not at a time.
* More sports exchange activities should be given.

Though various suggestions are given to each part of the programme, almost all of the participants answered that they were satisfied with the programme in general. They highly evaluate the programme, saying that they had exchange not only with Japanese youth but also with young people from other Pacific countries. The participants also said that they acquired good information for their occupation through In-house Seminar and through visits to schools.

The participants' impression of Japan was very good. Despite the fact that the group was composed of 13 people from 6 countries, and that the Pre-departure Programme was conducted in three different places, the participants were cooperative with one another, and had positive attitude in participating in the programme. The programme in Japan was almost satisfactory, partly because the number of the participants was small, and the schedule was not tight.

For improvement, more elementary school teachers should take part in the In-house Seminar, and more sports exchange activities should be given.

(3) Pacific Component Sivil Servants Group

The following is the summary of evaluation by the participants presented at the evaluation meeting and in the questionnair conducted before their return.

① Pre-departure Programme

* More information should be given before coming to Japan.
* Allowances should be provided in US dollars.
* The Pre-departure Programme should be conducted in the participants' own country.

② General Orientation

* A question-and-answer session should be held at the end of the General Orientation period.

③ In-house Seminar

* The theme of discussions should be more serious one.
* The theme should be selected by the participants.

④ Programme in and around Tokyo (except In-house Seminar)

* More opportunities for sports activities should be provided.
* More time should be spared for introducing the participants' countries.

⑤ Programme in Local Prefectures (including Homestay)

* The duration of Homestay should be longer.
* There was difficulty in communication because the host family could not speak English well.

⑥ Observation Trip

* At the Peace Memorial Hall in Hiroshima, deeper understanding could have expected if there had been a lecture.
* Too many observations of temples.

⑦ Others

* Sufficient information should be given in the respective countries.
* Textbook of Japanese language lesson should be provided earlier.
* Time for prayer should be given on Sundays.

Though various suggestions are given to each part of the programme, almost all of the participants answered that they were satisfied with the programme in general.

Because the group was composed of 25 people from 11 countries, and the Pre-departure Programme was conducted in three different places, the participants seemed to have difficulty in getting united as a component group. However, the programme in Japan was almost satisfactory.

As for drinking, many participants did not seem to be accustomed to alcohol beverages besides beer. Although some of them drank too much, it did not affect the progress of the programme seriously. It is regarded that the participants were not punctual enough. It seemed difficult for them to follow the pace of living in Japan.

For improvement, the schedule should be more relaxed.

(4) Papua New Guinea Teachers Group

The following is the summary of evaluation by the participants presented at the evaluation meeting and in the questionnair conducted before their return.

① Pre-departure Programme

* More time should be given for Japanese language lesson.

② General Orientation

* Both content and time for the lectures were appropriate.
* All of the participants should take part in the Open Session of Japanese Conversation.

③ In-house Seminar

* More time should be spared for discussions.
* Potato digging was good for relaxation.

④ Programme in and around Tokyo (except In-house Seminar)

* We enjoyed going to the zoo and the museum.

⑤ Programme in Local Prefectures (including Homestay)

* Homestay provided us with a very good experience.
* Visiting the Education Center was very significant.

⑥ Observation Trip

* In Hiroshima, it would have been better if we could have a chance to talk with victims of atomic air raids.
* Kyoto was impressive.

⑦ Others

* Textbook of Japanese language lesson should be provided earlier.
* An English-Japanese dictionary should be provided.
* For observation, places to visit should be related to the situations in Papua New Guinea.

Though various suggestions are given to each part of the programme, almost all of the participants answered that they were satisfied with the programme in general.

The participants got united well, and the programme in Japan was almost satisfactory. The programme in local prefecture, whose environment was similar to their country, was more highly evaluated than that of Tokyo.

For improvement, more concrete and clearer information should be given, and better arrangement for moving from a hotel to another should be made so that it does not make the participants too tired.

(5) Papua New Guinea Civil Servants (Youth Leaders) Group

The following is the summary of evaluation by the participants presented at the evaluation meeting and in the questionnair conducted before their return.

① Pre-departure Programme

* More time should be given for Japanese language lesson.
* More information should be given prior to the departure.

② General Orientation

* Opportunities to get information from the embassy, etc. should be given.
* Observation of a power plant was not easy to understand.

③ In-house Seminar

* Duration was too short.

④ Programme in and around Tokyo (except In-house Seminar)

* Visits to a reformatory and an elementary school were ideally interesting.

⑤ Programme in Local Prefectures (including Homestay)

* It was easy to live because the environment was similar to that of our country.
* Visiting facilities related to agriculture is desirable.

⑥ Observation Trip

* Visiting Hiroshima was valuable because consciousness of peace was enhanced.

⑦ Others

* Textbook of Japanese language lesson should be provided earlier.
* It was difficult for us to get in union because the occupations of the participants were too diversified.
* More consideration should be given to religious customs and holidays.

Though various suggestions are given to each part of the programme, the content of the programme in general is highly evaluated.

Attention should be paid to the participants' voice that the appropriate selection of the participants should be considered. That there was a person who cancelled on the departure day is regarded to have something to do with the selection more or less.

In terms of the schedule of the programme in Japan, balance of time for moving and observation should be more considered, and the schedule should be more flexible.

7. Invitation Programme in 1990

(1) Outline

The number of the participants for invitation was 80 in the plan, and practically 84 young people were invited according to circumstances of the adjustment of the number in 1989.

The number of participants in the limit of budgetary appropriation in 1990 is the same as in 1989, and so that the same number of the participants in 1990 is assigned to respective countries. The Teachers Group and the Civil Servants Group are settled as occupational fields of the Component Group. As for Fiji, one group (either Civil Servants or Teachers) will be invited. As for the fields of Papua New Guinea, two groups (Civil Servants and Teachers) will be invited, and for the Civil Servants Group it is necessary to make it clear whether the participants are related to either administration or youth leaders.

As in 1989, in case the number of applicants exceeds the specified number, priority order should be listed on the application forms. The period of presentation of the application forms is until three months before the time of the enforcement of the programme (until the beginning of June). In case of paucity of recommended applicants by that period, assigned number of participants would be adjusted.

The General Information will be sent by the beginning of April.

(2) Duration

From September 11 to October 11, 1990

Number of Participants to be Invited in 1990

Country / Field	Civil Servants	Teachers	Total
Papua New Guinea	10	20	30
Fiji	12		12
Solomon Islands	4	3	7
Vanuatu	3	2	5
Tuvalu	1	0	1
Tonga	3	2	5
Western Samoa	3	2	5
Cook Islands	1	0	1
Niue	1	0	1
Kiribati	2	2	4
Nauru	1	0	1
Marshall Islands	2	1	3
Micronesia	2	2	4
Palau	1	0	1
Total in Pacific Component Group	24	14	38
Grand Total	46	34	80

THE FRIENDSHIP PROGRAMME FOR THE 21ST CENTURY

MODEL PROGRAMME IN 1990

		SCHEDULE	PLACE
General Orientation			
1	Tue	Arrival in Tokyo Guidance on Life in Japan	Tokyo
2	Wed	Briefing Opening Ceremony Japanese Language lesson Briefing on programmes by Organization Concerned	〃
3	Thu	Lecture: Industry & Economy of Japan Courtesy Call on Embassy	〃
4	Fri	Lecture: Modern History of Japan Japanese Language Lesson Evening of Japanese Martial Arts	〃
5	Sat	Experimental Japanese Language Lesson	〃
6	Sun	Free	〃
7	Mon	Observation Tour	〃
8	Tue	Lecture; Subject Concerned with Spcialized Field Lecture:Society & Culture of Japan	〃
Specialized Programme in Tokyo (Including In-House Seminar)			
9	Wed	Courtesy Call on Ministry concerned	Tokyo
10	Thu	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
11	Fri	Move to Accomodation for In-House Seminar Opening of The In-House Seminar	Local
12	Sat	Plenary Session Group Discussion Sports/Recreation	〃
13	Sun	Plenary Session Group Discussion Sports/Recreation Exchange Party	〃
14	Mon	Free	Tokyo
Specialized Programme in Local Prefecture (Including Homestay)			
15	Tue	Briefing on Specialized Programme in Local Prefecture Move to Local Prefecture	Local
16	Wed	Courtesy Call on Local Government Reception Hosted by Governer	〃
17	Thu	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
18	Fri	Homestay	〃
19	Sat	Homestay	〃
20	Sun	Homestay	〃
21	Mon	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
22	Tue	Observation Tour to Institutions Discussion & Exchange	〃
23	Wed	Free	〃
Observation Tour to Hiroshima & Kyoto			
24	Thu	Move to Hiroshima	Hiroshima
25	Fri	Observation Tour in Hiroshima	〃
26	Sat	Sightseeing in Kyoto	Kyoto
27	Sun	Sightseeing in Kyoto	〃
28	Mon	Move to Tokyo	Tokyo
Evaluation Programme			
29	Tue	Free	Tokyo
30	Wed	Evaluation Meeting Briefing on Departure Preparation for Departure Farewell Party	〃
31	Thu	Departure	

Youth Invitation Schedule for "Fiendship Programme for the 21st Century" in 1990

Period	Country	Field (Group)	Size (Persons)	Implementing Organization	Place of Local Programme
May15 ~ Jun.14	Malaysia	Students	20	NAYD	Okinawa
	〃	Teachers	20	IHCSA	Nagano
	Philippines	Students	20	WYVEA	Nigata
	〃	Teachers	20	EIL	Yamanashi
	Thailand	Students (Fine Arts)	25	DAY	Fukushima
	〃	Working Youth	25	WYWA	Wakayama
May29 ~ Jun.28	ASEAN Group	Students	30	UNESCO	Miyagi
	ASEAN Group	Teachers	30	UNESCO	Hyogo
	Brunei	Teachers・Students	20	JOCA	Yamaguchi
	Indonesia	Theme A (Students)	15	WYVEA	Osaka
	〃	Teachers	25	NCYOJ	Tottori
	Singapore	Students	15	WYVEA	Hokkaido
	〃	Teachers	20	IHCSA	Iwate
Jul.3 ~ Aug.2	Philippines	Working Youth (Agricultural)	25	JOCA	Yamagata
	〃	Theme A	20	NAYD	Fukuoka
	Singapore	Civil Servants I	24	IHCSA	Akita
	〃	Working Youth	23	DAY	Miyazaki
	Thailand	Youth Leaders	25	NCYOJ	Nigata
	〃	Theme B	15	JSC	Ehime
Jul.10 ~ Aug.9	Korea	Students	30	WYVEA	Toyama
	〃	Teachers	20	IHCSA	Aomori
	〃	Working Youth	30	WYWA	Nara
	〃	Youth Leaders	20	NCYOJ	Hokkaido
Aug.21 ~ Sep.20	ASEAN Group	Civil Servants I	30	IHCSA	Tochigi
	Indonesia	Theme B (Civil Servants)	20	JOCA	Oita
	〃	Agricultural Youth	25	RYEDA	Shiga
	Malaysia	Theme A (Working Youth)	20	JEC	Ibaraki
	〃	Youth Leaders	25	NAYD	Fukui
	Singapore	Civil Servants II	24	DAY	Shizuoka
	〃	Youth Leaders	24	EIL	Okayama
Aug.28 ~ Sep.27	ASEAN Group	Civil Servants II	30	NAYD	Kyushu
	Brunei	Theme A	10	JEC	Osaka
	Philippines	Working Youth (Industrial)	25	JYH	Kyoto
	〃	Theme B	20	JOCA	Kochi
	Thailand	Theme A	15	WYWA	Aichi
	〃	Agricultural Youth	25	RYEDA	Saga
Sep.11 ~ Oct.11	Papua New Guinea	Teachers	20	IHCSA	Nagasaki
	〃	Civil Servants	10	JEC	Gifu
	Fiji	Civil Servants (or Teachers)	12	UNESCO	Kagoshima
	Pacific Countries	Civil Servants	24	WYVEA	Okayama
	〃	Teachers	14	JYH	Ishikawa
	Myanmar	(undecided)	20	WYVEA	Mie
Oct.16 ~ Nov.15	Indonesia	Working Youth	25	WYWA	Gunma
	〃	Students	20	EIL	Hiroshima
	Malaysia	Civil Servants	25	WYVEA	Kagawa
	〃	Theme B (Agricultural Youth)	20	RYEDA	Kumamoto
Nov.6 ~ Dec.6	China	Working Youth (Economic)	25	JEC	Hyogo
	〃	Teachers	25	JOCA	Okayama
	〃	Civil Servants	25	IHCSA	Shimane
	〃	Youth Leaders	25	JSC	Mie
Nov.20 ~ Dec.20	China	(undecided)	25	WYVEA	Tokushima
	〃	(undecided)	25	RYEDA	Gifu
	〃	(undecided)	25	DAY	Okinawa
	〃	(undecided)	25	NAYD	Hiroshima

Theme A : High-Technology Industry in Japan Theme B : Promotion of Agriculture and Local Industry

Note:

NAYD :National Assembly for Youth Development
NCYOJ :National Council of Youth Organization in Japan
WYVEA :World Youth Visit Exchange Association
EIL :Japanese Association of the Experiment in International Living
RYEDA :Rural Youth Education Development Association
JEC :Junior Executive Council of Japan
WYWA :Working Youth Welfare Association
DAY :Development Association for Youth
IHCSA :International Hospitality and Conference Service Association
JOCA :Japan Overseas Cooperative Association
JSC :Japan Seinendan Council
UNESCO :National Federation of UNESCO Association in Japan
JYH :Japan Youth Hostels, Inc.

Youth Invitation Schedule for "Fiendship Programme for the 21st Century" in 1990

Country	Field (Group)	Size (Persons)	Period
Brunei	Teachers・Students ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	20 5 5	May29 ~Jun. 28 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug. 21~Sep. 20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Theme A	5 10	Aug. 28~Sep. 27 〃
Indonesia	Theme A (Students) Teachers ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	15 25 5 5	May29 ~Jun. 28 〃 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Theme B (Civil Servants) Agricultural Youth	5 20 25	Aug. 21~Sep. 20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug. 28~Sep. 27
	Working Youth Students	25 20	Oct. 16~Nov. 15 〃
Malaysia	Students Teachers	20 20	May15 ~Jun. 14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun. 28 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Theme A (Working Youth) Youth Leaders	5 20 25	Aug. 21~Sep. 20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug. 28~Sep. 27
	Civil Servants Theme B (Agricultural Youth)	25 20	Oct. 16~Nov. 15 〃
Philippines	Students Teachers	20 20	May15 ~Jun. 14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun. 28 〃
	Working Youth (Agricultural) Theme A	25 20	Jul. 3 ~Aug. 2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug. 21~Sep. 20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Working Youth (Industrial) Theme B	5 25 20	Aug. 28~Sep. 27 〃 〃
Singapore	Students Teachers ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	15 20 5 5	May29 ~Jun. 28 〃 〃 〃
	Civil Servants I Working Youth	24 23	Jul. 3 ~Aug. 2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I) Civil Servants II Youth Leaders	5 24 24	Aug. 21~Sep. 20 〃 〃
	ASEAN Group (Civil Servants II)	5	Aug. 28~Sep. 27
Thailand	Students (Fine Arts) Working Youth	25 25	May15 ~Jun. 14 〃
	ASEAN Group (Students) ASEAN Group (Teachers)	5 5	May29 ~Jun. 28 〃
	Youth Leaders Theme B	25 15	Jul. 3 ~Aug. 2 〃
	ASEAN Group (Civil Servants I)	5	Aug. 21~Sep. 20
	ASEAN Group (Civil Servants II) Theme A Agricultural Youth	5 15 25	Aug. 28~Sep. 27 〃 〃
Papua New Guinea	Teachers Civil Servants	20 10	Sep. 11~Oct. 11 〃
Fiji	Civil Servants (or Teachers)	12	Sep. 11~Oct. 11
Pacific Countries	Civil Servants Teachers	24 14	Sep. 11~Oct. 11 〃
Myanmar	(undecided)	20	Sep. 11~Oct. 11
China	Working Youth (Economic) Teachers Civil Servants Youth Leaders	25 25 25 25	Nov. 6 ~Dec. 6 〃 〃 〃
	(undecided) (undecided) (undecided) (undecided)	25 25 25 25	Nov. 20~Dec. 20 〃 〃 〃
Korea	Students Teachers Working Youth Youth Leaders	30 20 30 20	Jul. 10~Aug. 9 〃 〃 〃

Theme A : High-Technology Industry in Japan
Theme B : Promotion of Agriculture and Local Industry

JICA